CAMEDIA

OLYMPUS®

デジタルカメラ

C-2100 Ultra Zoom

取扱説明書

■このたびは、オリンパス　デジタルカメラをお買い上げいただき、ありがとうございます。

■ご使用前にこの説明書をお読みください。

■大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能することをお確かめください。

はじめに

このたびはオリンパス　デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- ●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはオリンパスカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- ●本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- ●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
- ●本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、日本電子工業振興協会（JEIDA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

目次

目次（つづき）

3 場面に合った撮影方法を選びましょう 75

4 上手に撮影／再生しましょう 85

目次（つづき）

5 上級テクニックをマスターしましょう　123

6 プリントの設定　161

目次（つづき）

7 パソコンに読み込む 173

8 その他 187

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危 険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電池使用上のご注意

次のことをお守りにならないと、電池の液もれ、発熱、発火、破裂や感電、やけどの原因となります。

⚠ 危険

1. ニッケル水素電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。
2. ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
3. 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊やアルカリ液の飛散が生じ危険です。
4. ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
5. 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に直接接続しないでください。
6. 火中への投下や、加熱をしないでください。
7. 電池の液が目に入った場合は、失明の原因になります。こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠警告

1. 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
2. 電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
   - このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
   - 火中への投下、加熱、ショート、分解をしないでください。
   - 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
   - 充電できないアルカリ電池やリチウム電池を充電しないでください。
   - ＋－を逆にして装着・使用しないでください。
   - 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。
3. ニッケル水素電池の充電が所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
4. 液漏れしたり、変色、変形その他異常を見つけたときは使用しないでください。
5. 電池を誤って飲まないよう乳幼児の手の届かぬ場所で保管及び使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
6. 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。
7. カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。

⚠注意

1. オリンパス製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA　キャメディア」専用です。他の機器に使用しないでください。
2. 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。
3. 乾電池と蓄電池、及び容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
4. 蓄電池は必ず４本（機種によっては2本）同時に充電してご使用ください。
5. 蓄電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
6. 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ、発熱により、火災やけがの原因になります。
7. 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
8. 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など高温の場所で使用・放置しないでください。
9. 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。

その他取り扱い上のご注意

⚠ 警告

1. フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力に回復不可能な程の傷害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して1m以内の距離で撮影しないでください。
2. 日光および強い光に向けて本製品を使用しないでください。目に回復不可能な程の傷害をきたすおそれがあります。
3. 可燃性ガスおよび爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
4. この製品を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生のおそれがあります。
   - 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
   - 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
   - 目の前でフラッシュが発光し、視力に回復不可能な程の障害を起こす。
   - カメラの動作部でけがをする。
5. 湿気やほこりの多い場所にカメラを保管しないでください。火災や感電の原因となります。
6. フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
7. 万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、速やかに電池を抜き、販売店またはオリンパスサービスステーション（裏面参照）にご相談ください。火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

1. 異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、最寄りのサービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
2. 本製品の分解、改造はしないでください。感電やけがをする原因となります。
3. 濡れた手で操作しないでください。感電の危険があります。
4. 異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となります。
5. カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。怪我や事故の原因となることがあります。

ご使用の前に

使用条件

●本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で本製品を使用または保管した場合、動作不良や故障の原因となりますので絶対に避けてください。
- ■ 直射日光下や夏の海岸など
- ■ 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
- ■ 砂、ほこり、ちりの多い場所
- ■ 火気のある場所
- ■ 冷暖房器、加湿器のそば
- ■ 水に濡れやすい場所
- ■ 振動のある場所
- ■ 自動車の中

●カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
●レンズを直射日光に向けて放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。
●長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
●三脚に取り付ける際、カメラを回さないでください。
●本体の電気接点部には手を触れないでください。
●レンズに無理な力を加えないでください。

＊「安全にお使いいただくために」の項の"その他取り扱い上のご注意"もあわせてよくお読みください。

電池について

●電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック２個、あるいは単３ニッケル水素電池、単３ニッカド電池、単３アルカリ電池、単３リチウム電池４本を使用します。

●撮影条件、使用環境及び電池により撮影枚数が減少する場合があります。

●アルカリ電池は使用できますが、電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池CR-V3などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。

●マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。

●電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

●電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

●長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池を使用の場合は、必ず電池で指定された充電器で完全に充電してからお使いください。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池をご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。ニッカド電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。

●シール（絶縁被覆）の一部やシールがすべて剥がれている電池（裸電池）は、危険ですので絶対にご使用にならないでください。

●ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲

放電（機器使用時）：0℃～40℃

充電：0℃～40℃

保存：－20～30℃

上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメ

＊「安全にお使いいただくために」の項の“ 電池使用上のご注意 ”を必ずお読みください。

液晶画面とバックライトについて

●ビューファインダを太陽などの強い光線に向けると、ビューファインダ内部を破損する恐れがあります。

●本製品の液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライト及びコントロールパネルには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）

●一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。

●液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。

●被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。

●液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが、故障ではありません。

●**本製品の液晶画面は、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶画面の構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

主な特徴

■高画質211万画素CCD(総画素数)で、高品位な画像が得られます。
■手振れ補正機能付き10倍ズームレンズと、2.7倍デジタルズームにより、27倍ズーム相当の撮影が可能です。(P.65/92)
■作品づくりに役立つ多彩な露出モード（プログラム、絞り優先、シャッター優先、マニュアル、シーンプログラム）。(P.38)
■多数のポイントを測光し、適切な露出を決定するマルチ測光搭載。(P.126)
■TIFF以外の全モードで、最大2コマ/秒の高速連写が可能です。＊
■動画機能搭載。SQモードで約93秒、HQモードで約23秒のムービー録画と再生が楽しめます。(8MBカード使用時(P.57/64)
■液晶ビューファインダの採用で、撮影中もファインダに情報が表示されます。(P.22/23)
■音声記録対応。ムービー録画と同時に音声録音ができます。また、静止画撮影時の音声メモやアフレコができます。(P.116/133)＊＊
■広視野角TFT液晶モニタを採用。
■枚数を気にせず撮影できる、リムーバブルメモリのスマートメディアを採用(パノラマ機能付)。(P.129)
■AV出力端子付で、画像のテレビ再生も楽しめます(NTSC方式)。(P.70)＊＊＊
■専用外部フラッシュFL-40(別売)をご使用いただくと、高度なフラッシュ撮影ができます (P.106－108)。
■単3型ニッケル水素電池の他に、リチウム電池パック（より長持ちします）も使用できます。

＊画質モード設定：SQ標準のとき
＊＊ このカメラで音声の再生はできません。テレビやパソコンに接続して再生してください。
＊＊＊海外では地域によりご利用になれません。

こんな楽しみ方もできます

機能付きスマートメディアを使う（合成写真の作成）

別売のオリンパス機能付きスマートメディアでパノラマ写真やメッセージカード、挨拶状、カレンダーなどを簡単に作成することができます。お好みに合わせてお楽しみください。

●パノラマ合成機能付き標準カード（8MBのみ本カメラに付属されています。）とCAMEDIA Masterを使用 (P. 129参照)

●テンプレートカードM-4T (4MB)を使用

●カレンダーカードM-4C (4MB)を使用

●手書きタイトルカードM-4N (4MB)

手書きタイトルカードを使うと、手書きの文字やイラストと写真とを簡単に合成することができます。メッセージ入りのオリジナルカードや年賀状等が作成できます。

別売のアクセサリーを使う

●外部フラッシュFL-40（P. 106ー108）をカメラに取り付けると、より大量の発光により思いのままの撮影が可能となります。カメラのフラッシュモードと連動させると撮影範囲がさらに広がります。（ご使用には別売の専用グリップFL-BK01、専用ブラケットケーブルFL-CB01が必要です。）
●通信アダプタT-100HS(別売)にモデムカードを組み合わせて、携帯電話から画像を伝送できます。
●ステップアップリングを使えば、ワイドコンバージョンレンズやマクロコンバージョンレンズ（別売）が使えます。

注意： コンバージョンレンズを使用するときは、手振れ・内蔵フラッシュ・AFイルミネータがはたらきません。

パソコンで画像を加工する

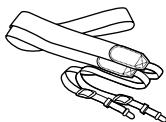
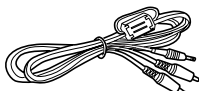
●撮影した写真を、別売のCAMEDIA Masterを使い、パソコン上で加工・保存・プリントできます。加工には、画像の明るさ調整・パノラマ合成写真・テンプレート合成写真などがあり、多彩な機能をお楽しみいただけます。
●パソコンとの通信には、シリアル／USBケーブルのどちらも接続できます。（P.176）
●CAMEDIA Master 2.0以上をご使用ください。（2.0より低いバージョンでは、音声の再生やUSBケーブルでの接続などに対応していません。）

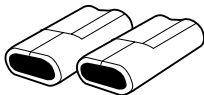
その他

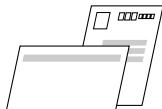
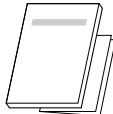
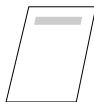
●専用プリンタP400/P-330Nを使えばスマートメディアから簡単にプリントアウトできます。（P.162）
●DPOF対応プリンタ（P400/P-330N)やDPOF対応のプリントサービスを行っているお店でプリントの指示をしなくても、プリント予約を行った画像を自動的にプリントすることができます。（P.162）

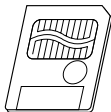
パッケージの中身

カメラ本体

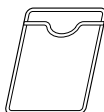
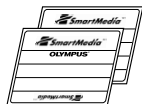
ストラップ

AVケーブル

リモコン

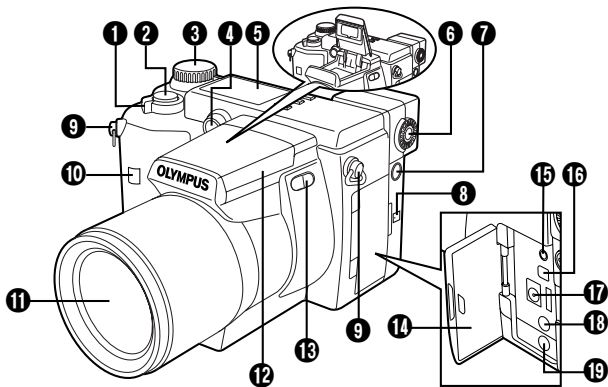
3Vリチウム電池パック LB-01（2個）

レンズキャップ

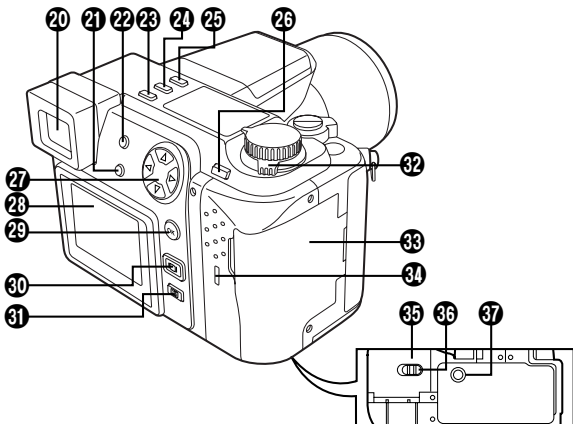
保証書／ご愛用者登録はがき

取扱説明書（本書）/使い方早わかりガイド

リモコン取扱説明書

8MB スマートメディア（1枚）

スマートメディア用静電気防止ケース

スマートメディア用ラベル（2枚）

スマートメディア用ライトプロテクトシール（4枚）

スマートメディア取扱説明書

各部の名前

カメラ本体

❶ズームレバー (T/W) (P. 65参照)／インデックス再生レバー (T/W) (P. 119参照)
❷シャッターボタン(P. 61参照)
❸モードダイヤル(P. 38参照)
❹セルフタイマーランプ／AFイルミネータ(P. 62/113/115/151参照)
❺コントロールパネル(P. 21参照)
❻視度調節ダイヤル(P. 58参照)
❼外部フラッシュ端子(P.106参照)
❽録音マイク(P.117参照)
❾ストラップ取付部(P. 26参照)
❿リモコン受信窓(P. 115参照)
⓫レンズ
⓬フラッシュ(P. 66/100～110参照)
⓭フラッシュスイッチ (P. 66/102/107参照)
⓮コネクタカバー (P. 70/117/181参照)
⓯データ入出力端子 (P. 176～181参照)
⓰USB接続端子 (P. 176～181参照)
⓱DC入力端子(P.31参照)
⓲外部マイク端子 (P. 117参照)
⓳A/V出力端子(P.70参照)

各部の名前（つづき）

⑳ ビューファインダ(P. 22/23/59参照)
㉑ INFOボタン(P. 22参照)
㉒ フラッシュモードボタン(⚡)(P. 100/102参照)／消去ボタン(🗑) (P. 71/72参照)
㉓ ドライブボタン(DRIVE)(P. 96/111/112/132参照)
- 再生時このボタンを押すと、マクロボタン／測光モードボタンを使って、回転させた画像を元の縦位置に戻せます。

㉔ 測光モードボタン([◙])(P. 94/132参照)
- 再生時このボタンを押すと、縦位置に撮影した画像を反時計方向に90度回転できます。

㉕ マクロボタン(🌷)(P. 84/132参照)
- 再生時このボタンを押すと、縦位置に撮影した画像を時計方向に90度回転できます。

㉖ AEロックボタン(AEL)(P. 124参照)／マルチ測光ボタン (P. 127参照)／プリント予約ボタン(凸)(P. 162～172参照)
㉗ 十字ボタン(P. 39～41参照)
㉘ 液晶モニタ(P. 22/23/59参照)
㉙ OKボタン(P. 41参照)／マニュアルフォーカスボタン(MF)(P. 88参照) /プロテクトボタン(O-π)(P. 73参照)
㉚ 液晶モニタボタン([□])(P. 59参照)
㉛ メニューボタン([☰])(P. 39参照)
㉜ パワースイッチ(POWER OFF/ON/RESET)(P. 52参照)
㉝ カードカバー(P. 34参照)
㉞ カードアクセスランプ(P. 61参照)
㉟ 電池カバー(P. 27/28参照)
㊱ 電池カバーロック(P. 27/28参照)
㊲ 三脚穴(P. 106参照)

コントロールパネル表示

表示	内容
	：フラッシュモード（P.100）
SLOW	：スローシンクロ（P.105）
	：フラッシュ露出補正（P.103）
	：カード書き込み（P.61）
	：録音（P.117）
	：カード警告（P.55/197）
	：電池残量（P.54）
BKT	：オートブラケット（P.96）
	：マクロモード（P.84）
F-AF	：フルタイムAF（P.89）
WB	：ホワイトバランス（P.128）
ISO	：ISO感度（P.95）
	：セルフタイマー／リモコン（P.113/114）
AF	：連写（P.112）
	：露出補正（P.93）
AF	：AF方式（P.90）
MF	：マニュアルフォーカス（P.88）
	：手振れ補正（P.91）
ESP	：測光モード（P.94）
MEMO	：AEメモリ（P.124）
TIFF SHQ SQ	：画質モード（P.98）
8888	：撮影可能枚数（P.57）
sec	：撮影可能秒数（P.57）

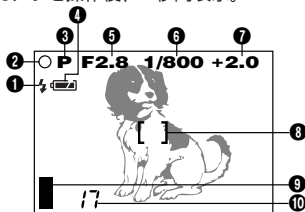
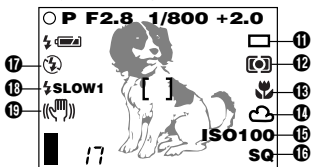
各部の名前（つづき）

ビューファインダ／液晶モニタ表示（撮影情報）

[IOI]（液晶モニタボタン）を押すたびに、画像の表示をビューファインダ・液晶モニタ間で切り替えられます。また、各種撮影情報はINFOボタンを押すたびに、表示する情報量が変わります(P.20)。表示は3段階のなかから選べます。

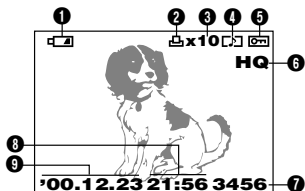
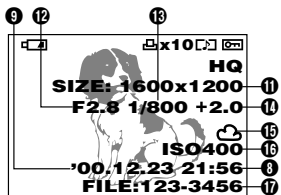
撮影時

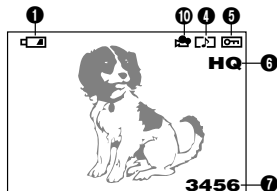
AFターゲットのみ表示：
オートフォーカス合焦マークと電池残量は、警告時のみ表示。カメラ操作後、設定変更内容（または設定内容）を2秒間表示。

特定の表示のみ：
カメラを操作後、2秒間表示。

上の画面よりさらに多くの情報を表示：
撮影中、常に表示。

❶フラッシュ発光予告(P.66/102)／手振れ秒時警告／フラッシュ充電中マーク
❷オートフォーカス合焦マーク(P.62)
❸撮影モード(P.38)
❹電池残量（電源を入れたあとと警告時のみ表示）(P.54)
❺絞り値(P.81/83)
❻シャッター速度(P.82)
❼露出補正／露出状態(P.93)
❽AFターゲットマーク(P.61/62)
❾メモリゲージ(P.63)
❿撮影可能枚数
⓫ドライブモード(P.96/111ー114)
⓬測光モード(P.94)
⓭マクロモード(P.84)
⓮ホワイトバランス(P.128)
⓯ISO感度(P.95)
⓰画質モード(P.98)
⓱フラッシュモード(P.100)
⓲スローシンクロ（フラッシュモードが発光禁止のときは、表示しません）(P.105)
⓳手ぶれ補正(P.91)

再生時

すべての表示を出さない：ただし、電池警告マークや動画コマのみ表示。
特定の表示のみ：一定時間後、撮影情報表示は消えます。
すべてを表示：再生中、すべての撮影情報を常に表示します。

静止画の場合

特定の表示のみ

すべてを表示

動画の場合

特定の表示のみ

すべてを表示

❶ 電池残量(P.54)
❷ プリント予約マーク(P.163/164)
❸ プリント枚数(P.167)
❹ 録音マーク(P.133)
❺ プロテクトマーク(P.73)
❻ 画質モード
❼ コマ番号
❽ 時刻
❾ 日付
❿ 動画マーク(P.69)
⓫ 画像サイズ
⓬ 絞り値
⓭ シャッター速度
⓮ 露出補正値
⓯ ホワイトバランス
⓰ ISO感度
⓱ ファイル番号（ムービー再生中では、記録時間を表示します。）

メモ

動画の場合は、画像を選択して表示したときと、ムービー再生中で表示内容が異なります。(P.69)

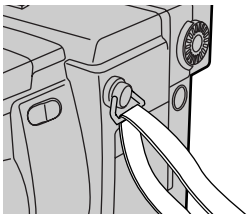
1

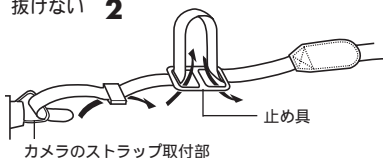
準備しましょう

この章では、電池、スマートメディアの入れ方、モードダイヤルやメニュー画面の操作方法など、カメラをお使いになるまえに知っておいていただくことについて説明しています。

ストラップを取り付ける

1 ストラップをストラップ取付部の金具にとおします。

1

2 図の矢印に従い、ストラップをとおします。ストラップを引っ張っても、止め具のところでゆるまない、抜けないことを確かめます。

2

3 もう一方の金具にも手順１、２のとおりにして、ストラップを取り付けます。

注意

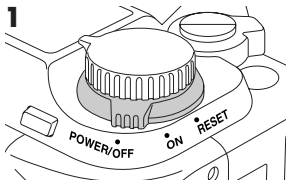
●カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。怪我や事故の原因となることがあります。
●上の図にしたがってストラップは正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れて本体を落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

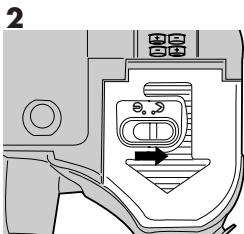
電池を入れる

電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック２個、あるいは単３ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池４本を使用します。

重要： リチウム電池パックCR-V3のラベルは、剥がさないでください。
端子部に絶縁シールが貼られている場合は、そのテープのみはがしてお使いください。

1 カメラのパワースイッチが、OFFになっていることを確かめます。

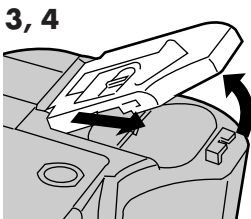
1

2 電池カバーロックを、 ⊘ の方向へスライドします。

2

3 電池カバーをカバーに刻印された矢印（カメラレンズの方向）にしたがってスライドさせます。

● カバーをスライドさせるときは指の腹を使ってあけてください。爪などを使うとけがをすることがあります。

4 電池カバーを開けます。

3, 4

1 準備しましょう

電池を入れる（つづき）

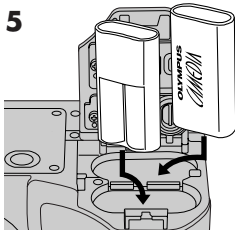
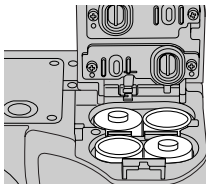
5 **電池を入れます。**

●リチウム電池パックをお使いの場合

右図に従って電池方向を間違わないように挿入してください。逆向きに挿入された電池は途中までしか入りません。

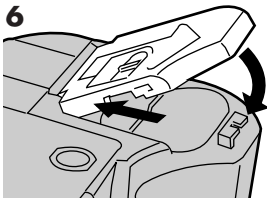
●単３電池をお使いの場合

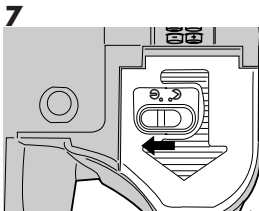
右図に従って電池の＋、ー方向を間違わないように挿入してください。

5

リチウムパックをご使用のとき

単３電池をご使用のとき

6 **電池カバーで電池を押さえながら閉じて、カバーの矢印の刻印と逆方向へスライドさせます。**

● カバーの端を押すと、カバーが閉まりにくくなります。
● カバーは閉じた状態で固定されます。

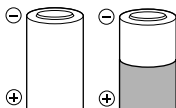
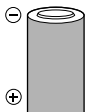
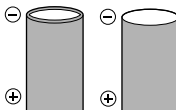
6

7 **電池カバーロックを、⊖ の方向へスライドします。**

7

注 意

- CR-V3（当社製LB-01)リチウム電池パックは、充電できませんのでご注意ください。
- アルカリ電池は性能のバラツキが大きく、特に低温では劣化します。リチウム電池パック又はニッケル水素電池のご使用をおすすめします。
- マンガン電池は使用できません。電池に関するご注意をお読みください。(P.13参照)
- 電池室内の電極が汚れていると、電池の寿命が著しく短くなります。電池を外した状態で内部をさわらないでください。
- 電池を外した状態で約１週間放置すると、全ての設定は初期設定に戻ります。

⚠ 警告

外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

●このような形状の電池はご使用になれません

電池を入れる（つづき）

リチウム電池パック（同梱）の寿命

同梱のリチウム電池パック(LB-01)で撮影できる枚数、再生できる時間は以下の表に示すとおりです。ただし、電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なりますので、ご注意ください。

同梱リチウム電池パックCR-V3（LB-01）使用での電池寿命

撮影／再生	条件	電池寿命
撮影枚数	①	約200枚
再生時間	②	約330分

＊表中の数値は参考値であり保証ではありません。

使用条件

① 2枚連続撮影～10分放置～2枚連続撮影～10分放置の繰り返し。(常温25℃)、フラッシュ発光50％、各撮影につきズーム1往復、フルタイムAFオフ、デジタルズームオフ、(再生、パソコンとの通信無し。)

② 自動再生モードによる連続再生、スリープ直後にパワーオンして、再度自動再生の繰り返し。

注意

- パソコンと接続してお使いの場合は、別売のACアダプタのご使用をおすすめします。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を消費しており、撮影可能枚数が減少することがあります。
  - 撮影モードでシャッターボタンの半押しをして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - ズーム動作を繰り返す。
  - フルタイムAFをオンしている。
  - 再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
  - パソコンとの通信時。

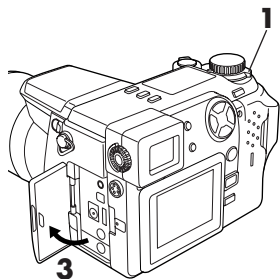
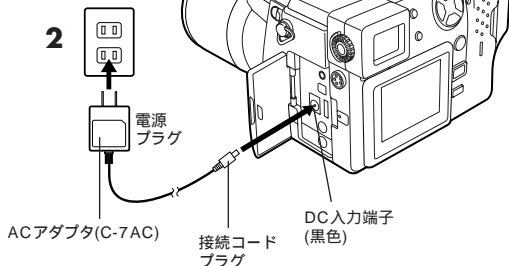
家庭用電源を使う

家庭用コンセントにつなげるには、専用ACアダプタ(別売、C-7AC)が必要です。電源は必ずAC100Vをご使用ください。

1 **カメラのパワースイッチが、OFFになっていることを確かめます。**

2 **ACアダプタの電源プラグを、コンセントにしっかりと差し込みます。**

3 **カメラの端子カバーを開けて、DC入力端子に接続コードプラグを接続します。**

4 **使用後は必ずカメラの電源を切り、接続コードプラグをカメラから抜き、次に電源プラグを家庭用電源コンセントから抜きます。**

矢印の方向に従って端子カバーをあけます。

注意

● ACアダプタを長時間接続するとACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。

電池を入れる（つづき）

⚠ **警告**

火災・感電・やけどのおそれがあります。

●専用のACアダプタ（C-7AC）（EIAJ規格・極性統一型プラグ付）以外は絶対に使わないでください。カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた障害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。

●ACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。ACアダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。

●以下の場合はただちに使用を中止し、販売店・当社サービスステーションに御相談ください。

- ACアダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
- ACアダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があった場合。

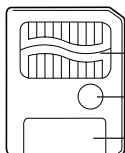
●別売のACアダプタ(C-7AC)は日本国内用です。海外ではご使用になれません。

スマートメディアを入れる・取り出す

スマートメディアとは？

オリンパスのデジタルカメラCAMEDIA用の記録媒体で、撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。スマートメディア中に記録された画像は自由に削除したり上書きしたり、コンピュータで加工することができます。この取扱説明書では、スマートメディアのことを「カード」と呼んでいます。

使用できるスマートメディア

- 同梱の8MBの標準カード（パノラマ合成機能付き）
- 別売のオリンパス社製2MB/4MB/16MB/32MB/64MB
- 市販の3V (3.3V)カード2MB/4MB/16MB/32MB/64MB

❶ **接触面（コンタクトエリア）**
カメラが接触する部分です。

❷ **ライトプロテクトエリア**
書き込み禁止状態にしたいときは、ここに同梱のライトプロテクトシールを貼ります。

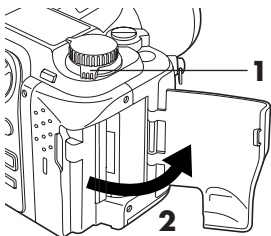
❸ **インデックスエリア**
カードに保存されている内容がわかるようにここに同梱のラベルを貼ります。

スマートメディアのお取り扱い上の注意

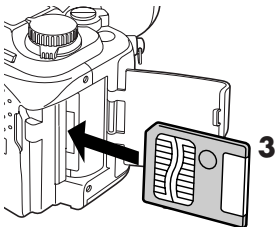
- 動作温度：0℃〜55℃、保管温度：−20℃〜65℃、
  動作・保管湿度：95%以下
- 保管時・携帯時は、静電気防止ケースに入れてください。
- カードを曲げたり、衝撃を与えないでください。
- スマートメディアの取扱説明書（同梱）もお読みください。
- カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。
- 市販の5Vカードは使用できません。当社カードまたは市販の3V（3.3V）カードをご使用ください。
- 市販の3V（3.3V）カードをご使用の場合、カメラでの初期化をおすすめします。(P.36参照)

スマートメディアを入れる・取り出す（つづき）

スマートメディアを入れる

1 **カメラのパワースイッチが、OFFになっていることを確かめます。**

2 **カードカバーを開けます。**

3 **カードの向きを図のようにして、カメラに押し込みます。**

● カードを表裏逆にしたり、入れる向きを逆にして押し込むと、抜けなくなることがあります。
● 機能付きスマートメディア（別売）の場合も、同様に挿入してください。

4 **カードカバーを閉めます。**

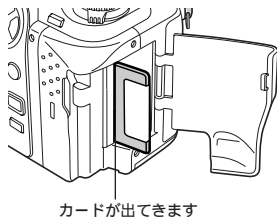
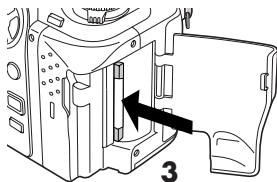
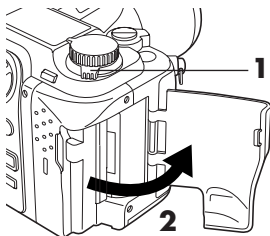
カードを押し込みます

スマートメディアを取り出す

1 **カメラのパワースイッチが、OFFになっていることを確かめます。**

2 **カードカバーを開けます。**

3 **カードを押します。**
- カードが取り出しやすい位置まで、出てきます。

4 **カードをつまんで引き抜きます。**

注意

- カメラ作動中には、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、電源プラグを抜いたりしないでください。<u>カード内のデータが破壊されることがあります。</u>
- 破壊されたデータの復旧はできません。

新しいカードを使うときは〜初期化する

カードを書き込み可能な状態にする〜フォーマット

初期化とはカードを使用機器で書き込みできるフォーマットに変えることです。オリンパス製初期化済みカードの使用をおすすめしますが、パソコンなど他の機器でフォーマットされたカードや、当社カード以外の市販カードは、お使いになる前にあらかじめカメラで初期化してください。

1 パワースイッチをONにします。モードダイヤルを撮影モードにします。（P、A、S、M、S-Prg、🎥）

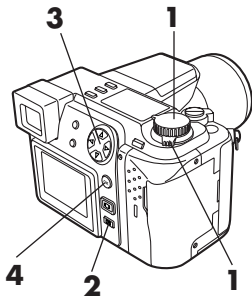
2 ☰（メニューボタン）を押します。

● 撮影モードのときは、メニューは被写体を表示しているビューファインダで表示されます。 ▣（液晶モニタボタン）を押すと、液晶モニタに表示できます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「カードセットアップ」を選択し、 ▷ を押します。

● 設定内容が表示されます。

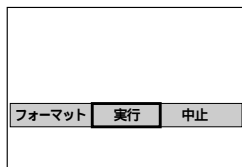
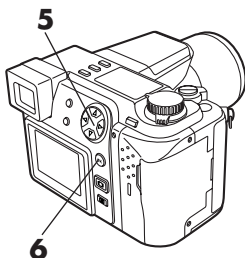
4 OKボタンを押して、「フォーマット」を選択します。

● 確認画面が表示されます。

画面は静止画時のものです。

5 ◁ ▷ を押して「実行」を選択します。

● 初期化したくないときは、「中止」を選択してください。

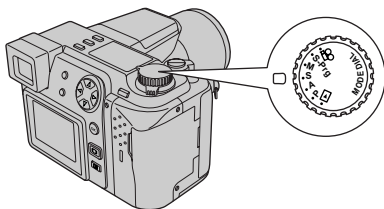
6 OKボタンを押して選択を決定します。

● カードアクセスランプが点滅し、初期化が始まります。
● 初期化が終わると、メニュー画面が消えます。

確認画面

注意

● 初期化するとプロテクトをかけた画像を含む既存のデータは消滅します。使用済みカードを初期化するときには、大切なデータを消さないようにご確認ください。
● オリンパス製以外のカード及びパソコンで初期化あるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなることがあります。このようなときはカメラで再度初期化を行うことをおすすめします。
● カードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、初期化を受け付けません。

モードダイヤルの設定

カメラ本体上部のモードダイヤルを切り替えることで、以下のようにカメラの動作が変わります。

P (プログラム撮影)：
シャッターを押すだけで、きれいな写真がとれます。
絞り値、シャッター速度はカメラが自動的に決めます。

A（絞り優先撮影）：
背景の描写に変化をつけたいときに。
絞り値を設定して撮ります。シャッター速度はカメラが自動的に決めます。

S（シャッター優先撮影）：
動いているものを止めて移したいとき（高速）や、動いているものの軌跡を残したいとき（低速)。
シャッター速度を設定して撮ります。絞り値はカメラが自動的に決めます。

M（マニュアル撮影）：
絞り値とシャッター速度の両方を設定して撮ります。

S-Prg（シーンプログラム撮影）：
撮影する被写体に応じた絞り値とシャッター速度の組み合わせを、カメラが自動的に決めます。ポートレート・スポーツ・記念撮影・夜景がメニュー画面で選択できます。「場面に合わせた撮影をしましょう」(P. 76～80）もあわせて、お読みください。

（動画撮影）：
動画を撮影します。絞り値とシャッター速度は、カメラが自動的に決めます。

（再生）：
撮影した画像を再生します。

メニュー画面の操作方法

ボタンで行う以外のカメラのモード設定や、その他の機能は、液晶モニタを見ながらメニューを表示させて設定します。メニューはモードダイヤルの設定によって、異なります。

メニュー一覧（P．42～47）を参照して、使いたい機能を選んでください。その機能によって、モードダイヤルの設定が決まります。

静止画撮影メニュー：P、A、S、M、S-Prg
動画撮影メニュー　：
静止画再生メニュー：
動画再生メニュー　：

1 （メニューボタン）を押します。

● メニューは、ビューファインダまたは液晶モニタのうち、それまで画像を表示していたほうに表示されます。

2 十字ボタン（△/▽）で設定したい項目を選択します。

● 緑の枠が移動して、項目名が緑で表示されます。
●「モード設定」を選択する場合は、P. 138～141をお読みください。

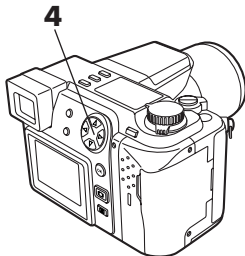
3 ▷ を押して、選択した項目の設定に移ります。

● 緑の枠が右に移動して、その項目の設定一覧が表示されます。

メニュー画面表示内容

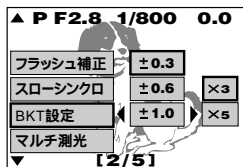
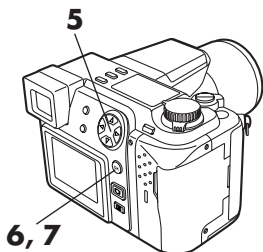
1 準備しましょう

4 △/▽ で設定内容を選択します。

- 選択されている設定内容は、緑色で表示されます。
- 選択した設定内容に、新たな設定内容がある場合は、手順**5**へ進みます。選択した設定内容だけの場合は、手順**6**へ進みます。

5 選択した設定内容に、新たな設定内容がある場合

▷ を押して次の設定項目へ移動してから、△ / ▽ を押して設定を選択します。

6 設定が終わったら、OKボタンまたは◁ を押して、設定項目名に戻ります。

● 緑枠が左へ移動して、右側には選択された設定が表示されます。
● 撮影モード（モードダイヤルは ▶ 以外にセット）のときは、ここで撮影できます。

7 OKボタンを押します。

● 設定が保存されメニュー画面が消えて、通常の画面に戻ります。

（例）BKT設定

こんなときは

● メニュー画面で前ページに戻りたい（次ページに進みたい）
→ メニューの選択枠が最下段（または最上段）にあるときに、十字ボタンの ▽ （または △）を押すと、次のページへ移動します。最終ページの場合は、 ▽ を押すと1ページ目に戻ります。1ページ目では、 △ を押すと最終ページへ移動できます。

● メニュー操作をキャンセルしたい
→ メニューボタンを押してください。設定内容もキャンセルされて、通常の画面に戻ります。

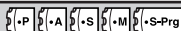
● 再生モードで、メニュー画面が表示されない
→ カードに画像が保存されていないと、メニュー画面は表示されません。

● 設定内容を保存したい
→ モード設定で、「設定クリア」ー「オフ」に設定してください。電源を切っても設定した内容は保存されています。（P. 142）

● 設定した項目が機能しない
→ 設定項目を選択後にOKボタンが押されていません。再度設定をやり直し、OKボタンを押してください。

撮影メニュー一覧

このカメラでは以下に示す項目の設定が可能です。被写体に応じてお好みの設定を行ってください。以下のメニューの設定（P. 42～47）をするには、メニュー操作のページ（P. 39～41)、またはそれぞれの機能のページを参照してください。

静止画撮影メニュー

P A S M S-Prg

静止画撮影モード（P、A、S、M、S-Prg）で表示されます。

メニューページ	表示	機能	初期設定
1/5	**手振れ補正**	シャッターを切る際のカメラの小さな振動で、画像がぶれないように補正します。(P. 91)	オン
	デジタルズーム	2.7倍のデジタルズームができます。(P. 92)	オフ
	ホワイトバランス WB	光源に合わせてホワイトバランスを設定。(P. 128)	オート
	ISO感度 ISO	ISO感度を設定。(P. 95)	オート
2/5	**フラッシュ補正**	フラッシュの発光量補正に。(P. 103)	±0
	スローシンクロ SLOW	夜景撮影時に。(P. 105)	オフ
	BKT設定 BKT	オートブラケット撮影の条件を設定します。(P. 96)	±1.0／x3
	マルチ測光	被写体の複数の位置を測光し、適正な露出を決めます。(P. 126)	オフ

メニューページ	表示	機能	初期設定
3/5	**AF方式** AF	オートフォーカスでピントを合わせるときの画面内での範囲を変えられます。(P. 90)	iESP
	フルタイムAF F-AF	シャッターボタンを半押ししなくても、カメラは常にピント合わせの動作を繰り返します。(P. 89)	オフ
	録音モード	撮影後に音声メモができます。(P. 116)	オフ
4/5	**機能カード**	パノラマ画像作成用などカード機能使用時に。(P. 129)	—
	ファンクション撮影	特殊撮影（モノクロ／セピア／白板／黒板）ができます。(P. 131)	オフ
	カードセットアップ	カードの初期化をします。(P. 36)	—
5/5	**モード設定**	カメラを使い方に合わせて設定します。P. 138のモード設定一覧をご覧ください。	—
	S-Prg設定	撮影場面に合わせたS-Prgのモードを設定します。(P. 76〜80)	ポートレート
	画質 TIFF SHQ HQ SQ	画質モード(TIFF/SHQ/HQ/SQ)の設定。(P. 98)	HQ

動画撮影メニュー

動画撮影モード（）で表示されます。

メニューページ	表示	機能	初期設定
1/3	手振れ補正	シャッターを切る際のカメラの小さな振動で、画像がぶれないように補正します。(P. 91)	オン
	デジタルズーム	2.7倍のデジタルズームができます。(P. 92)	オフ
	ホワイトバランス WB	光源に合わせてホワイトバランスを設定。(P. 128)	オート
	ISO感度 ISO	ISO感度を設定。(P. 95)	オート
2/3	マルチ測光	被写体の複数の位置を測光し、適正な露出を決めます。(P. 126)	オフ
	AF方式 AF	オートフォーカスでピントを合わせるときの画面内での範囲を変えられます。(P. 90)	iESP
	フルタイムAF F-AF	シャッターボタンを半押ししなくても、カメラは常にピント合わせの動作を繰り返します。(P. 89)	オフ
	録音モード	撮影中の音声の記録をする・しないを選択します。(P. 116)	オン

メニューページ	表示	機能	初期設定
3/3	**ファンクション撮影**	特殊撮影（モノクロ／セピア）ができます。(P. 131)	オフ
	カードセットアップ	カードの初期化をします。(P. 36)	－
	モード設定	カメラを使い方に合わせて設定します。P. 138のモード設定一覧をご覧ください。	－
	画質 **HQ SQ**	画質モード（HQ/SQ）の設定。(P. 98)	HQ

再生メニュー一覧

再生メニュー

静止画コマを再生しているときに表示されます。

メニューページ	表示	機能	初期設定
1/1	**自動再生**	自動的にコマ送りで再生します。(P. 121)	—
	録音	撮影済みの画像に音声を付けます。(P. 116)	—
	ファンクション再生	機能付きカード（別売）を使って、合成画像を作れます。機能付きカード使用時以外は、選択できません。	—
	カードセットアップ	全コマ消去(P. 72)、及びカードの初期化をします(P. 36)。	—
	モード設定	カメラを使い方に合わせて設定します。P. 138のモード設定一覧をご覧ください。	—

動画コマを再生しているときに表示されます。

メニューページ	表示	機能	初期設定
1/1	**ムービー再生**	動画をムービー再生するときに。(P. 68)	–
	ファンクション	ムービーの内容を一覧できるインデックスを作成したり（P. 134)、ムービーの編集時に（P. 136)。	–
	カードセットアップ	全コマ消去(P. 72)、及びカードの初期化をします(P. 36)。	–
	モード設定	カメラを使い方に合わせて設定します。P. 138のモード設定一覧をご覧ください。	–

日時の設定

カメラに内蔵されている時計の時間と日付の設定をします。
撮影した画像に日時を入れることができます。

1 **(メニューボタン）を押します。(P. 39)**

● メニュー画面が、表示されます。
● カードに画像が記録されていないときは、 以外のモードにします。

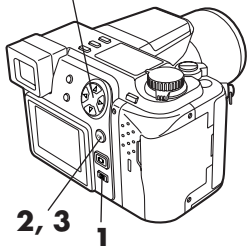
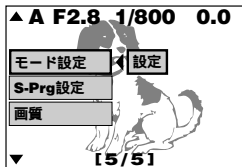
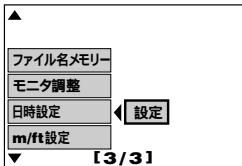
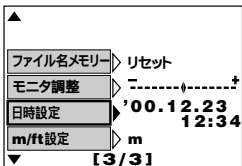
2 **十字ボタンで（△ / ▽ / ▷）「モード設定」ー「設定」を選択し、OKボタンを押します。**

● モード設定画面が表示されます。

3 **△（または ▽ ）で「日時設定」を選択し、 ▷ を押します。右側に「設定」が表示されたら、OKボタンを押します。**

● 日時設定画面が表示されます。

4 **が選択されているときに、 △ ▽ を押して日付の順序を選択します。**

● 順序は
DMY(日・月・年)、
MDY(月・日・年)、
YMD(年・月・日)、
の中から選択します。

画面は静止画撮影メニュー

モード設定画面

5 ▷ を押して、年(Y)の設定に移動します。

6 △ ▽ を押して、年を設定します。年が確定したら、 ▷ を押して月の設定に移動します。

●「分」までの設定を同様に繰り返します。

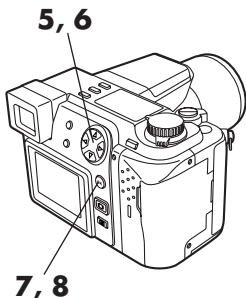
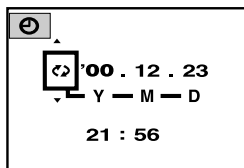
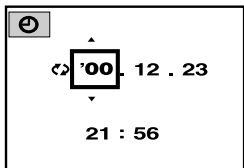
7 OKボタンを押します。

● 0秒の時報に合わせてOKボタンを押すと、正確に時間を合わせられます。
時計はこのとき動き始めます。

● モード設定画面に戻ります。

8 OKボタンを2回押します。

● メニューが消えます。

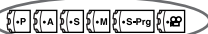
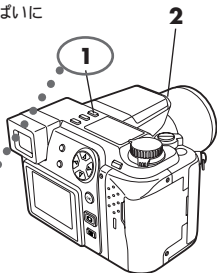
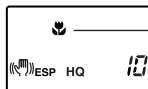
● 電源を切っても、設定は変更をするまで保存されます。

日時設定画面

● 2000年は 00 と表示されています。

注 意

●電池を抜いた状態で約1週間放置すると、設定した日付は解除されます(当社試験条件による)。この場合は再度日時の設定を行ってください。また、カメラに電源を入れていた時間が短かった場合は、これよりも早く日付けが解除されます。

本説明書の読み方

第２章以降の操作手順をする前に、知っておくべき表記のルールがあります。以下をよくお読みのうえ、カメラを操作してください。

モードダイヤルの設定
操作手順の前に、モードダイヤルをこの位置にセットしてください。モードダイヤルのセット位置が表示されていないときは、どの位置でも使える機能であることを意味します。

操作するボタン、コントロールパネル／ファインダーの表示を示しています。

どの手順で操作するかを示しています。

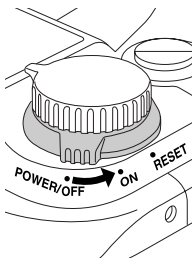
1
準備しましょう

2

使ってみましょう～撮影と再生の基本

この章では、カメラの扱い方、簡単な撮影、再生の仕方、画像の消し方など、基本的な操作について説明しています。これらの説明を順に読みながら操作して、カメラの扱いに慣れてください。

電源を入れる

■パワースイッチセット位置

OFF　：電源切

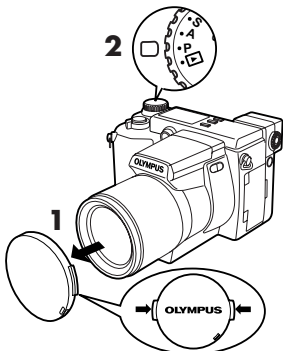
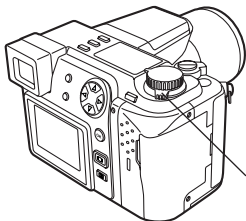
ON　：電源入

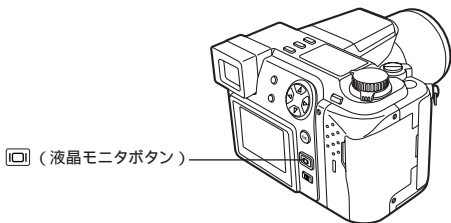
RESET　：● この位置にセットして指をはなすと、パワースイッチは自動的にONの位置に戻り、メニューやボタン操作で行う設定が工場出荷時の状態にリセットされます。（モード設定（P.138）は除く）
● 3秒以上指をはなさずにこの位置にセットしていると、ピーという音がして日時以外のすべての設定が工場出荷時の状態にリセットされます。

1 **図の矢印にしたがって、レンズキャップの端を押して外します。**

2 **モードダイヤルをPにします。**

3 **パワースイッチをONにします。**
● コントロールパネルに、電池残量と撮影できる枚数が表示されます。(P. 54/55)
● ビューファインダに被写体が表示されます。
● 液晶モニタで撮影したい場合は、[IOI]（液晶モニタボタン）を押すと、切り替えることができます。(P. 59)

4 **はじめてカメラを使うときは、日付と時刻を設定します。(P. 48)**

液晶モニタを使って撮影する

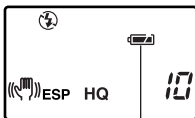
[IOI]（液晶モニタボタン）を押します。ファインダと同じ表示が、液晶モニタに表示されます。押すたびに被写体の表示位置がビューファインダ、液晶モニタの間で切り替わります。

撮影モード(P、A、S、M、S-Prg、🎥)でパワースイッチをONにしたときは、ビューファインダで表示します。再生モード(▶)でパワースイッチをONにしたときは、液晶モニタで表示します。表示を切り替えるときは、電源を入れたあと[IOI]（液晶モニタボタン）を押します。

注 意

- カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊される恐れがあります。
- 何も操作をしないで1分経過すると、カメラはスリープ状態（待機状態）になります。何か操作をすると、再び動作を始めます。スリープ状態までの時間は、設定できます。(P. 153)しばらく撮影しないときは、できるだけ電源を切っておいてください。

表示を確認します

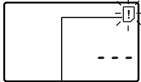
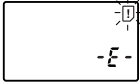
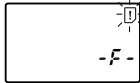
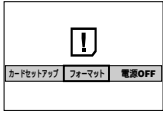
電池残量を確認する

電源を入れると、コントロールパネルに電池残量が次のように表示されます。
電池残量が少なくなったら、新しい電池に交換してください。また、ニッケル水素電池やニッカド電池をご使用の場合は、充電を行ってください。

が点灯（自動的に消えます）。

電池の残量は十分です。撮影できます。

が点滅し、コントロールパネルの他の表示は通常通り点灯。

電池の残量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。
撮影は可能ですが、途中で電池が切れる恐れがあります。

が点滅し(12秒後に消灯)、コントロールパネルの他の表示は消灯。

電池の残量がなくなりました。新しい電池と交換してください。

注意

- ●使用する電池の種類によって、残量表示のタイミングが変わりますので、ご注意ください。
- ●電池を使用して電池の寿命末期に撮影した場合、撮影後または電源を入れたときに「ピピッ　ピピッ　ピピッ」と連続して警告音が鳴り、コントロールパネルのコマ番号が点滅することがあります。このような場合は撮影が正常に行なわれておりません。新しい電池に交換のうえ再度撮影を行なってください。

カードチェックについて

電源を入れると、カードチェックが自動的に行われます。

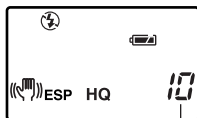
コントロールパネル - - - カード警告マーク	**カードがカメラ中に入っていないときに表示されます。**液晶モニタにも同時に「カードを認識できません」の表示が出ます。 →カードを挿入してください。
コントロールパネル -E-	**カードに問題があるときに表示されます。**液晶モニタにも同時に「このカードは使用できません」の表示が出ます。 →フォーマットを行うか新しいカードを使用してください。
コントロールパネル -F- カードセットアップ　フォーマット　電源OFF	**カードの初期化が必要なときに表示されます。**液晶モニタにも同時にフォーマット画面が表示されます。 →カードのフォーマットを行ってください（P.36）。 十字ボタンで「フォーマット」を選択して、OKボタンを押すとカードの初期化のメニューに移ります。(P. 36) フォーマットが終了すると、液晶モニタは撮影する被写体の画面に変わります。

表示を確認します（つづき）

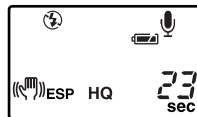
撮影できる枚数／時間を確認する

電源を入れると、コントロールパネルに静止画では撮影できる枚数が、動画では撮影できる時間が以下に示すように表示されます。

● モードダイヤルをA、S、M、P、S-Prgにして、電源を入れた場合...

撮影できる枚数が表示されます。

撮影可能枚数

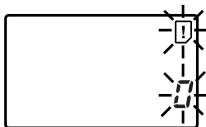
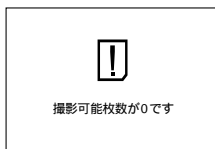
● モードダイヤルを 🎥 にして、電源を入れた場合...

撮影できる秒数が表示されます。

撮影可能秒数

● 静止画モードで撮影できる枚数が0になった場合...

撮影可能枚数が0になると「ピー」という音が鳴り、以下のような表示がコントロールパネル、ビューファインダに表示されます。

この場合は、新しいカードや空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を削除してカードに空き容量を作るなどの処置をとってください（P. 71/72）。

コントロールパネル

ビューファインダー

撮影可能枚数

撮影できる枚数（秒数）は、画質モードやカードの容量によって変わります。プリント予約や、音声の記録の有無によっても変わります。

静止画撮影可能枚数（枚）

画質モード		記録サイズ	ファイル形式	スマートメディアの記憶容量（音声なしの画像の場合／音声付きの画像の場合）					
				2MB	4MB	8MB	16MB	32MB	64MB
TIFF*		1600×1200	TIFF	0/-	0/-	1/-	2/-	5/-	11/-
		1280×960		0/-	1/-	2/-	4/-	8/-	17/-
		1024×768		0/-	1/-	3/-	6/-	13/-	27/-
		640×480		2/-	4/-	8/-	17/-	34/-	68/-
SHQ		1600×1200	JPEG	1/1	2/2	5/5	11/11	22/22	45/44
HQ		1600×1200		4/3	8/7	16/15	31/30	64/60	128/120
SQ	高画質	1280×960		2/2	4/4	8/8	17/16	34/33	69/67
	標準			6/5	12/11	24/22	49/45	99/90	199/181
	高画質	1024×768		3/3	6/6	13/12	26/25	53/51	107/102
	標準			9/8	18/16	38/32	76/66	153/132	306/265
	高画質	640×480		8/7	16/14	32/29	66/58	132/117	265/234
	標準			21/15	40/30	82/61	165/123	331/248	664/498

＊画質モードがTIFFに設定されているときは、撮影モードでの音声記録はできません。再生モードでのアフレコ（P. 133）はできます。

動画撮影可能秒数（秒）：一度の撮影で連続して記録できる、１コマの動画の最長時間です。

（音声なしの画像／音声付きの画像）

画質モード	記録サイズ	スマートメディアの記憶容量			
		2MB	4MB	8MB	16MB以上
HQ	320×240	5/5	11/11	23/23	36/35
SQ	160×120	26/22	52/46	105/93	145/134

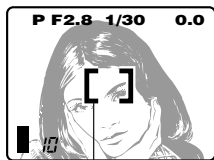
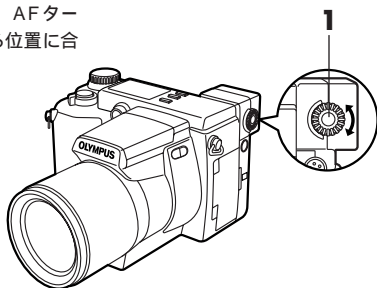
● 画質モードの設定はP.98をご覧ください。

注意

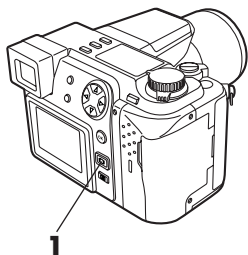
●数値は全ておおよその目安です。
●撮影毎にカウンタが減らなかったり、１コマ消去しても増えない場合があります。
●撮影対象によりデータ量が異なる為、枚数が若干増減することがあります。

ビューファインダを見やすく調節する〜視度の合わせ方

1 視度調節ダイヤルをまわし、AFターゲットマークが鮮明に見える位置に合わせます。

ビューファインダ・液晶モニタの使い方 [IOI]

1 画像表示を液晶モニタに切り替えたい場合、[IOI]（液晶モニタボタン）を押します。

ビューファインダより液晶モニタの使用が適した場合は...

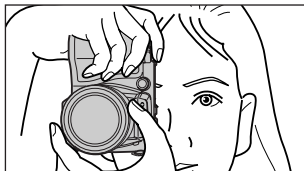
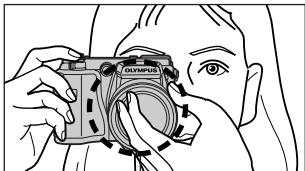
●カメラを顔の位置で構えられないとき。

ファインダに何も見えないときは

●パワースイッチはONになっていますか。
●レンズキャップがついていませんか。
●カメラがスリープ状態になっていませんか。
●[▶] モードで液晶モニタが点灯してませんか。

カメラの構え方

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。

よこ位置

たて位置

悪い例

レンズに指がかからないように

フラッシュに指がかからないように

注意

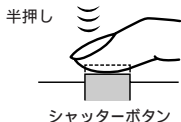
●レンズ、フラッシュ、AFイルミネータに指やストラップがかからないようにご注意ください。

撮影します

シャッターボタンの押し方とピント合わせ

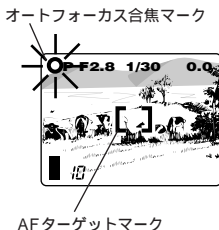
シャッターボタンの押し方には2つのステップがあります。
撮影を始める前に練習しましょう。

1 軽く押します。（半押し）

- ピントと画像の明るさ（露出）が固定されると、ピピッと音がしてオートフォーカス合焦マークが点灯します。固定されないと、オートフォーカス合焦マークが点滅します。
- 被写体がAFターゲットマークから外れる時は、フォーカスロックをします。（P.87参照）

2 半押しした状態をさらに押し込みます。（全押し）

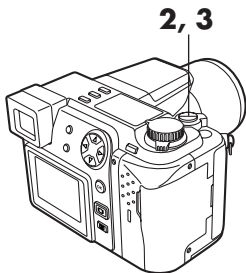
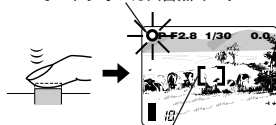
- 撮影が行われ「ピーピッ」と音がします。
- カードへの書込中はカードアクセスランプが点滅します。
- カメラを操作したときに、鳴る音の大きさを変えたり、音を消したりできます→カメラの警告音を変える(P. 150)

オートフォーカス合焦マークが点滅したら

0.6mより近付いて撮影するときは、マクロモードに設定してください。→P. 84
被写体の条件によって、ピントや画像の明るさが固定されないことがあります。→ピントの合いにくいもの（P. 86）

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、画像がぶれる原因になります。

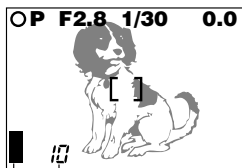
静止画を撮影する

1 **カメラを被写体に向けて、構図を決めます。**

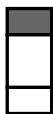
2 **シャッターボタンを半押しします。ピントと露出が固定されます。被写体にピントが合わないときは、フォーカスロック(P. 87)をしてください。**
- オートフォーカス合焦マークが点灯し、「ピピッ」と音がします。
- ピントと画像の明るさが固定されないと、点滅します。「ピントの合いにくいもの」(P. 86)も参照してください。
- 明るさが不足するなどで、ピント合わせが困難なときは、自動的にAFイルミネータが発光します。AFイルミネータを発光させない設定もできます。→AFイルミネータ(P. 151)
- フルタイムAF(P. 89)を設定していると、いつもピントが合った状態なので、ピントが合うまでの時間が短縮されます。

フラッシュ発光予告マーク（ ⚡ ）が点滅したら

フラッシュスイッチをスライドして、フラッシュを起こします。→フラッシュを使う(P. 66)

3 撮影するため、シャッターボタンを全押しします。

●「ピーピッ」と音がすれば、撮影は完了です。
● メモリゲージの一番下が点灯し、カード記録が始まります。
● 撮影した画像が表示されたあと、ファインダー内の表示は、すぐにカメラを向けている被写体に変わります。→レックビュー(P. 152)
● カードとメモリゲージに空きがあれば、続けて撮影は可能です。
● 2枚目以降を撮影すると、メモリゲージの中央が点灯します。
● カメラのメモリに空きがなくなると、メモリゲージの一番上が点灯し、次の撮影ができません。

━連続して撮影すると━

メモリ量表示の点灯が増えます。カードへの記録が間に合わず、メモリゲージがいちばん上まで点灯したら、次の撮影ができません。

一枚撮影

一枚以上撮影

撮影不可能

注意

●電源を切ったり電池の交換を行っても、撮影した画像は保存されます。
●カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊される恐れがあります。

撮影します（つづき）

動画を撮影する

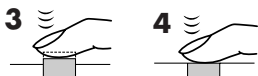
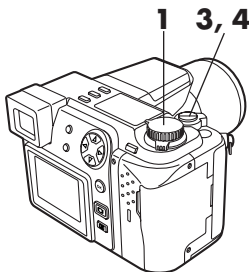
1 **モードダイヤルを 🎥（動画撮影）にします。**

2 **カメラを被写体に向けて、構図を決めます。**

3 **シャッターボタンを半押しします。ピントと露出が固定されます。被写体にピントが合わないときは、フォーカスロック(P. 87)をしてください。**

- オートフォーカス合焦マークが点灯し、「ピピッ」と音がします。
- ピントと画像の明るさが固定されないと、点滅します。「ピントの合いにくいもの」(P. 86)も参照してください。

4 **シャッターボタンを全押しします。撮影が始まります。再度、シャッターボタンを押すと、撮影は終わります。**

- 撮影中 🎥 マークが赤く点灯します。
- メモリゲージのいちばん上が点灯すると、撮影はできません。
- 撮影可能秒数が残りの撮影できる時間を示します。
- 撮影が始まると、ピントと露出は常に正しく合うように動作します。

5 **カードアクセスランプが点滅して、カードへの記録が始まります。**

- メモリゲージに空きがあっても、カード記録が終わるまで、次の撮影はできません。

カードアクセスランプの点滅が終わると

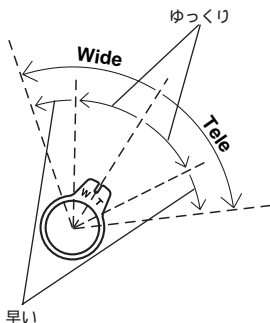
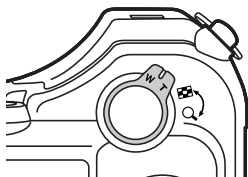
カードへの記録は終わりです。カードに残り容量があれば、ファインダに撮影可能秒数が表示され、次の撮影ができます。

拡大して撮影する〜ズーム

望遠や広角撮影ができます。ズーム倍率は10倍です。メニューの「デジタルズーム」を「オン」に設定すると(P．92)、2.7倍のデジタルズーム倍率と組み合わされ、27倍相当の撮影ができます。

遠くの被写体を撮影するには（望遠）...
ズームレバーをT側へまわします。

近くの被写体を撮影するには（広角）...
ズームレバーをW側へまわします。

■ ズームレバーをまわす角度で、速度が変わります。

●撮影中のズーム動作では、画像が多少ぶれます。

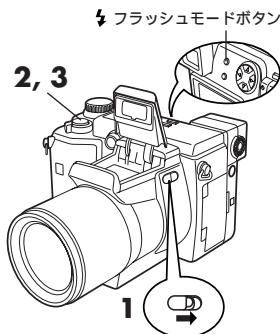
2

使ってみましょう〜撮影と再生の基本

フラッシュを使う〜オート発光

被写体が暗いとき、自動的にフラッシュが光ります。これ以外のモードは、P. 101を参照してください。

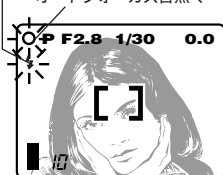
1 フラッシュのすぐ左下にあるフラッシュスイッチをスライドして、フラッシュを起こします。

● コントロールパネルに、◉、⚡、⚡ が、表示されていないのを確認します。いずれかの表示があれば、フラッシュモードボタンを押して、その表示を消します。→フラッシュの発光パターンを変える(P. 100)

2 シャッターボタンを半押しします。

● フラッシュが必要なときに、ファインダ内でフラッシュ発光予告マーク（⚡）が点灯すると、フラッシュが発光するしるしです。

● フラッシュ発光予告マーク（⚡）が点滅しているあいだは、フラッシュは充電中です。点滅が終わるのを待ってから、シャッターボタンを押してください。

3 シャッターボタンを全押しします。

● フラッシュが光ります。

フラッシュの光が届く範囲
望遠時：約1.0〜3.2m
広角時：約0.3〜4.0m

注 意

●次の場合は、フラッシュは光りません：オートブラケット撮影(P. 96)、白板／黒板撮影(P. 131)、パノラマ撮影(P. 129)

●マクロ撮影時、特にズームレバーがW側にあるときは、画像の一部が欠けたり、光の量にムラが出ることがあります。撮影後、必ず再生して確認してください。

撮影した画像を確認する～簡単再生

静止画を再生する

撮影した画像をすぐに再生したいときは、撮影モードのままでも [IOI]（液晶モニタボタン）を使い、再生できます。再生中でも、撮影したい場合はすぐに撮影モードに戻ることもできます。

1 [IOI]（液晶モニタボタン）をすばやく2回続けて押します。

- 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が表示されます。
- モードダイヤルを ▶ にしても、撮影した画像が表示できます。

2 十字ボタンを使えば、カードのなかの他の画像も表示することができます。

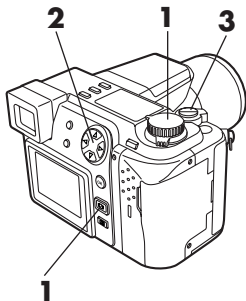
▷：次の画像を表示。

◁：一つ前の画像を表示。

△：10コマ前の画像を表示。

▽：10コマ先の画像を表示。

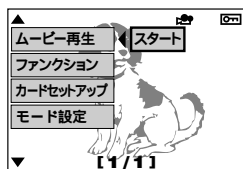
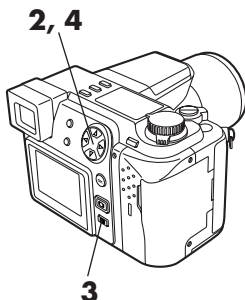
3 撮影モードに戻るには、シャッターボタンを半押しします。

- ファインダが点灯し、カメラを向けている被写体が表示されます。

動画を再生する

1 **簡単再生を使い、撮影画像を表示させます。****（P. 67）**

2 **十字ボタンで 🎥 マークのついた画像を選択します。**

3 **☰（メニューボタン）を押します。**
- メニュー画面が表示されます。

4 **十字ボタンで「ムービー再生」を選択し、▷を押して「スタート」を選択します。**
- キャンセルする場合は、メニューボタンを押してください。

5 OKボタンを押します。

● カードアクセスランプが点滅して、読み出しが終わると、ムービー再生が始まります。

一時停止にするには...

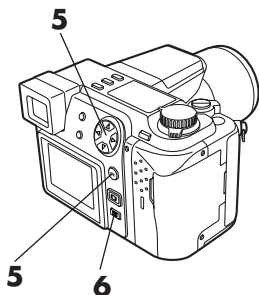
再生中にOKボタンを押します。

再生終了後か、一時停止中は十字ボタンでコマ送りができます。

△ ：動画の最初を表示します。

▽ ：動画の最後を表示します。

▷ ：ボタンを押すたびに、コマが進みます。押し続けている間、再生します。

◁ ：ボタンを押すたびに、コマが戻ります。押し続けている間、逆再生します。

6 ☰（メニューボタン）を押して、動画再生モードから抜けます。

● 他のコマを選択するときは、再び ☰（メニューボタン）を押してメニュー画面を消してから、十字ボタンで選択します。

撮影日時（約4秒間表示）

'00.12.23
0"/15"

再生している秒数　全体の秒数

━早く撮影モードに戻りたいときは━

シャッターボタンを半押しします。ムービー再生中やメニュー画面表示していても、すぐにファインダーが点灯して、被写体が表示されます。

テレビに表示する

撮影した画像および音声を同梱のAVケーブルを使ってテレビで再生することができます。

【接続】

＊ 接続の前にテレビとカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

❶ AVケーブルをカメラのAV 出力端子（黒色）に接続する。

❷ AVケーブルをテレビの映像入力端子（黄色）と音声入力端子（白）に接続する。

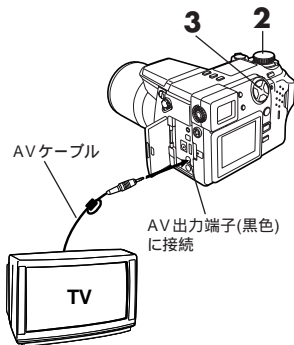
3
2
AVケーブル
AV出力端子(黒色)
に接続
TV

【接続が完了したら】

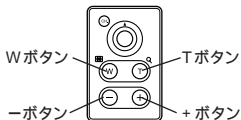
1 テレビとカメラの電源を入れます。

2 カメラのモードダイヤルを ▶ にします。

3 十字ボタンで再生したい画像を選択します。

● 選択した画像がテレビに再生されます。

リモコンを使う

＊ リモコンで操作を行う場合はカメラのリモコン受信窓にリモコンを向けてください。

＋/－ボタン：画像を選択する。
Wボタン　：インデックス再生する。
Tボタン　：クローズアップ再生する。（この操作中は＋/－ボタンで、拡大範囲を左右に移動できます。

メモ

●テレビ再生中はカメラ側での再生はできません。
●テレビによっては画面表示位置が中央からずれる場合があります。
●テレビによっては画像の外側に、黒い枠が表示されることがあります。プリントの際に黒枠が目立つ場合がありますので、プリントの仕上がりをご確認ください。
●画像をテレビで再生する場合は、カメラの電源はACアダプタ（別売）をお使いになることをおすすめします。

画像を消去する 🗑

不要な画像を消すことができます。静止画を消したいときも、動画を消したいときも操作は同じです。消去を行う前に、画像を消さないためのプロテクトシールがスマートメディアに貼られていないか、あるいは画像を消さない設定（プロテクトP.73）がされていないかを確認してください。

操作の前にご注意ください

●消去中に以下の動作を行わないでください。スマートメディア中のデータが破壊される原因となります。
- カードカバーを開ける。
- スマートメディアを抜く。
- 電池を抜く。
- コンセントを抜く。

画像を一つだけ消したい～1コマ消去

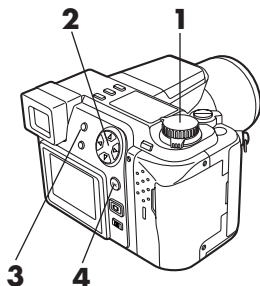
1 モードダイヤルを ▶ にします。
- カードアクセスランプが点滅して、画像が読み出されたあと、最後に撮影した画像が表示されます。

2 十字ボタンで消去したい画像を選択します。

3 🗑（消去ボタン）を押します。
- 消去するかどうかの確認画面が表示されます。

4「実行」が選択されていることを確認して、OKボタンを押します。
- 選択した画像が消去されます。

消去を中止するには

十字ボタンの ▷ を押して「中止」を選択し、OKボタンを押すか再度 🗑 ボタンを押します。

確認画面

画像を消去する 🗑（つづき）

すべての画像を消したい〜全コマ消去

▶

1 **モードダイヤルを ▶ にします。**

● カードアクセスランプが点滅して、画像が読み出されたあと、最後に撮影した画像が表示されます。

2 **☰（メニューボタン）を押します。**

● メニュー画面が表示されます。

3 **十字ボタンで「カードセットアップ」ー「全コマ消去」を選択します。**

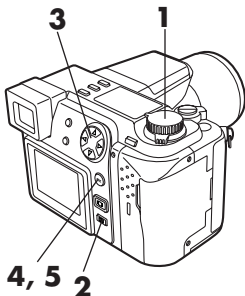
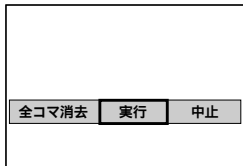
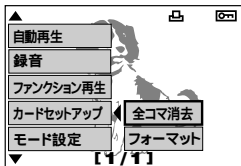
4 **OKボタンを押します。**

● 消去するかどうかの確認画面が表示されます。

消去を中止するには...

十字ボタンの ▷ を押して「中止」を選択し、OKボタンを押すか 🗑 ボタンを押します。

5 **「実行」が選択されていることを確認して、OKボタンを押します。**

● スマートメディア中のすべての画像が消去されます。

画面は静止画消去のメニュー画面

確認画面

誤って画像を消さないようにする～プロテクト機能、

残しておきたい画像にプロテクト(消去禁止)をかけます。

1 モードダイヤルを にします。

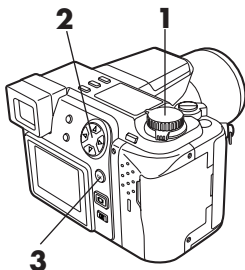
● カードアクセスランプが点滅して、画像が読み出されたあと、最後に撮影した画像が表示されます。

2 プロテクトをかける画像を表示させます。 (一つの画像を再生する(P. 118)、拡大再生(P. 120)、複数の画像を一つの画面に再生する(P. 119))

3 OKボタンを押すと、その画像にプロテクトがかかります。

● が表示されます。

プロテクトを解除するには...

その画像が表示された状態で、再度OKボタンを押すと、 が消えてプロテクトが解除されます。

注意

● プロテクトされた画像は、全コマ消去しても消されることはありませんが、初期化すると消滅します。

● ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには、プロテクト操作は一切できません。

● 電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

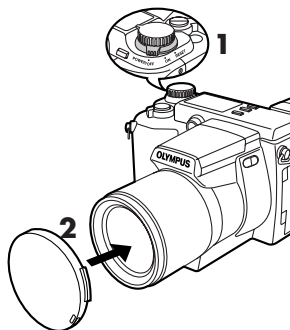
電源を切る

操作が終わったら、電源を切ります。カメラは電源を切らなくても、自動的に電源を節約するモード（スリープ状態）になりますが、使わないときはこまめに電源を切りましょう。

1 カメラのパワースイッチをOFFにします。

- 電源が切れます。画像をカードに記録しているとき（カードアクセスランプが点滅しているとき）は、記録が終わってから電源が切れます。

2 レンズキャップをつけます。

3

場面に合った撮影方法を選びましょう

場面に適した撮影方法

ポートレート（人物）を撮る

人物撮影では、背景をぼかし人物だけにピントが合うようにして、人物を背景から浮き出させて、強調する方法があります。このように撮影するには、以下の2つの方法があります。

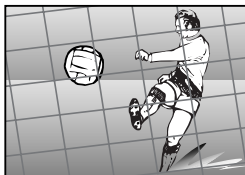
■ **モードダイヤルをS-Prgにして、メニュー画面で「S-Prg設定」―「 ポートレート」を選択し、撮影(P. 80)**
カメラが自動的にポートレート撮影に適した露出を選択します。

■ **モードダイヤルを絞り優先モードAにして、F値（絞り値）を小さくして撮影(P. 81)**
絞り値を小さくすると、ピントの合う範囲が狭くなって、背景がぼやけます。

動いている被写体を撮る

スポーツなどのすばやい動きや車を撮るとき、シャッター速度を変えると仕上がりが変わってきます。シャッター速度が速いと、動いているものは止まって見えます。そのため人物の表情など、被写体の様子も逃さず撮れます。シャッター速度が遅いと、動いているものはぶれて映ります。このぶれが、躍動感や動きのある仕上がりになります。このような撮影には以下の2つの方法があります。

■ **モードダイヤルをS-Prgにして、メニュー画面で「S-Prg設定」―「スポーツ」を選択し、撮影(P. 80)**
カメラが自動的に動きの速いものを止めて、撮影できるのに適した露出を選択します。

■ **モードダイヤルをSにして、シャッター速度を設定し、撮影(P. 82)**

記念写真を撮る

旅行先で人物と背景を撮るとき、近くの被写体と背景の両方にピントを合わせたいものです。そんなときは、以下の2つの方法があります。

■ **モードダイヤルをS-Prgにして、メニュー画面で「S-Prg設定」—「 記念撮影」を選択し、撮影(P. 80)**
カメラが自動的に記念撮影に適した露出を選択します。

■ **モードダイヤルを絞り優先モードAにして、F値（絞り値）を大きくして撮影(P. 81)**
絞り値が大きくなると、ピントの合う範囲が前後に広くなって、背景にもピントが合いやすくなります。

近くのものを撮る

昆虫や草花などに近付いて、大きく撮影したいときは、（マクロボタン）を押し、マクロモード(P. 84)にしてから、撮影する方法があります。被写体に最大10cmまで近付いて撮影できます。(ズームでもっとも広角側（W端）にあるとき)
ズームレバーをW側にして撮影すると、被写体のより細かい様子をとらえられます。

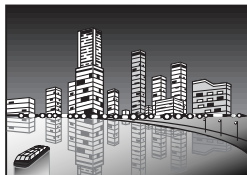
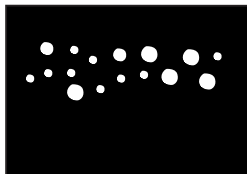
場面に適した撮影方法（つづき）

夜景を撮る

[夜景] •S-Prg •M

街灯が輝く街の夜景などを撮影するには、通常の撮影よりも長いシャッター速度で撮影します。モードダイヤルが、Pで夜景を撮影するには、明るさが不足するので、光っている点だけの画像になってしまいます。シャッターを開けている時間を決めるのは難しいので、何度か試すことが必要です。夜景撮影の設定をするには、以下の2つの方法があります。

■ **モードダイヤルをS-Prgにして、メニュー画面で「S-Prg設定」―「[夜景] 夜景」を選択し、撮影(P. 80)**
通常の撮影よりも長いシャッター速度まで使って、カメラが適切な露出を設定します。

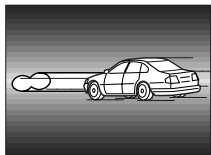
■ **モードダイヤルをMにして、シャッター速度とF値（絞り値）を設定し、撮影(P. 83)**
シャッター速度だけでなく、絞り値も設定できます。絞り値も設定して、ピント範囲も選択して、夜景撮影を工夫してください。

注意

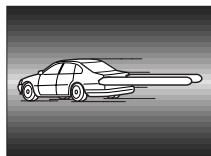
●シャッター速度が遅くなるので、三脚のご使用をお勧めします。

夜間に動いている被写体を撮る　　ϟ SLOW

夜間に走っている車など動いているものを撮るには、スローシンクロ(ϟ SLOW)にすると、ヘッドライトやテールランプが流れるように写ります。メニューの「スローシンクロ」を「先幕効果」か「後幕効果」にします。(P. 104)

先幕効果：

撮影の最初にフラッシュが発光。走行中の車を撮影した場合、ヘッドライトの光が走行方向に流れて撮影されます。

後幕効果：

撮影の最後にフラッシュが発光。走行中の車を撮影した場合、テールランプの光が尾を引いて撮影されます。

場面に合わせてあらかじめ設定された機能を使うには～シーンプログラム撮影

•S-Prg

1 **（メニューボタン）を押します。**
- メニューでの設定は、モードダイヤルがP、A、S、M、S-Prgのどれに設定されていてもできます。
- メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「S-Prg設定」を選択し、 ▷を押します。**

3 **△ ▽ を押して設定したい項目（下記参照）を選択し、OKボタンを押します。**

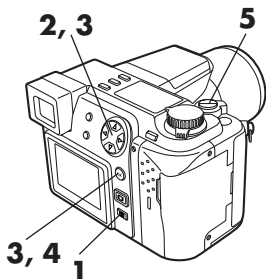
設定項目： ポートレート

スポーツ

記念撮影

夜景(P. 76～78)

4 **OK ボタンを押します。**
- 設定が保存されメニュー画面が消えて、通常の画面に戻ります。

5 **撮影します。**

注 意

●絞り値とシャッター速度を自分で設定することはできません。

絞り値設定〜絞り優先

絞り値を自分で設定できます。シャッタースピードは、カメラが自動的に設定します。絞り値を変えることで、背景の描写に変化をつけられます。

1 モードダイヤルをAにします。

● 絞り値は緑色で表示されます。

2 十字ボタンを押して、F値を設定します。

F値を大きくするには...

△ を押します。

F値を小さくするには...

▽ を押します。

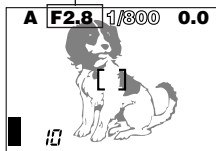
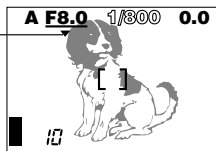
ズーム位置	設定範囲
広角（W側）	F2.8〜F8.0
望遠（T側）	F3.5〜F8.0

F値(絞り値)

露出を小さくして、適正露出にする場合

━ 絞り値が赤く表示される ━

設定した絞り値では、適正露出が得られません。▼が表示されているときは、絞り値を小さくします。▲が表示されているときは、絞り値を大きくします。

注意

- ●ISO感度がオートのとき、モードダイヤルをAにすると、ISO感度は自動的に100に設定されます。
- ●フラッシュが起きているときは（フラッシュが発光可能なとき）、シャッター速度は、ズームでもっとも広角側（W端）にあるときは、1/30秒、もっとも望遠側（T端）にあるときは、1/200秒よりも低速にはなりません。
- ●設定クリア(P. 142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

3

場面に合った撮影方法を選びましょう

シャッター速度設定～シャッター優先

シャッタースピードを高速にすることで動きを止めたり、逆に低速にすることで流動感のある撮影ができます。

•S

1 モードダイヤルをSにします。

● シャッター速度が表示されます。

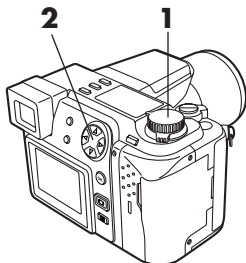
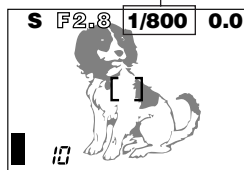
2 十字ボタンを押して、シャッター速度を設定します。

シャッター速度を速くするには...

△ を押します。

シャッター速度を遅くするには...

▽ を押します。

シャッター速度選択範囲：
1/2～1/800（秒）

シャッター速度が赤く表示される

設定したシャッター速度では、適正露出が得られません。▼が表示されているときは、シャッター速度を小さくします。▲が表示されているときは、シャッター速度を大きくします。

注 意

- ●ISO感度がオートのとき、モードダイヤルをSにすると、ISO感度は自動的に100に設定されます。
- ●設定値で適正露出が得られないときは、表示が点滅します。露出が大きくなるときは上向きの三角が、露出が小さくなるときは下向きの三角が表示されます。
- ●設定クリア(P．142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

絞り値とシャッター速度を設定～マニュアル撮影

絞り値とシャッタースピードを撮影目的に合わせ、自分で設定します。適正露出かどうかは、ファインダ内の露出レベル表示で確認できます。

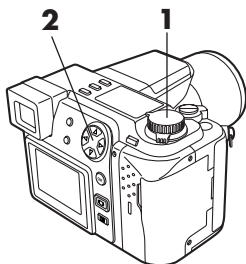
•M

1 モードダイヤルをMにします。

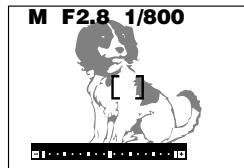
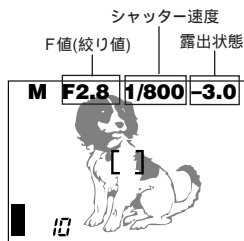
● 絞り値とシャッター速度が表示されます。

2 十字ボタンでF値とシャッター速度を設定します。

F値を大きくするには、◁ を押し、小さくするには、▷ を押します。

シャッター速度を速くするには、△ を押し、遅くするには、▽ を押します。

バー表示したとき

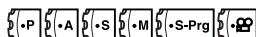
━ 画面右上に数値が表示される ━

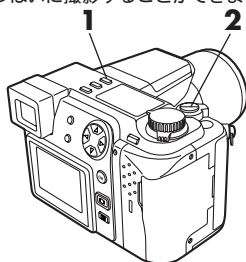
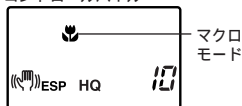
- 設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラの適正露出との露出差が－3.0～＋3.0EVの範囲で、画面右上に表示されます。
- AEL ボタンを押すと、露出状態は画面下側にバーで表示されます。シャッターボタンを半押しすると、測光値が固定されバーの上のマークは、露出差を示す位置で止まります。
- 露出がー3.0EVよりも小さく、または+3.0EVより大きいときは、表示が赤くなります。

●ISO感度がオートのとき、モードダイヤルをMにすると、ISO感度は自動的に100に設定されます。

●設定クリア(P. 142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

近くのものを撮影する～マクロモード

撮影は0.6mより近い距離でもシャッターは切れますが、ピントと露出が合わないことがあります。そういうときは、マクロモードにします。マクロモードでは、ズームがもっとも広角側（W端）にあるときで被写体に10cmの距離まで近づいて、名刺サイズをほぼフレームいっぱいに撮影することができます。

•P •A •S •M •S-Prg •

1 （マクロボタン）を押して、コントロールパネルに （マクロモード）を表示させます。

- マクロモードを解除するには、コントロールパネルの表示が消えるまでマクロモードボタンを押します。

2 撮影します。

● ボタンを押すたびに、以下のようにモードは切り替わります

設定項目・コントロールパネル表示	撮影可能距離（m）	
	ズームW端	ズームT端
通常（表示なし）	0.6 ～ ∞	2.0 ～ ∞
マクロ（ ）	0.1 ～ 0.6	1.0 ～ 2.0

注意

●フラッシュ使用時には影が目立つ場合があります。
●設定クリア(P. 142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

3

場面に合った撮影方法を選びましょう

4

上手に撮影／再生しましょう

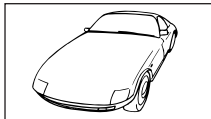
この章では、手動でピントを合わせたり、画像の明るさの調整、画像の色を変えて特殊効果をつけるなど、さらに進んだ機能の操作方法について説明しています。

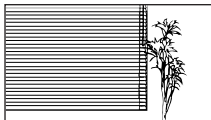
撮影ー距離／ピント

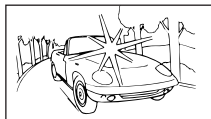
ピントの合いにくいもの (オートフォーカスの苦手な被写体)

ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、以下❶〜❸のような条件ではピントが合わず、オートフォーカス合焦マークが点滅する時があります。また、❹、❺のような被写体では、オートフォーカス合焦マークが点灯し、シャッターが切れてもピントが合っていない時があります。その場合は以下の方法または、マニュアルフォーカス(P. 88)で撮影してください。

❶ コントラストのない被写体

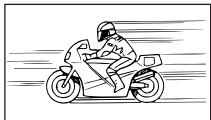
被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック(P. 87)した後、構図を決めて撮影してください。

❷ 縦線のない被写体

カメラを縦位置に構えてフォーカスロック(P. 87)した後、構図を横にもどして撮影してください。

❸ 画面中央に極端に明るいものがある被写体

被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック(P. 87)した後、構図を決めて撮影してください。

❹ 遠いものと近いものが混在する被写体

オートフォーカスしてオートフォーカス合焦マークが点灯しても撮影したい被写体がぼけているときは、同じ距離にあるものでフォーカスロック(P. 87)してから構図を決めて撮影してください。

❺ 動きの速い被写体

あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離にあるものでフォーカスロック(P. 87)してから、構図を決めて撮影してください。

あらかじめピントを合わせる〜フォーカスロック

撮影したい構図にしたときに、ピントを合わせたいものが、AFターゲットマークから外れる（中央にない）場合は、以下の操作でピントを合わせます。

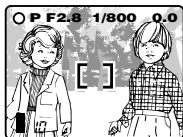
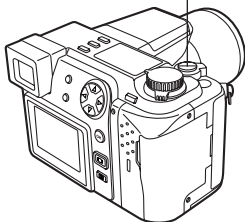
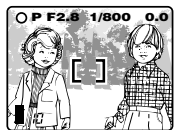
1 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

- 同時に画像の明るさ（露出）も固定され、オートフォーカス合焦マークも点灯します。

オートフォーカス合焦マークが点滅したら...

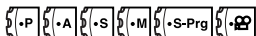
ピントと露出が固定されていません。いったん指をはなし、ピントをあわせる位置を少しずらして、オートフォーカス合焦マークが点灯するまで、手順**1**を繰り返します。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図までカメラを動かします。

3 シャッターボタンを全押しします。

撮影ー距離／ピント

ピントを固定する～マニュアルフォーカス MF

オートフォーカスでうまくピントが合わないときは、手動でピント合わせができます。

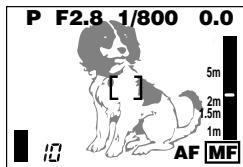
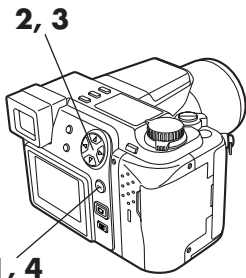
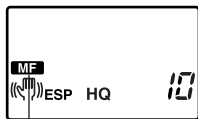
P A S M S-Prg 🎥

1 OKボタンを押します。
- 液晶モニタに、撮影距離の選択画面が表示されます。

2 ▷を押して、MFを選択します。
- コントロールパネルに MF が表示され、距離表示のカーソルが移動できるようになります。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、距離を選択します。
- 操作中、液晶モニタの表示は拡大されますので、ピントの確認が容易にできます。
- 1m以下にカーソルを移動させると、自動的に10cm～1mの目盛りに切り替わります。

4 OKボタンを押します。
- 設定が保存されて、画面に赤でMFと表示されます。
- MFを解除したいときは、OKボタンを押してMFの表示がでたら、◁ を押してAFを選択し、OKボタンを押します。

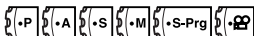
∞（無限位置）にピントが合わない

- MF （マニュアルフォーカス）にして、距離表示でもっとも上にカーソルを合わせても、ピントが∞（無限）に合わないことがあります。そのときはファインダを見ながら、△ ▽ を少し動かして調整してください。

コントロールパネル

マニュアルフォーカス

注意

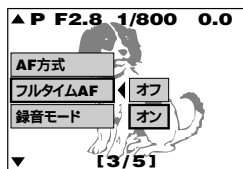
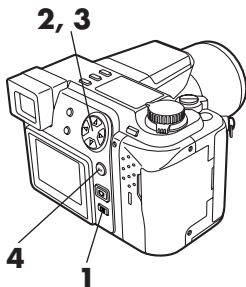
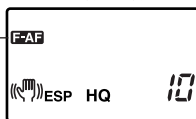
- フラッシュ使用時は、フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。
- 設定クリア(P. 142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。
- 液晶モニタの距離表示はあくまでも目安です。
- 設定したあとでズーム操作をすると、設定距離が変わることがあります。

ピント合わせの時間を短くする〜フルタイムAF F-AF

シャッターボタンを操作していないときも、カメラが常にレンズの前のものにピントを合わせる動作を繰り返します。シャッターボタンを半押しせずに、全押ししたときに、シャッターが切れるまでの時間（タイムラグ）を短縮できます。設定しない場合は、「オフ」にします。「オフ」はシャッターボタンを半押しするまで、ピントは合いません。

1 （メニューボタン）を押します。
- メニューが表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して、「フルタイムAF」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽ を押して「オン」を選択し、OKボタンを押します。
- 選択された設定を確認します。
- ここでも撮影できます。

4 OKボタンを押します。
- 設定が保存され、メニューが消えて、通常の画面に戻ります。

画面は静止画撮影メニュー

注意

- フルタイムAFを設定しているときは、電池寿命が短くなります。
- 電源を切っても、設定を残しておくことができます。
- 設定クリア(P. 142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

4 上手に撮影/再生しましょう

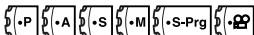
撮影ー距離／ピント（つづき）

ピント合わせのエリアを選択する〜AF方式

被写体の焦点を合わせるエリアを選択します。

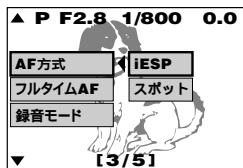
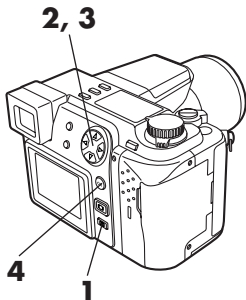
iESP　　：画面の範囲内からピントを合わせる被写体を判断します。通常この設定で撮影します（初期設定）。

スポット　：AFターゲットマークで狙ったものを中心にピントを合わせます。

•P　•A　•S　•M　•S-Prg

1 **（メニューボタン）を押します。**
● メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「AF方式」を選択し、▷ を押します。**

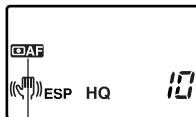
3 **△ ▽ を押して、「iESP」または「スポット」を選択し、OKボタンを押します。**
● ここでも撮影できます。

4 **OKボタンを押します。**
● 設定が保存されメニュー画面が消え、通常の画面に戻ります。

画面は静止画撮影メニュー

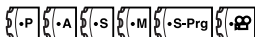
コントロールパネル

AF方式

4

上手に撮影/再生しましょう

画像の振れをなくす〜手振れ補正

ズーム倍率が大きいときに、シャッターボタンを押すと、その押す手の動き程度の振れでも、画像はぶれてしまいます。そのような手振れによる画像の振れを抑えます。
次のような場合では、うまく補正できないことがあります：カメラの向きをすばやく変えるとき、夜景撮影などの長い露出時間の場合。

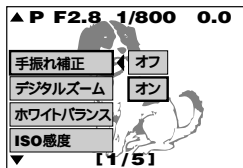
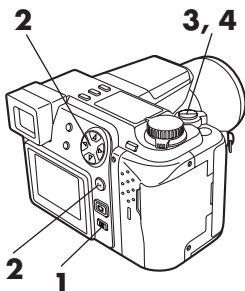
•P •A •S •M •S-Prg •

1 （メニューボタン）を押します。
● メニュー画面が表示されます。

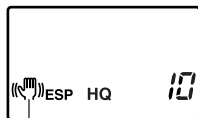
2 十字ボタンの △ ▽ を押して「手振れ補正」を選択し、▷ を押します。
△ ▽ を押して「オン」を選択し、OKボタンを押します。
● 再度OKボタンを押すと、設定が保存されメニュー画面が消えて、通常の画面に戻ります。

3 シャッターボタンを半押しします。
● 補正動作が始まり、画像が安定するのに、約1秒かかります。ファインダーで安定を確認してください。

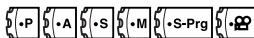
4 シャッターボタンを全押しします。
● 半押しからすぐに全押しすると、うまく手振れ補正が働きません。
● スローシャッターのときは(P．104)、補正しきれません。
● 撮影後も約2秒間、手振れ補正をおこなっていますので、連続撮影のときは安定するのを待つ必要はありません。

設定をOFFにしたほうがよいとき

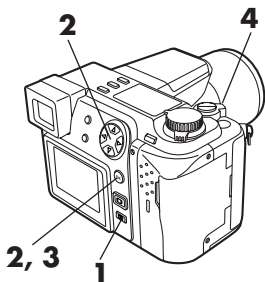
- 三脚などでカメラを固定して、構図を合わせるとき。
- カメラを動かしながら（パン）、撮影するとき。
- コンバージョンレンズを取り付けたとき。

画面は静止画撮影メニュー

コントロールパネル

手振れ補正

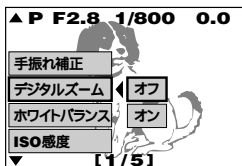
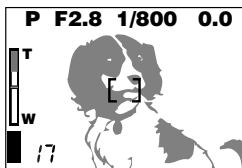
27倍に拡大する～デジタルズーム

光学ズームの最大倍率からさらに最大2.7倍まで倍率を拡大できます。光学10倍ズームと組み合わせて、27倍ズーム相当の撮影が可能です。

1 **（メニューボタン）を押します。**
- メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「デジタルズーム」を選択し、▷ を押します。**
△ ▽ を押して「オン」を選択し、OKボタンを押します。

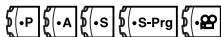
3 **OKボタンを押します。**
- 設定が保存され、メニュー画面が消えて通常の画面に戻ります。

4 **ズームレバーをT側へ回して、拡大表示します。**
- ズームバーが表示されます。バーの白い領域が光学ズームを、赤い領域がデジタルズームを表しています。

画面は静止画撮影メニュー

注意

- 設定クリア（P.142）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。
- デジタルズームの領域で撮影すると、画質が粗くなることがあります。

撮影ー明るさ／露出

明るさを補正する〜露出補正

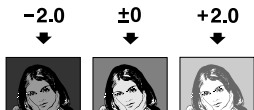
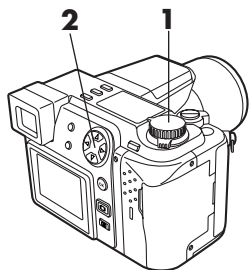
カメラが自動的に決めた露出にセットされますが、＋/－２段の範囲で約１/３段刻みの補正が可能です。白いものを白く表現したいときは、＋の補正を、黒いものを黒く表現したいときは、ーの補正をすると効果的です。

•P •A •S •S-Prg •

1 モードダイヤルをP、A、S、S-Prgまたは にします。

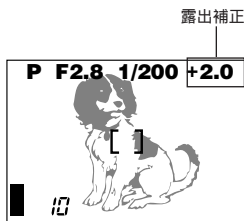
● 露出補正値が表示されます。

2 ＋へ補正するには、▷ を押します。ーへ補正するには、◁ を押します。

● 0 以外の設定をすると、コントロールパネルに が表示されます。

−2.0　±0　+2.0

暗い画像になります　明るい画像になります

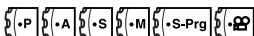
画面は静止画撮影メニュー

注意

●設定クリア(P．142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。
●露出補正をしても、うす暗い被写体では変化しにくくなります。その時は撮影画像を再生してご確認ください。
●上記の操作をしても、フラッシュの発光量は、自動的には補正しません。フラッシュの発光量については、「フラッシュの光量を補正する〜フラッシュ露出補正」をお読みください。(P．103)

測光の範囲を選択～測光モード　ESP

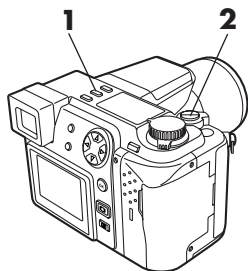
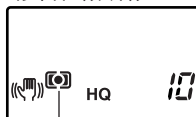
明るさを測る範囲を選べます。適正露出を得たい範囲がわかっているときは、（測光モードボタン）を押して、測光モードを切り替えます。

設定項目・コントロールパネル表示	機能・目的
標準 （ESP測光　ESP）	構図の中央部と周辺部を別々に測光し、演算して最適な露出を求めます(デジタルESP測光)。
中央重点測光	構図の中央部を周辺部よりも、重点的に測光。
スポット測光	ほぼAFターゲットマークの範囲を測光。逆光などで被写体が暗くなる時に背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露光で撮影できます。

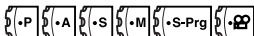
P A S M S-Prg

1 **コントロールパネルに「（中央重点測光)」または「（スポット測光)」が表示されるまで、（測光ボタン）を押します。**

2 **撮影します。**

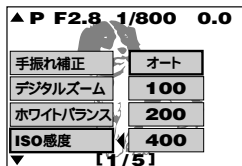
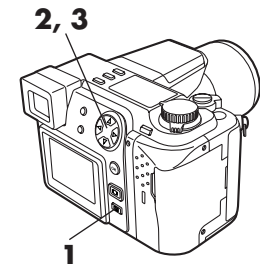
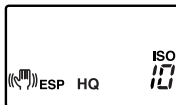
注意

- メニューでマルチ測光がオンになっているときは、ESP は選択できません。→マルチ測光(P. 126)
- モードダイヤルがMのときも、測光モードを切り替えることはできます。ただし、露出の設定はマニュアル撮影（P. 83)で設定された値になるので、露出表示のバーにのみに効果が現れます。

感度を変える〜ISO感度設定　ISO

感度を上げると、暗いところでも速いシャッタースピードで撮影できます。感度をオート、約100固定、約200固定 (約2倍感度アップ)、約400固定 (約4倍感度アップ)の中から選択できます。オートでは被写体の条件に合わせて、自動的に感度を変えます。オート以外は、数値が大きいほど、明るさが不足する状況で撮影できます。

P A S M S-Prg 🎥

1 (メニューボタン)を押します。
- メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「ISO感度」を選択し、▷を押します。

3 △ ▽ を押して設定したい項目を選択し、OKボタンを押します。モードダイヤルがP、S-Prg、🎥のときのみ、「オート」を選択できます。
- 再度OKボタンを押すと、設定が保存されメニュー画面が消えて、通常の画面に戻ります。
- オート以外を選択すると、コントロールパネルに「ISO」が表示されます。
- オート設定時での撮影で、自動的に感度が上がった場合も、ISOは点滅します。

画面は静止画撮影メニュー

注意

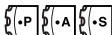
- 感度は銀塩写真のフィルムの感度を基準に設定していますが、数値は目安です。
- 「オート」を選択しているときにモードダイヤルをA、SまたはMにしていると、ISO感度は100に設定されます。
- オートを選択したとき、暗い所でフラッシュ不使用の場合は、手ぶれ防止のため自動的に感度が上がります。
- 感度を上げると画像にノイズが増えます。
- 設定クリア(P.142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

撮影ー明るさ／露出（つづき）

明るさを変えて連続撮影する〜オートブラケット撮影

DRIVE BKT

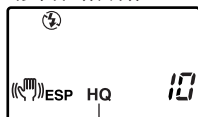
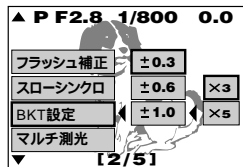
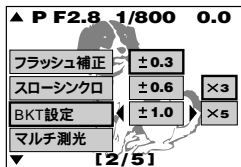
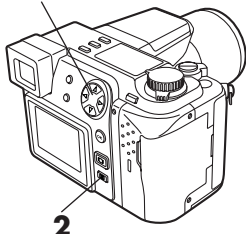
一コマごとに明るさ（露出）を変えて撮影します。ピント・ホワイトバランスは、最初に設定され、連写中は固定されます。連写枚数も設定できます。

P A S

1 **TIFF以外に設定してください。TIFFに設定されていると、オートブラケット撮影は設定できません。(P. 98)**

2 **（メニューボタン）を押します。**
● メニュー画面が表示されます。

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して「BKT設定」を選択し、 ▷を押します。**

4 **△ ▽ を押して明るさ（露出）の段階を選択し、 ▷を押します。**

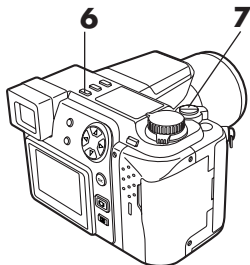
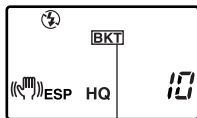
5 **△ ▽ を押して撮影枚数を選択し、メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。**

6 コントロールパネルに、 BKT が表示されるまで、 DRIVE （ドライブモードボタン）を押します。

7 撮影します。

● 撮影中にシャッターボタンをはなしたときは、連続撮影中でも撮影は終わります。

コントロールパネル

BKT

ESP HQ 10

オートブラケット

注 意

●設定枚数以上の空きがバッファにないと、次の撮影はできません。
●設定クリア(P. 142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

撮影一色／画質

記録する画質を設定する　TIFF SHQ HQ SQ

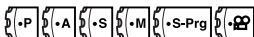
撮影する画像の画質（クォリティ）を選択します。

●モードダイヤルがP、A、S、MまたはS-Prgのとき（静止画撮影）

画質の種類は「TIFF」「SHQ」「HQ」「SQ」の4種類。画質は「SQ」→「HQ」→「SHQ」→「TIFF」の順に高くなり、「TIFF」が最も高画質です。画質が高いほど引き伸ばした時の画像はきれいになります。また、SQ、HQに比べてSHQ、TIFFは記録・再生時間は長くかかります。

●モードダイヤルが🎥のとき（動画撮影）

画質の種類は「HQ」「SQ」の2種類。画質は「SQ」→「HQ」の順に高画質になります。

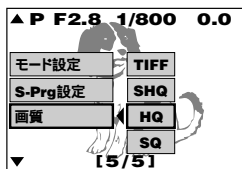
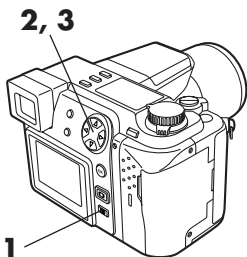
•P •A •S •M •S-Prg •🎥

1 ☰（メニューボタン）を押します。

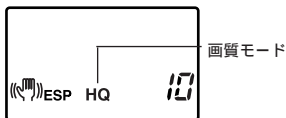
● メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「画質」を選択し、▷を押します。

3 △ ▽ を押して設定し、OKボタンを押します。

● TIFF、SQの画質での記録サイズと、圧縮率の組み合わせを設定することができます。（P.147 ～ 149）

● 再度OKボタンを押すと、設定が保存されメニュー画面が消えて、通常の画面に戻ります。

画面は静止画撮影メニュー

コントロールパネル

■最初の状態で選択できる設定■

●このカメラの初期状態では、選択できる画質とその内容は、次のようになっています。

●TIFFでは記録画素数を、ＳＱはさらに画質との組み合わせを選択できます。
→画質モードTIFFの記録サイズを設定する(P. 147)、画質モードSQの記録サイズ・画質を設定する(P. 148)

静止画撮影のとき（初期設定）

画質モード	TIFF	SHQ	HQ	SQ［標準］
記録画素数	1600×1200			640×480
圧縮	非圧縮	低圧縮 JPEG	標準 JPEG	標準 JPEG

動画撮影のとき（初期設定）

画質モード	記録画素数
HQ	320 X 240ピクセル (15コマ／秒)
SQ	160 X 120ピクセル (15コマ／秒)

注意

●画質モードの設定により、撮影可能枚数・秒数は変わります。(P. 57)
●設定クリア(P. 142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

撮影ーフラッシュ

撮影状況・目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。被写体にあわせてフラッシュの発光量を補正することができます（P.103）。外部フラッシュの使用方法は、P.106をご覧下さい。

フラッシュを起こしているとき、ϟ（フラッシュモードボタン）を押すたびに、以下のフラッシュモードに切り替わります。撮影モードによって、設定できないものもあります。→p. 102

フラッシュ発光のパターンを選びます ϟ

設定項目・コントロールパネル表示	機能・目的
オート発光(P.66) 表示なし	暗い時や逆光の時、自動的に発光します。P. 66をお読みください。
赤目軽減発光（P.101） ◉	目が赤く写ってしまう現象を軽減します。
強制発光（P.101） ϟ	必ず発光させたい時に。

■発光禁止 ⊘

●フラッシュを収納しているときは、常にこの表示が出ています。フラッシュが起きているときに、このモードは選べません。

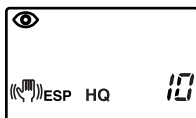
●フラッシュが起きていても、次のときは発光しません。コントロールパネルには、⊘ が表示されます。

－オートブラケット撮影 BKT

－ファンクション撮影　白板・黒板

－ 🎥（動画）モード

－パノラマ撮影（機能カード）

コントロールパネル

フラッシュ撮影可能範囲

広角時：約0.3 ～ 4.0 m

望遠時：約1.0 ～ 3.2 m

■ 赤目軽減発光

本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光をする以外はオート発光と同じです。

注意

- シャッターが切れるまで約1秒かかりますので、カメラをしっかり構えてください。
- フラッシュを正面から見ていない場合、予備発光を見ていない場合、被写体までの距離が遠い場合や、個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。
- モードダイヤルがMのときと、S-Prgのスポーツでは、設定できません。

■ 強制発光

必ず発光させたいときに。
木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときなどに使います。

注意

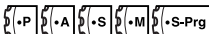
- 非常に明るい状況下では効果があらわれにくくなることがあります。

■ 発光禁止

暗いところでも発光させたくない時に。このモードでは暗くてもフラッシュは光りません。フラッシュを使えない美術館や夕景、夜景などで撮影するときに使います。発光禁止にするには、フラッシュを収納します。

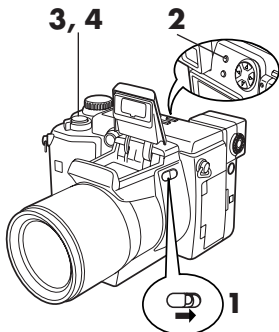
注意

- シャッタースピードが長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

P A S M S-Prg

1 フラッシュスイッチをスライドさせて、フラッシュを起こします。

● 🎥のときは、フラッシュを起こしても発光できません。

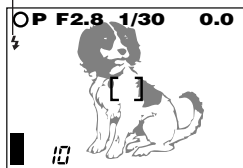
2 コントロールパネルに設定したいモードの表示（下記参照）が出るまで、ϟ（フラッシュモードボタン）を押します。

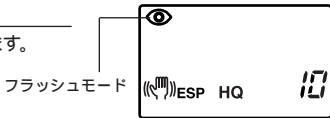
● オート発光（表示なし）→赤目軽減発光（👁）→強制発光（ϟ）

3 シャッターボタンを半押しします。

● フラッシュ発光予告マーク（ϟ）が点灯すると、撮影時にフラッシュが発光します。

● フラッシュ発光予告マーク（ϟ）が点滅すると、フラッシュ充電中です。シャッターは切れません。いったん、シャッターから指をはなし、消灯してから撮影してください。

● 各モードの「注意」をよく読んでください。(P. 100/101)

フラッシュ発光予告マーク

コントロールパネル

4 シャッターボタンを押し切ります。

フラッシュモード

注意

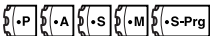
●次の場合は、フラッシュは光りません：オートブラケット撮影(P. 96)、白板／黒板撮影(P. 131)、パノラマ撮影(P. 129)

●マクロ撮影時、特にズームレバーがW側にあるときは、画像の一部が欠けたり、光の量がムラになることがあります。撮影後、必ず再生して確認してください。コンバージョンレンズを使用すると、影ができたり、光がけられるためフラッシュは使用できません。

●設定クリア(P. 142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

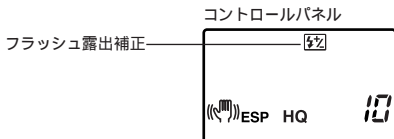
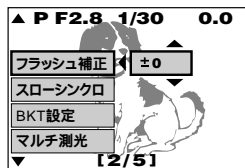
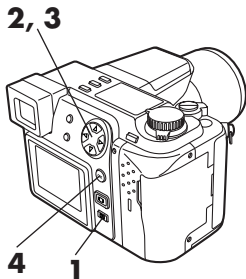
フラッシュの光量を補正する～フラッシュ露出補正 [±]

撮影する被写体によっては、フラッシュの光量を増減させたほうがよいときがあります。

P A S M S-Prg

1 **(メニューボタン)を押します。**
● メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「フラッシュ補正」を選択し、 ▷を押します。**

3 **△ ▽ を押して、補正値を設定します。**
● コントロールパネルに [±] が表示されます。
● △ を押すごとに1/3EV ステップで＋補正、▽ を押すごとに1/3EV ステップでー補正されます。±2EV の範囲で補正できます。EVとは補正値の単位です。

4 **OKボタンを押します。**
● 設定が保存されて、メニューが消えます。

注 意

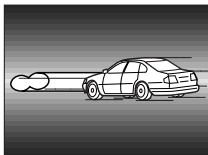
●専用外部フラッシュで「TTL-AUTO」を選択し、内蔵フラッシュと併用する場合は、両方同時にフラッシュの発光量を補正します。
●専用外部フラッシュで「MANUAL」を選択し、内蔵フラッシュと併用する場合は、内蔵フラッシュの発光量のみ補正します。
●シャッタースピードが速い場合はフラッシュ発光量補正の効果が十分に得られないことがあります。

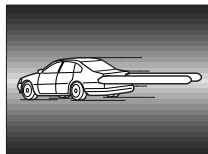
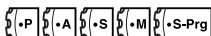
撮影ーフラッシュ（つづき）

フラッシュ発光のタイミングを選ぶ～スローシンクロ

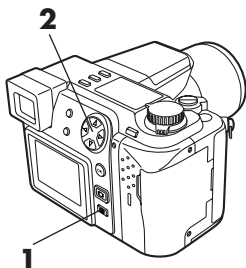
SLOW

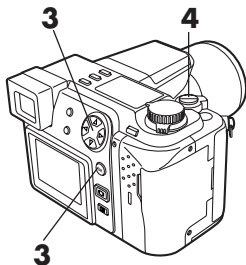
遅いシャッター速度で、フラッシュを発光させます。シャッタースピードが遅いほうが、はっきり効果が出ます。

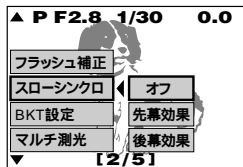
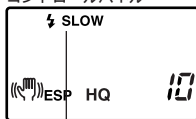
先幕効果：撮影の最初にフラッシュが発光。走行中の自動車を撮影した場合、ヘッドライトの光が走行方向に流れて撮影されます。

後幕効果：撮影の最後にフラッシュが発光。走行中の自動車を撮影した場合、テールランプの光が尾を引いて撮影されます。

•P •A •S •M •S-Prg

1 （メニューボタン）を押します。

- メニュー画面が表示されます。
- モードダイヤルがS-Prgのとき、「 ポートレート」、「 スポーツ」または「 記念撮影」が選ばれていたら、スローシンクロの設定はできません。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「スローシンクロ」を選択し、 ▷を押します。

3 △ ▽ を押して「先幕効果」または「後幕効果」を選択し、OKボタンを押します。

● コントロールパネルに ϟ SLOW が表示されます。
● 再度OKボタンを押すと、設定が保存されメニュー画面が消えて、通常の画面に戻ります。

4 撮影します。

●「後幕効果」では、内蔵フラッシュが予備発光と本発光の2回発光します。

コントロールパネル

スローシンクロモード

注意

●撮影モードがSまたはMのときは、「スローシンクロ」—「オフ」を選択できません。オフに設定してあったときは、この撮影モードに入ったときに、「先幕効果」に設定されます。先幕効果か後幕効果の選択はできます。
●シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使い、カメラがぶれないように撮影してください。
●専用外部フラッシュご使用のときは、外部フラッシュも同じ設定で発光します。
●設定クリア(P．142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

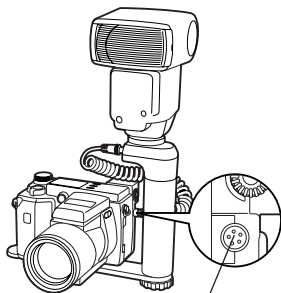
外部フラッシュ撮影

専用外部フラッシュFL-40（別売）で、多彩なフラッシュ撮影を行うことができます。
専用外部フラッシュのみを使っての撮影および、内蔵フラッシュと併用しての撮影もできます。
専用外部フラッシュとカメラの接続には、必ず専用フラッシュブラケットFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB01（別売）をご使用ください。それ以外の方法では、FL-40は市販の外部フラッシュと同じ機能しかできません。

■専用外部フラッシュと内蔵フラッシュを併用して撮影する

専用外部フラッシュを使う場合、カメラのフラッシュモード、露出設定を自動的に検出するため、内蔵フラッシュと同様に扱うことができます。
内蔵フラッシュと外部フラッシュの併用は、内蔵フラッシュでキャッチライト効果を得る等、高度なフラッシュ撮影が可能になります。

1 外部フラッシュFL-40を専用フラッシュブラケットに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをフラッシュブラケットとカメラの外部フラッシュ端子に接続します。

- 専用外部フラッシュ・フラッシュブラケット・ブラケットケーブルそれぞれの取扱説明書もお読みください。
- 外部フラッシュ接続端子のキャップはネジ式ですので、接続の際はキャップを廻して外し、ご使用ください。

外部フラッシュ端子

2 **カメラのモードダイヤルをP、A、S、MまたはS-Prgにします。**

3 **外部フラッシュの電源を入れます。**

● 外部フラッシュのモードは、「TTL-AUTO」になります。

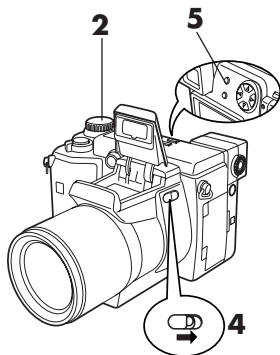
4 **フラッシュスイッチをスライドさせて、内蔵フラッシュを起こします。**

5 **ϟ（フラッシュモードボタン）を押して、カメラのフラッシュモードを選択します。**

● フラッシュモードには、オート発光(P. 66)・赤目軽減発光(P. 101)・強制発光(P. 101)があります。各ページをお読みください。

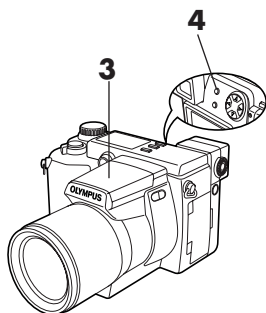
● スローシンクロも設定できます。（P. 104参照）

4

上手に撮影/再生しましょう

■専用外部フラッシュのみを使って撮影する

「専用外部フラッシュと内蔵フラッシュを併用して撮影する」(P. 106)の手順**1**と**2**を行います。

3 **カメラの内蔵フラッシュが収納されているか確認します。内蔵フラッシュが起き上がっていたら、収納します。**

4 **ϟ（フラッシュモードボタン）を押して、コントロールパネルに設定したいモードを表示させます。**
モードは、オート発光（表示なし）→ 赤目 ◉ → 強制 ϟ → 発光禁止 ⓕ の順に切り替わります。

注意

専用外部フラッシュと内蔵フラッシュを併用して撮影する場合
- 近距離撮影時、露出が大きくなる場合があります。内蔵フラッシュをお使い下さい。
- 内蔵フラッシュとFL-40を両方発光させる場合は、内蔵フラッシュは補助光源として発光しますので、FL-40の光量が不足する場合は露出が小さくなります。

専用外部フラッシュのみを使って撮影する場合
- 外部フラッシュの状態により、誤発光することがあります。

市販の外部フラッシュを使って撮影する

専用フラッシュブラケットFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB01（別売）を使って、市販の外部フラッシュも使用できます。
接続できる外部フラッシュの条件については、「使用できる市販の外部フラッシュについて」（P.110）をお読みください。

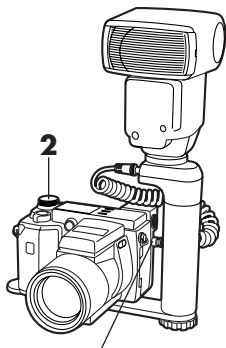
1 外部フラッシュを専用フラッシュブラケットに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをカメラの外部フラッシュ端子に接続します。

2 カメラのモードダイヤルをMにし、シャッタースピードと絞り値を設定します。

- シャッタースピードを遅く設定した場合、画像がぶれて撮影されますので注意してください。

3 外部フラッシュの電源を入れます。

4 外部フラッシュを外部フラッシュ側で、発光させる設定にします。また、外部フラッシュのISO・絞り値をカメラのISO・絞り値に合わせます。

- 外部フラッシュでのモードの選択の方法は、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

外部フラッシュ端子

注意

- カメラのフラッシュモードは、市販の外部フラッシュには適用されません。外部フラッシュは、カメラのフラッシュモードが発光禁止でも発光します。
- 市販ストロボをご使用になる前に以下の点にご注意ください。
  - 市販のフラッシュには、シンクロ端子が高圧タイプのものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、正常に機能しない場合があります。お使いのフラッシュのシンクロ端子の仕様については、フラッシュのメーカーにお問い合わせ下さい。
  - 市販のフラッシュには、シンクロ端子の極性が逆の機種があり、この場合接続しても発光しません。フラッシュのメーカーへご相談下さい。
- お使いになるフラッシュがカメラに同調するかどうか、あらかじめ確認してからお使い下さい。
- オリンパスの専用フラッシュのご使用をお勧めします。

撮影ーフラッシュ（つづき）

■使用できる市販外部フラッシュについて

外部フラッシュを選定する際に、下記の基本条件を満たす製品をご使用ください。

（1）外部フラッシュ使用時の露出は、外部フラッシュ側で調節する必要があります。
外部フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使い下さい。

（2）外部フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合は外部フラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。但し、オートF値、ISO値のシフトは1段刻みが一般的でそれ以下の露出補正は出来ません。（カメラ側の露出補正は外部フラッシュ撮影においては無効となります。）

（3）照射角度は35mmフィルム換算で、38mmレンズ以上カバーする製品をご使用ください。但し、ワイド側の近距離撮影においては、画面下がけられる場合があります。フラッシュの配光を広げるワイドアダプタが付属されているものが理想的です。

（4）フル発光時の閃光時間が1/200秒以下の製品をご使用ください。
リングフラッシュ等閃光時間が長いものは、光の一部が露出に寄与しなくなる場合があります。

（5）FL-40以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となる事がありますので使用しないでください。

連続して撮影する〜連写モード DRIVE

連続撮影したい時に使います。シャッターボタンを押している間、連写ができます。シャッターボタンをはなすと、連写が止まります。最大2コマ/秒の連写が可能です。(画質モードはTIFF以外) 連写モードはドライブボタン DRIVE を押して、切り替えられます。連写モードには、次のようなものがあります。

単写(表示なし)：シャッターを押したら、一枚だけ撮影されます。(初期設定)

連写( )：連続撮影。最初の一コマで、ピント・明るさ(露出)・ホワイトバランスが固定されます。連写時の撮影速度と連写撮影可能枚数の目安は、以下の表のとおりです。

AF連写(AF)：連続撮影。一コマごとに、ピント・明るさ(露出)・ホワイトバランスが測定され、変更されるので、連写速度は遅くなります。連写時の撮影速度と連写撮影可能枚数の目安は、以下の表のとおりです。

セルフタイマー／リモコン( )：セルフタイマーまたはリモコンを使用して、撮影します。説明はP. 113〜115をお読みください。

オートブラケット(BKT)： 連続撮影。連写枚数を設定できます。一コマごとに明るさ(露出)を変えて撮影します。ピント・ホワイトバランスは最初の一コマで、固定されます。説明はP. 96をお読みください。

連写速度と連写可能枚数

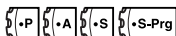
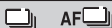
画質モード	連写速度(コマ／秒)	連写可能枚数
TIFF	設定できません。	
SHQ	1.5コマ／秒	約5枚
HQ	1.8コマ／秒	約16枚
SQ (640 x 480)	2コマ／秒	約86枚

注意

● フラッシュ使用時は、フラッシュの充電時間がかかるので、連写は遅くなります。

撮影ーその他（つづき）

連写・AF連写

•P •A •S •S-Prg

1 画質モードをTIFF以外に設定してください。TIFFに設定されていると、連写は設定できません。(P. 98)

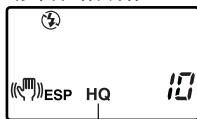
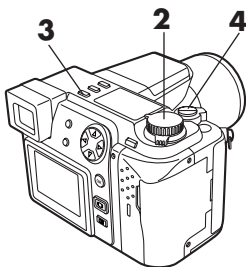
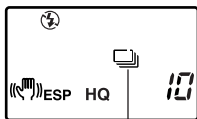
2 モードダイヤルがP、A、S、M またはS-Prgであることを確認します。

3 コントロールパネルに、（連写）または AF（AF連写）が表示されるまで、DRIVE（ドライブモードボタン）を押します。

4 撮影します。

- 連写中に電池を消耗して電池残量マークが点滅したら、撮影を中止してカードに記録を始めます。

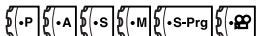
4

上手に撮影/再生しましょう

注意

- 赤目発光 は、連写モードでは設定できません。
- 外部フラッシュ使用時は、連写速度に追従できる設定をおすすめします。
- シャッタースピードはカメラぶれを抑えるため最長1／30秒に設定されているため、暗い被写体では露出不足の画像になります。
- 設定クリア(P. 142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

セルフタイマーを使う

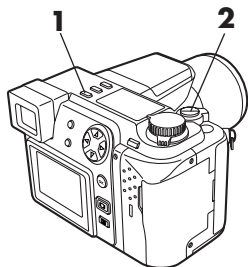
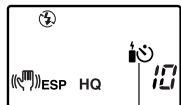
カメラを三脚などにしっかりと固定させてください。

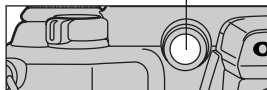
•P •A •S •M •S-Prg •🎥

1 コントロールパネルに （セルフタイマー／リモコン）が表示されるまで、DRIVE（ドライブボタン）を押します。

2 シャッターボタンを押します。

- カメラ前面のセルフタイマランプが約10秒間点灯します。さらに、約2秒間点滅したら、シャッターが切れて撮影完了です。
- 🎥の場合、撮影が開始されます。撮影を終えるには、連続撮影時間一杯撮りきるか、再度シャッターボタンを押します。

作動中のセルフタイマーを止めるには...

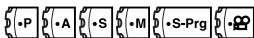
DRIVE（ドライブボタン）を押してください。

コントロールパネル

セルフタイマー／リモコン

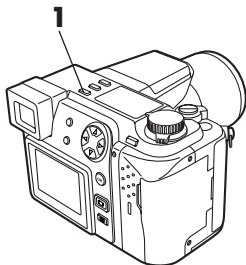
セルフタイマランプ

●セルフタイマーで撮影後、セルフタイマー／リモコンモードは解除されます。

4

上手に撮影/再生しましょう

リモコンを使う

カメラを三脚などにしっかりと固定させてください。リモコンを使って、再生もできます。(P. 70)

•P •A •S •M •S-Prg •🎥

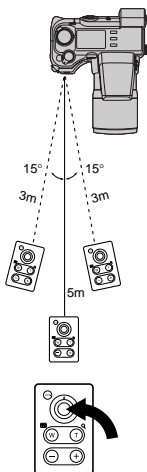
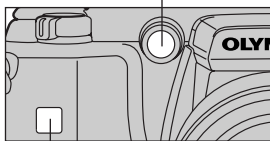
1 コントロールパネルに （セルフタイマー／リモコン）が表示されるまで、 DRIVE （ドライブボタン）を押します。

2 リモコンをカメラのリモコン受信窓に向け、リモコンのW又はTボタンを押し、構図を決めます。

● カメラのセルフタイマランプが点滅します。

3 *モードダイヤルがP、A、S、Mまたは S-Prgのとき*
リモコンのシャッターボタンを押します。

● カメラのセルフタイマランプが点滅し、約3秒後にシャッターが切れて撮影完了です。

モードダイヤルが🎥のとき
リモコンのシャッターボタンを押します。

● カメラのセルフタイマランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れて撮影が始まります。再び、リモコンのシャッターボタンを押すと、撮影が終わり、カードに記録を始めます。

━ リモコンが効かないとき ━

● シャッターボタンを押しても、セルフタイマランプが点滅しない場合は、カメラに近付いて再度シャッターボタンを押します。

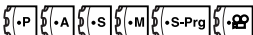
● セルフタイマランプが点滅しない場合は、電波が混信していることがあります。リモコンの取扱説明書に従い、チャンネルを変えてください。

注意

●太陽下など明るい環境では、リモコン電波の到達距離が短くなります。
●リモコン受信窓に強い光をあてないでください。
●撮影後もセルフタイマー／リモコンモードは解除されません。

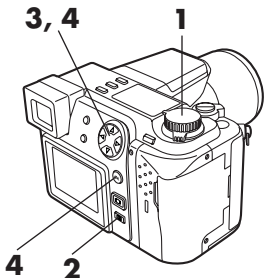
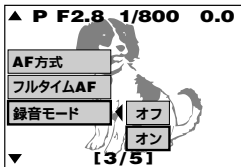
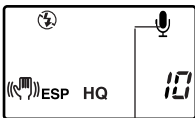
撮影時の音声をメモする〜録音モード

撮影したときに、音声をメモするかどうかを設定します。
静止画のとき：撮影後、約4秒間の音声メモです。
動画のとき：撮影と同時に音声を記録します。
静止画モード・動画モードそれぞれの撮影モードで設定してください。
撮影した静止画を再生するときでも、音声をメモ（アフレコ）できます。(P.133)

P A S M S-Prg 🎥

1 **静止画撮影のとき：モードダイヤルは、P、A、S、MまたはS-Prgにします。**
動画撮影のとき：モードダイヤルは、🎥にします。

2 **☰（メニューボタン）を押します。**
● メニュー画面が表示されます。

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して「録音モード」を選択し、▷ を押します。**

4 **△ ▽ を押して「オン」を選択し、OKボタンを押します。**
● コントロールパネルに、録音マークが表示されます。

画面は静止画撮影メニュー

コントロールパネル

録音マーク

5 OKボタンを押してから、撮影します。

- 設定が保存され、メニュー画面から抜けます。
- シャッターが切れて、約0.5秒後から録音が始まります。

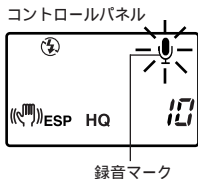
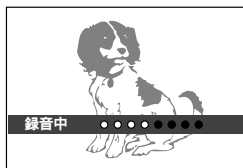
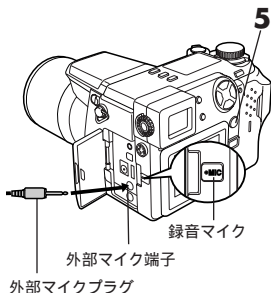
6 録音中は、カメラのマイクを録音したい対象に向けます。

- 録音中は、コントロールパネルの録音マークが点滅し、「録音中」を示すバーが表示されます。
- 対象がカメラから1m以上離れると、きれいに録音されません。
- 録音中は、次の撮影はできません。

外部マイクを使って音声をメモできます

外部マイク端子に外部マイクを接続して、マイクを録音したい対象へ向けます。このとき、カメラ内蔵のマイクからは音声を取り込みません。

再生 ▶ モードのときは

撮影後の静止画にアフレコで、音声をつけられます。→P. 133

注意

- TIFFモードではできません。（再生モードでのアフレコはできます）(P. 133)
- ドライブモードが連写・AF連写 ▭ AF▭ またはオートブラケット BKT のときは、設定できません。

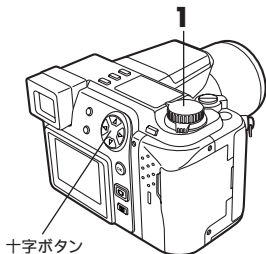
再生ー撮影した画像を見る

静止画像の再生には、画像を一つだけ表示する（１コマ再生）方法と、複数の画像を一度に表示する（インデックス再生）方法とがあります。また、１コマ再生中の画像を拡大表示（クローズアップ再生）したり、撮影した画像をスライドのように自動再生（自動再生）することもできます。

画像を一つだけ表示する〜１コマ再生

1 モードダイヤルを ▶ にします。

- 液晶モニタが点灯し、最新の画像が再生されます。
- （液晶モニタボタン）を押すと、ビューファインダでの表示に切り替えられます。(P. 59)
- 再生する画像を選択するには、十字ボタンを使います。
  - ◁ ：一つ前の画像に戻る。
  - ▷ ：次の画像に進む。
  - △ ：10コマ前の画像に戻る。
  - ▽ ：10コマ先の画像に進む。
- 画像の情報（設定されている項目／日時／ファイルネームなど）をみるには、INFOボタンを押してください（P.22）。
- モードダイヤルによる再生モードでも、簡単再生による再生モードでも同じことができます。(P. 67)
- 縦位置で撮影した画像を見やすいように回転させる機能もあります。→縦長で撮影した画像を回転させて見る(P. 132)

１コマ再生
（画像情報表示時）

注意

- 液晶モニタは指などで強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像がきれいに表示できなくなるばかりか、液晶モニタが割れる危険性があります。
- 音声を再生する場合には、カメラをテレビに接続してください。

複数の画像を一度に表示する〜インデックス再生

ズームレバーをＷ側に回すと、一つの画面に複数の画像（４／９／１６分割）を表示させることができます。多数の画像の中から、見たい画像を素早く検索したいときに便利です。このときの分割数を変えるには→インデックス再生時の表示コマ数を変更する(P. 159)

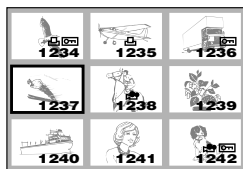
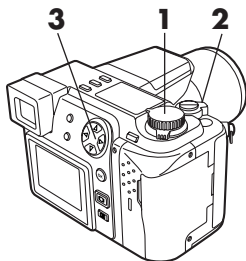
１ モードダイヤルを ▶ にします。

● 液晶モニタが点灯し、最新の画像が再生されます。

２ ズームレバーをＷ側に回します。

● 手順１で表示された画像を含む複数の画像が、１秒後にインデックス再生されます。

３ 十字ボタンで見たい画像を選択します。

◁： 左コマへ移動する。
▷： 右コマへ移動する。
△： 左上に表示されている画像を含んで、前ページに戻る。
▽： 右下に表示されている画像を含んで、次ページに進む。

インデックス再生（9分割）

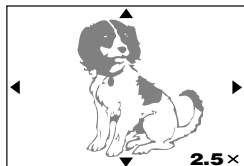
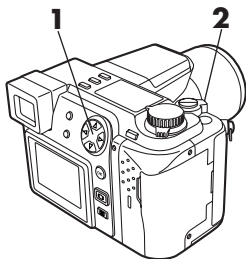
インデックス再生から画像を選んで１コマ再生するには...

十字ボタンで画像を選択し、ズームレバーをＴ側に回してください。

画像を拡大して表示する〜クローズアップ再生

ズームレバーをT側に回すごとに、画像を1.5倍、2倍、2.5倍、3倍に拡大することができます。

1 十字ボタンで拡大したい画像を選択します。
- 🎥のついた画像は、拡大できません。

2 ズームレバーをT側に回します。
- ズームレバーをT側に回すごとに、倍率が1.5倍→2倍→2.5倍→3倍に変化します。
- 1倍に戻すにはズームレバーをW側に回します。

ズーム範囲を選択するには...

十字ボタン（◁／▷／△／▽）を押すと、拡大した画像をずらして、画面内の◀／▶／▲／▼の方向を見ることができます。

拡大したい画像を変更するには...

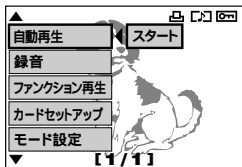
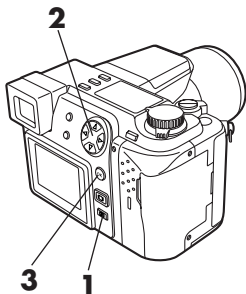
ズームレバーをW側に回して、現在表示されている画像を1倍に戻し、拡大したい画像を選びます。（P. 118/119）

複数の画像を１枚ずつ自動的に再生する〜自動再生

スライドをみるようときのように、カードに記録されている画像を１枚ずつ自動的に再生させることができます。

1 **（メニューボタン）を押します。**
- メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「自動再生」を選択し、 ▷を押して「スタート」を選択します。**

3 **OKボタンを押します。**
- 自動再生が始まります。
- 自動再生を中止するには、メニューボタンを押してください。

注意

- 長時間にわたって自動再生を行う場合には、家庭用コンセントを使用してください。電池をお使いの場合、自動的に機能が約30分後に終了します。
- 自動再生は、一巡しても止まりません。

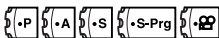
5

上級テクニックをマスターしましょう

撮影／再生の上級テクニックをマスターします。また、自分が使いやすいように、いろいろな機能を細かく設定します。静止画撮影メニュー、静止画再生メニュー、動画撮影メニュー、動画再生メニューでは、設定項目が異なりますので、ご注意ください。

露出を固定する〜AEロック

AEL

AELボタンを押すと、カメラを向けている構図での露出を固定します。撮影したい構図と露出を合わせたい構図とが異なるときに使います。

•P •A •S •S-Prg •🎥

1 モードダイヤルをP、A、S、S-Prgまたは🎥にします。

● Mにセットされていると、AEロックはできません。

2 露出を合わせたい構図にして、AELボタンを押します。

● 露出の記憶中、AEL と表示されます。

●「マルチ測光」が設定されていると、測光メータが表示されます。「オフ」にしてください。(P. 126)

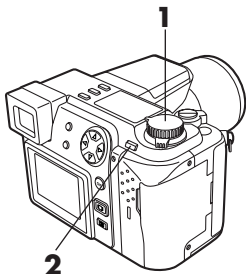
固定した露出を変えたいときは...

カメラを構え直して、再びAELボタンを押します。AELボタンを押すたびに、露出は更新されます。

AEロックを取り消すには...

十字ボタンの ▷ を押します。AEL表示が消えます。

記憶した露出を撮影後も記憶させておくには（AEメモリ）...

◁ を押します。MEMO と表示されます。

AEメモリ中

3 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

● オートフォーカス合焦マークが点灯します。

4 シャッターボタンを押し切ります。

● 撮影が終わると、AEロックは解除され AEL の表示は消えます。

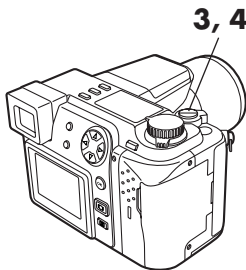
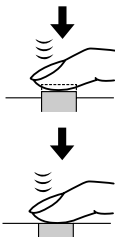
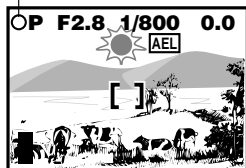
● MEMO が表示されているときは、シャッターを切ったあとも露出は記憶されていて、次の撮影でも有効です。

■ シャッターボタンを半押ししてから、AEロックすることもできます。

▬ AEロックが解除されるとき ▬

以下の場合は、AEロック、AEメモリともに解除されます。

- モードダイヤルの設定を変える。
- パワースイッチをOFFにする。
- （測光モードボタン）で測光モードを変える。
- ドライブモードを変える。
- フラッシュモードを変える。
- （メニューボタン）を押して、メニュー画面を表示する。

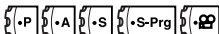
カメラのスリープ動作では、解除されません。

注意

●メニュー画面を表示していると、AEロックはできません。

撮影ー明るさ／露出（つづき）

明るさの平均を測る〜マルチ測光

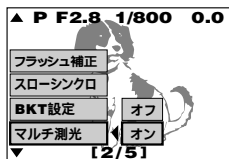
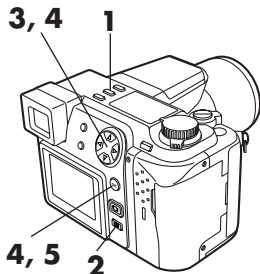
被写体の明るさを最大8回まで測り、その平均値で撮影条件を決めます。

•P •A •S •S-Prg •🎥

1 （測光モードボタン）を押して、（中央重点測光）か（スポット測光）を選択します。(P. 94)

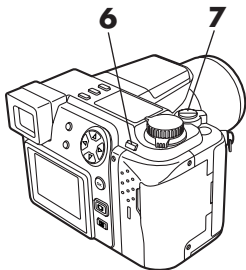
2 （メニューボタン）を押します。
● メニュー画面が表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「マルチ測光」を選択し、▷を押します。

4 △ ▽ を押して、「オン」を選択し、OKボタンを押します。

5 OKボタンを押します。
● 設定が保存されメニュー画面が消えて、通常の画面に戻ります。

画面は静止画撮影メニュー

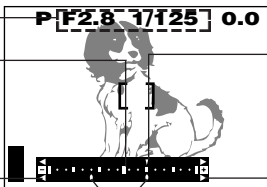
6 カメラを被写体に向け、AEL（マルチ測光ボタン）を押します。

- 画面下にマルチ測光中を示すバーが表示されます。
- 9回目以降は、無視されます。
- ▷ を押すと、すべての測光値は消えます。
- ◁ を押すと、そこまでのマルチ測光値が記憶されます。（AEメモリ）

7 撮影します。

例：2つのポイントを測光した場合（AELボタンを2回押した場合）

2回の測光の平均値から算出されたシャッター速度／絞り値。さらにポイントを測光して、平均値を出すたびに、ここの数値は更新されます。

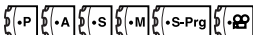
2回の測光の平均値。バーの中央は、常に測光したポイントの平均値を示します。

レンズを向けている被写体を測光して、平均値との差を表示します。シャッターボタンを半押しすると、測光値は固定され、このマークは止まります。（AELを押さないと、平均値の計算にはここの値は含まれません。）

AELを押したポイントの測光値。◆の数は、押した回数分表示されます。測光値と平均値との差の分だけ、バーの中央から離れた位置に◆が表示されます。

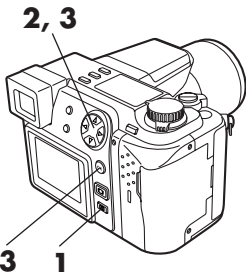
平均値を示すバーの中央から、◆が±3以上離れると、赤い◁ ▷ が表示されます。

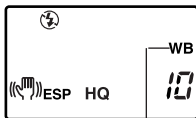
色合いを調整する〜ホワイトバランス

被写体は光源によって、色が変わって撮影されます。光源に合わせて設定を変えます。また、電球に照らされた被写体のように、人の目で見た感じになるような設定もできます。

P A S M S-Prg 動画

1 **（メニューボタン）を押します。**
● メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「ホワイトバランス」を選択し、▷ を押します。**

3 **△ ▽ を押して設定したい項目（下記参照）を選択し、OKボタンを押します。**
● 選択項目：
オート、
(晴天)、
(曇天)、
(電球)、
(蛍光灯)
● 再度OKボタンを押すと、設定が保存されメニュー画面が消えて、通常の画面に戻ります。
● オート以外の設定をすると、コントロールパネルに「**WB**」が表示されます。

画面は静止画撮影メニュー

コントロールパネル

マニュアルホワイトバランスマーク

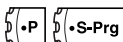
注意

●通常はオートに設定してお使いください。
●特殊な光源下では対応できない場合があります。
●設定クリア(P.142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。
●色の確認は必ず画像を再生して行ってください。

撮影ーその他

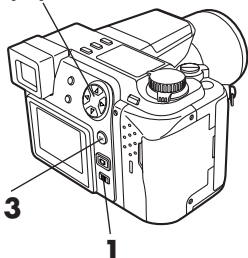
パノラマ撮影する〜機能カード

オリンパスの標準スマートメディア(カード)には、パノラマモードが付いており、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。
被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（別売）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成します

•P •S-Prg

1 **（メニューボタン）押します。**
● メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「機能カード」を選択します。**

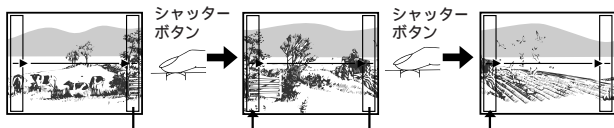
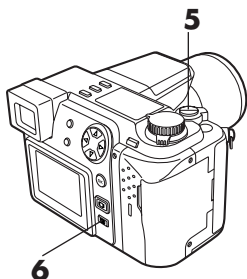
3 **▷ を押して「実行」を選択し、OKボタンを押します。**

4 **十字ボタンを押して、つなげる方向を上下左右4方向に指定します。**
● つなげる方向が表示されます。

撮影ーその他（つづき）

5 **被写体の端が重なるようにして、撮影します。**

● ピント・露出・ホワイトバランスとも1枚目で決定されます。1枚目に太陽を入れた撮影などをしないでください。

● １枚目を撮影した後は、ズーム操作をしないでください。つなぎ合わせができなくなります。

● 最大10枚までのパノラマ撮影が可能です。

前に撮影した画像の右端(左回りの時は左端)に重なるように撮影してください

6 **パノラマ撮影を終わるときは、 (メニューボタン）を押します。**

● 画面内の枠が消えて、通常の撮影モードに戻ります。

注意

●標準カード以外のカードでは、パノラマモードは使えません。

●パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、別売のCAMEDIA Master2.0をご使用ください。

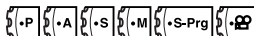
●HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影を行うと、パソコンのメモリ不足になることがありますので、SQモードでの撮影をおすすめします。

●TIFF(非圧縮)でパノラマ撮影をすると、JPEG(圧縮)で記録されます。

●パノラマ撮影中に暗くなっても、シャッターの半押し操作で、 （フラッシュ発光予告マーク）は表示されません。

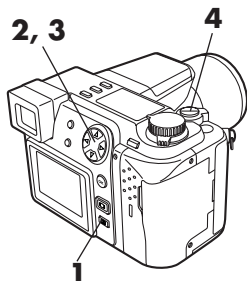
特殊効果～ファンクション撮影

モノクロは白黒に、セピアはセピア色に撮影できます。白板は白板上に書いた文字を、黒板は黒板上に書いた文字をそれぞれ読みやすく撮影します。
モードダイヤルが 🎥 のときは、モノクロとセピアのみです。

•P •A •S •M •S-Prg •🎥

1 **☰（メニューボタン）を押します。**
- メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「ファンクション撮影」を選択し、▷ を押します。**

3 **△ ▽ を押して設定したい項目（上記参照）を選択し、OKボタンを押します。**
- 再度OKボタンを押すと、設定が保存されメニュー画面が消えて、通常の画面に戻ります。

4 **撮影します。**

画面は静止画撮影メニュー

画面は動画撮影メニュー

注 意

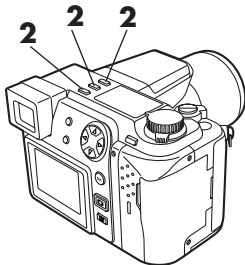
- 「白板」「黒板」を選択すると、フラッシュは ⚡(発光禁止モード）になります。(P. 101)
- 「白板」「黒板」を選択して文字がきれいに撮影されない場合は、露出補正をしてください。(P. 93参照)
- 設定クリア(P. 142)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。
- モードダイヤルを「 🎥 」にセットすると、「白板」と「黒板」はオフに戻ります。
- ホワイトバランスの設定はできません。

再生ー撮影した画像を見る

縦位置で撮影した画像を回転させて見る [マクロ] / [測光]

カメラを縦に構えて撮影すると、再生して画像を見るときは横向きに表示されます。見やすいように、画像を縦向きに再生できます。時計方向に90度、反時計方向に90度回転できます。

1 **縦位置の画像を表示します。**

2 ***時計方向に90度回転するには...***
[マクロ]（マクロボタン）を押します。
反時計方向に90度回転するには...
[測光]（測光ボタン）を押します。
もとの縦位置の位置に戻すには...
DRIVE（ドライブボタン）を押します。

縦位置で撮影したときの通常の再生状態

[マクロ]（マクロボタン）を押して時計方向へ回転

[測光]（測光ボタン）を押して反時計方向へ回転

注意

- 電源を切っても、設定は記憶しています。
- 予約プリントの操作のときは、回転表示しませんが、通常の再生に戻すと回転表示します。

再生ー画像を加工する

撮影した静止画にあとから音声メモをつける

撮影済みの画像に音声をつけること（アフレコ）や、すでにメモされている音声を書き換えることもできます。

外部マイクを使うには...

外部マイクで音声をメモできます。別売のデジタルカメラ用タイピンマイクをお使いください。

1 **（メニューボタン）を押します。**

● メニュー画面が表示されます。

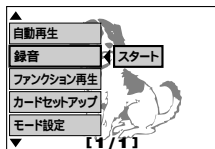
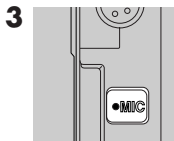
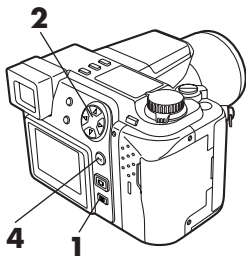
2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「録音」を選択し、▷ を押します。**

3 **カメラのマイクを、録音したいほうへ向けます。**

● 録音したいものから、マイクを1m以上離さないでください。離すと、きれいに録音されないことがあります。

4 **OKボタンを押して、撮影を開始します。**

● 録音時間は約4秒間です。

● 録音中を示すバーが表示されます。

注意

● プロテクトされた画像には、録音できません。
● ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには録音できません。
● カードの残り容量が少ない場合は、録音できないことがあります。
● 録音済みの画像に再度録音した場合は、前の音声が消えて新しい録音のみ残ります。

撮影した動画を加工する〜ファンクション再生

撮影した動画のインデックスを作ったり、画像の編集を行います。

■インデックス作成

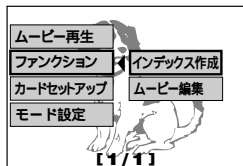
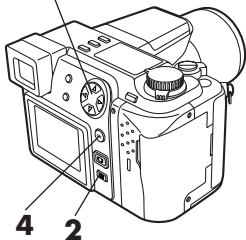
撮影した動画の内容が一目でわかるように、インデックスを作成できます。また、作成したインデックスは静止画としてカードに保存できます。作成できるインデックス画像は、9分割のみです。
作成されたインデックス画像は、撮影時の画質モードとは違うモードで保存されます。

撮影時の画質モード	インデックス画像の画質モード
HQ	SQ （1024 x 768／高画質）
SQ	SQ （640 x 480／高画質）

1 **十字ボタンを押して、 のついた画像を表示します。**

2 **（メニューボタン）を押します。**
● メニュー画面が表示されます。

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して「ファンクション」を選択し、 ▷ を押します。**

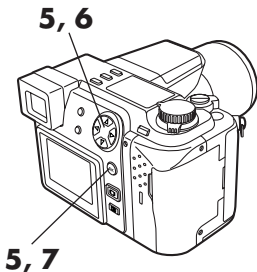
4 **△ ▽ を押して「インデックス」を選択し、OKボタンを押します。**

5 十字ボタンを押して、撮影した動画のコマのなかから、インデックス表示の先頭コマを選択します。確定したら、OKボタンを押します。

△：撮影した動画の先頭コマへ。

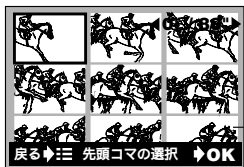
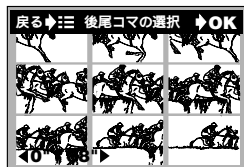
▽：撮影した動画の最終コマへ。

▷：コマを一つずつ進みます。

◁：コマを一つずつ戻ります。

● インデックス表示最後尾の絵を残して、他のコマは瞬時に切り替わり、随時インデックス表示されます。
● 左下に動画全体の時間と、選択している最後尾の時間が表示されます。
● OKボタンが押され、先頭コマが確定すると、選択枠はインデックス表示の最後尾に移動します。

インデックス表示の最後尾

6 十字ボタンを押して、撮影した動画のコマのなかから、インデックス表示の最後尾コマを選択します。十字ボタンの使い方は、手順5にあるのと同様です。

● 先頭コマの絵を残して、他のコマは瞬時に切り替わり、随時インデックス表示されます。
● メニューボタンを押すと、先頭コマの選択へ戻ります。

7 最後尾コマが確定したら、OKボタンを押します。

● 作成したインデックス画像がカードに記録されて、メニュー画面から抜けます。

5

上級テクニックをマスターしましょう

再生ー画像を加工する（つづき）

注 意

●次のようなカードでは、インデックス作成はできません。
　ープロテクトされたカード。
　ー撮影モードにしたとき、カード残量がないことを告げる警告が出るカード。

■ムービー編集

記録したムービーから不要な部分を削除したり、編集して新しい画像として記録します。

1 **十字ボタンを押して、 のついた画像を表示します。**

2 **（メニューボタン）を押します。**
● メニュー画面が表示されます。

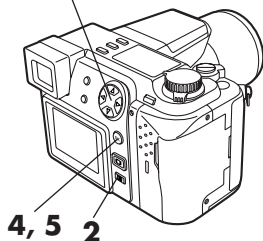
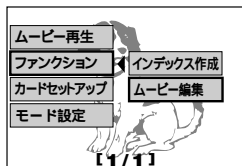
3 **十字ボタンの △ ▽ を押して「ファンクション」を選択し、 ▷ を押します。**

4 **△ ▽ を押して「ムービー編集」を選択し、OKボタンを押します。**

5 **十字ボタンを押して、先頭コマを表示します。確定したら、OKボタンを押します。**

△ ：撮影した動画の先頭コマへ。
▽ ：撮影した動画の最終コマへ。
▷ ：コマを一つずつ進みます。
◁ ：コマを一つずつ戻ります。

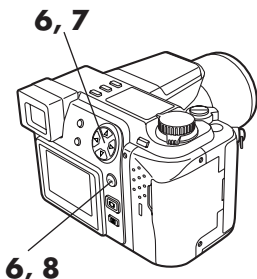
5

上級テクニックをマスターしましょう

6 十字ボタンを押して、最終コマを表示します。確定したら、OKボタンを押します。十字ボタンの使い方は、手順5にあるのと同様です。

7 ◁ ▷を押して、「新規作成」か「上書き保存」を選択します。

- 「新規作成」は編集した画像を、別の名前で新しい画像として保存します。
- 「上書き保存」は編集した画像を、元の名前で保存します。元の画像は失われます。

8 OKボタンを押します。

- 画像が記憶され、メニューから抜けます。

注意

- 次のようなカードでは、ムービー編集はできません。
  - －プロテクトされたカード。
  - －撮影モードにしたとき、カード残量がないことを告げる警告が出るカード。
- プロテクトされた画像では、上書き保存はできません。

機能設定でカメラを使いやすくする～モード設定

カメラをうまく使いこなせるように、いろいろな機能をお好みに設定できます。設定できる機能は、たとえばモニタの明るさを調整する、画面に表示される長さの単位を選ぶ、カメラの動作音の設定など、基本的なものがあります。

モード設定メニュー一覧

項目	目的	初期設定
設定クリア（P. 142）	電源を入れたときに設定されるカメラの状態を決めます。	オン
シャープネス（P. 146）	画像の鮮鋭度を設定。	標準
TIFF設定＊1、＊2（P. 147）	画質モードTIFFの記録サイズを設定。	1600 x 1200
SQ設定＊1、＊2（P. 148）	画質モードSQの記録サイズや画質について設定。	640 x 480 標準
ビープ音（P. 150）	カメラを操作したときに鳴る音の大きさを設定。	大
AFイルミネータ＊1、＊2（P. 151）	AFイルミネータの発光のオン／オフを設定。	オン
レックビュー＊2（P. 152）	撮影後の記録画像を表示するかしないかを設定。	オフ
スリープ時間（P. 153）	操作をしなくなってから、電源節約状態になるまでの時間を設定。	1分
ファイル名メモリ＊2（P. 154）	カードに記録するファイル名の記憶方法を設定。	リセット
モニタ調整（P. 157）	ビューファインダと液晶モニタの明るさを設定。	− - - - - - - - ◆ - - - - - - - +
日時設定（P. 48）	日時の設定。	―
m/ft設定＊2（P. 158）	フォーカスの設定(P. 88)の際の長さ単位を設定。	m
インデックス表示＊3（P. 159）	インデックス再生時の画面分割数を設定。	9

＊1 動画撮影時には（モードダイヤルが 🎥 ）、メニュー設定にはありません。

＊2 再生時には（モードダイヤルが ▶ ）、メニュー設定にはありません。

＊3 再生時のみ、メニュー設定できます。

注意

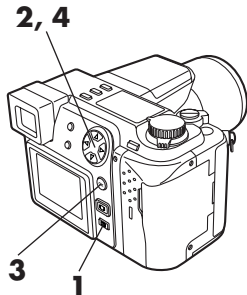
● パワースイッチでリセットを行うと、日時設定以外の設定を工場出荷時の状態に戻すことができます(P. 52)。

モード設定メニュー画面の操作方法

1 **（メニューボタン）を押します。**
● メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「モード設定」を選択し、▷ を押て「設定」を選択します。**

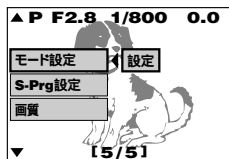
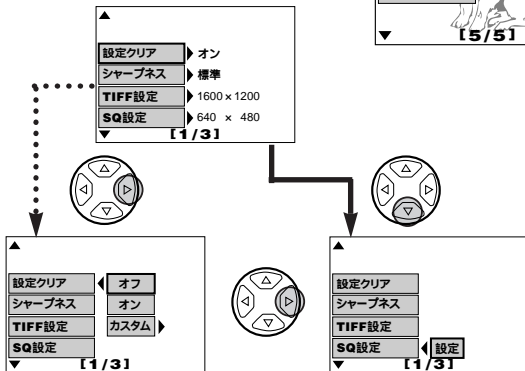
3 **OKボタンを押します。**
● モード設定画面が表示されます。

4 **△ ▽ を押して、設定したい項目を選択し、▷ を押します。**
選択した項目の設定内容が、複数表示された場合は、手順5へ進みます。「設定」と表示された場合は、手順6へ進みます。

画面は静止画撮影メニュー

画面は静止画撮影モード設定メニュー

▲
設定クリア ▶ オン
シャープネス ▶ 標準
TIFF設定 ▶ 1600×1200
SQ設定 ▶ 640 × 480
▼ [1/3]

▲
設定クリア ◀ オフ
シャープネス オン
TIFF設定 カスタム ▶
SQ設定
▼ [1/3]

▲
設定クリア
シャープネス
TIFF設定
SQ設定 ◀ 設定
▼ [1/3]

例：設定クリアを選択する場合→手順5へ

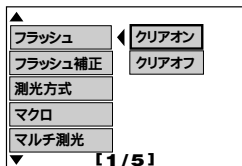
例： SQ設定を選択する場合→手順6へ

機能設定でカメラを使いやすくする～モード設定（つづき）

5 ***選択した項目の設定内容が、複数表示された場合***

△ ▽ を押して、設定内容を選択し、OKボタンを押して確定します。手順7へ進みます。
もし「設定クリア」－「カスタム」を選択したら…

❶ ▷を押します。カスタム設定画面が表示されます。
❷ △ ▽ を押して、設定したい項目を選択し、▷を押します。
❸ △ ▽ を押して、「クリアオン」または「クリアオフ」を選択し、OKボタンを押します。△▽を押して、他の項目の設定を繰り返して行います。設定がすべて終了したら、再度OKボタンを押します。
手順**7**へ進みます。

カスタム設定画面

6「設定」と表示された場合

❶ OKボタンを押します。

❷ △ ▽ を押して、設定内容を選択します。

❸ **選択した設定内容だけの場合**

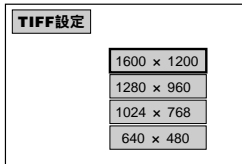
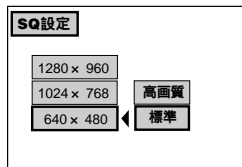
OKボタンを押します。モード設定画面に戻ります。

選択した設定内容に、新たな設定内容がある場合

▷ を押します。△ ▽ を押して、設定内容を選択します。OKボタンを押します。モード設定画面に戻ります。

7 OKボタンを押します。

● 設定が保存されメニュー画面が消えて、通常の画面に戻ります。

選択した設定内容だけの場合

選択した設定内容に、新たな設定内容がある場合

注 意

●設定を保存するには、必ずOKボタンを押してモード設定画面に戻ってください。

カメラの電源を切ったときに設定を元に戻す～設定クリア

カメラの設定を変えたあとに、次に電源を入れたときでも、電源を切る前の設定でカメラを使いたいときは以下の設定をします。「オフ」に設定すると、電源を切る前の設定が保存され、次に電源を入れたときに電源を切る直前の設定になります。

1 モード設定画面を表示させます。
→モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3(P. 139)

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「設定クリア」を選択し、▷ を押します。△ ▽ を押して、「オン」か「オフ」を選択します。OKボタンを押して、選択を確定します。

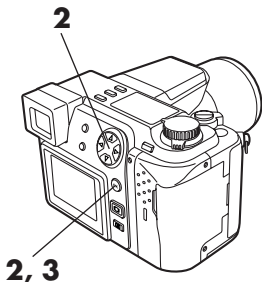
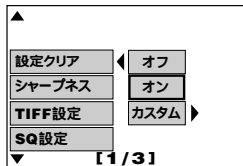
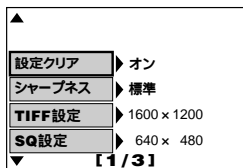
●「カスタム」の選択は、P. 144をお読みください。

● **オン：**電源を切った時に、設定が解除されて初期設定に戻ります。（p. 143）

オフ：電源を切っても、設定は解除されません。

3 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

画面は静止画撮影モード設定メニュー

注意

●電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

「オン」を選択すると電源を切ったとき、初期設定に戻る項目とその初期設定

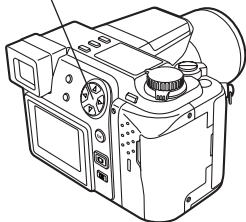
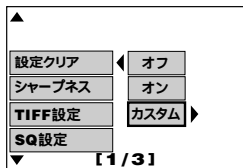
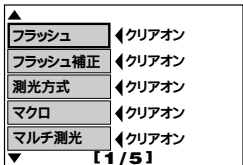
設定項目	初期設定
フラッシュ(P. 100)	オート
フラッシュ発光補正量(P. 103)	±0
測光方式(P. 94)	ESP
マクロモード(P. 84)	通常
マルチ測光(P. 126)	オフ
ドライブ(P. 111)	単写
BKT（オートブラケット）設定(P. 96)	±1、3枚
手振れ補正(P. 91)	オン
ズーム位置(P. 65)	Wide側
デジタルズーム(P. 92)	オフ
絞り値設定(P. 81)	F2.8
シャッター速度設定(P. 82)	1/60
露出補正(P. 93)	±0
ホワイトバランス(P. 128)	オート
ISO感度(P. 95)	オート
スローシンクロ(P. 104)	オフ
AF方式(P. 90)	iESP
フルタイムAF(P. 89)	オフ
フォーカスモード(P. 88)	AF
INFO（画像情報表示）(P. 22)	オン（特定の表示のみ）
ファンクション撮影(P. 131)	オフ
S-Prg モード(P. 80)	ポートレート
スチル録音モード(P. 116)	オフ
ムービー録音モード(P. 116)	オン
スチル画質モード(P. 98)	HQ
ムービー画質モード(P. 98)	HQ

カメラの電源を入れたときの設定を決める～設定クリアーカスタム

電源を入れたときに設定されるズーム位置、絞り値などの各設定をあらかじめ決めておけます。

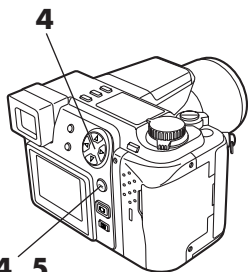
1 モード設定画面を表示させます。
→モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3(P. 139)

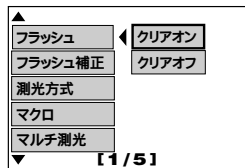
2 十字ボタンの △ ▽ を押して「設定クリア」を選択し、▷ を押します。 △ ▽ を押して「カスタム」を選択し、▷を押します。
● カスタム設定画面が表示されます。

3 △ ▽ を押して設定したい項目(→カスタムで設定できる項目、P. 145)を選択し、▷を押します。

画面は静止画撮影モード設定メニュー

画面はカスタム設定画面

4 △ ▽ を押して「クリアオン」か「クリアオフ」を選択し、OKボタンを押します。

● 他にも変更したいモードがあれば、手順**2**、**3**、**4**を繰り返して設定します。

5 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

●「設定クリア」を「カスタム」以外の選択にしても、「カスタム」のなかで設定した内容は、保存されています。

「カスタム」で設定できる項目

- ●フラッシュ
- ●フラッシュ補正
- ●測光方式
- ●マクロ
- ●マルチ測光
- ●ドライブ
- ●BKT設定
- ●手振れ補正
- ●ズーム位置
- ●デジタルズーム
- ●絞り値
- ●シャッタ速度
- ●露出補正
- ●ホワイトバランス
- ●ISO感度
- ●スローシンクロ
- ●AF方式
- ●フルタイムAF
- ●AF/MF
- ●INFO
- ●ファンクション撮影
- ●スチル録音モード
- ●ムービー画質モード
- ●S-Prgモード
- ●スチル画質モード
- ●ムービー画質モード

■「クリアオン」を設定したら■

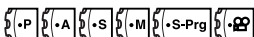
P.143の表にある初期設定に戻ります。

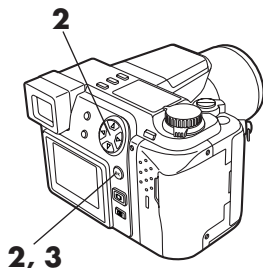
注意

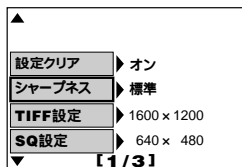
●電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

画像の鮮鋭度を設定する〜シャープネス

「標準」は画像の輪郭がシャープです。プリントなどの鑑賞用に適しています。「ソフト」は画像の輪郭がソフトです。加工するときなどに適しています。「ハード」は輪郭がより強調され、画像が鮮やかに見えます。状況に応じて使い分けてください。

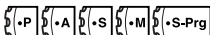
P A S M S-Prg

1 モード設定画面を表示させます。
→モード設定メニュー画面の操作方法の手順1〜3(P. 139)

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「シャープネス」を選択し、▷ を押します。 △ ▽ を押して、設定したい項目（下記参照）を選択します。OKボタンを押して、選択を確定します。
設定項目：ハード、ソフト、標準

3 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

画面は静止画撮影モード設定メニュー

●電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

画質モードTIFFの記録サイズを設定する〜TIFF設定

画質モードTIFFの記録サイズを設定します。画像を拡大して再生・プリントする場合は、記録サイズを大きくしたほうが、きれいに見えます。
ここで設定された内容は、TIFFで撮影するときに適用されます。(P. 98)

•P •A •S •M •S-Prg

1 モード設定画面を表示させます。
→モード設定メニュー画面の操作方法の手順1〜3(P. 139)

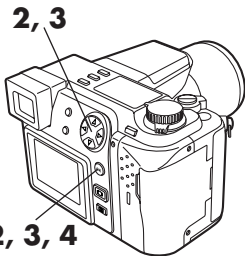
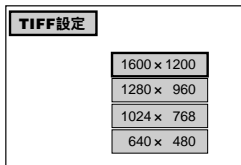
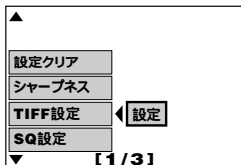
2 △ ▽ を押して「TIFF設定」を選択し、▷を押すと「設定」が表示されます。OKボタンを押します。
● 記録サイズ設定画面が表示されます。

3 △ ▽ を押して、設定したい記録サイズを選択します。OKボタンを押して、設定を確定します。
● 記録サイズは、「1600×1200」「1280×960」「1024×768」「640×480」の中から選びます。

4 OKボタンを押して、モード設定画面から抜けます。
● メニュー画面が表示されます。

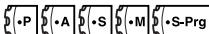
5 続けてメニュー画面で、記録する画質をTIFFにします→「記録する画質を設定する」の手順2と3(P. 98)

画面は静止画撮影モード設定メニュー

注意

●電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。
●画素数が大きくなるほど記録、再生時間が長くなり、撮影可能枚数が少なくなりますのでご注意ください。（P. 57参照）

画質モードSQの記録サイズ・画質を設定する～SQ設定

画質でSQを選択した場合の画像の画質や記録サイズを設定します。「標準」を選択すると、カードをより多くの写真を保存できます。「高画質」を選択すると、JPEG圧縮特有のノイズを抑えることができます。

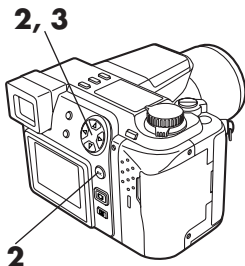
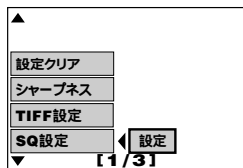
•P •A •S •M •S-Prg

1 モード設定画面を表示させます。
→モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3(P. 139)

2 △ ▽ を押して「SQ設定」を選択し、▷を押すと「設定」が表示されます。OKボタンを押します。
- 記録サイズ設定画面が表示されます。

3 △ ▽ を押して、設定したい記録サイズを選択します。▷を押して、画質モードへ移動します。
- 選べる記録サイズは次の表のとおりです。

画面は静止画撮影モード設定メニュー

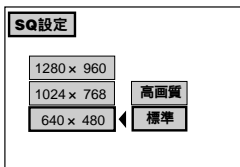
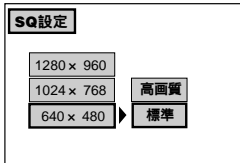
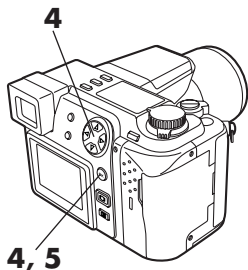
画質モード

画質		記録サイズ	ファイル形式
SQ	高画質	1280 X 960	JPEG
	標準		
	高画質	1024 X 768	
	標準		
	高画質	640 X 480	
	標準		

4 △ ▽ を押して、「高画質」か「標準」を選択します。OKボタンを押して、設定を確定します。

5 OKボタンを押して、モード設定画面から抜けます。

● メニュー画面が表示されます。

6 続けてメニュー画面で、記録する画質をSQにします→「記録する画質を設定する」の手順2と3(P. 98)

注意

●電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。
●画質が良くなるほど記録、再生時間が長くなり、撮影可能枚数が少なくなりますのでご注意ください。(P. 57参照)

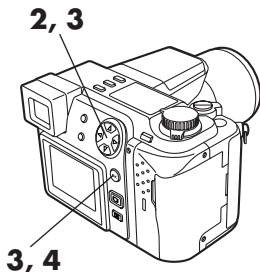
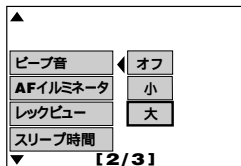
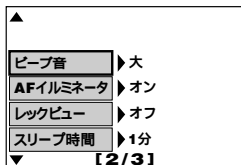
カメラの警告音を変える〜ビープ音

警告音などのビープ音の大きさと、それを鳴らすか鳴らさないかを設定します。

1 **モード設定画面を表示させます。**
→モード設定メニュー画面の操作方法の手順1〜3(P. 139)

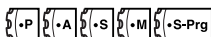
2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「ビープ音」を選択し、▷を押します。**

3 **△ ▽ を押して、設定したい項目（下記参照）を選択します。OKボタンを押して、選択を確定します。**
設定項目：オフ、小、大

4 **メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。**

画面は静止画撮影モード設定メニュー

●電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

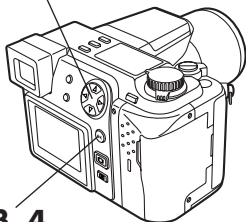
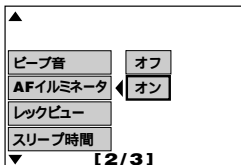
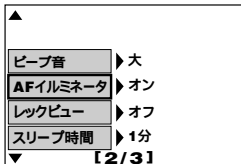
ピント合わせ時の照明の設定～AFイルミネータ

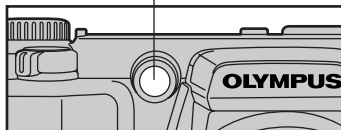
被写体が暗い場合は、AFイルミネータが発光し明るさを補います。この自動点灯を、強制的にやめること（オフ）ができます。

•P •A •S •M •S-Prg

1 **モード設定画面を表示させます。**
→モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3(P. 139)

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「AFイルミネータ」を選択し、▷ を押します。**

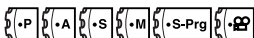
3 **△ ▽ を押して、「オフ」か「オン」を選択します。OKボタンを押して、選択を確定します。**

4 **メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。**

静止画撮影モード設定メニュー

AFイルミネータ

注意

●電源を切っても、設定を加えるまで変更されません。

記録中の画像を表示する～レックビュー

撮影した画像をカードに記録しているあいだ、表示するかしないかの設定をします。

•P •A •S •M •S-Prg •

1 **モード設定画面を表示させます。**
→モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3(P. 139)

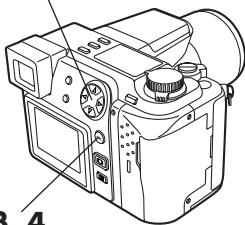
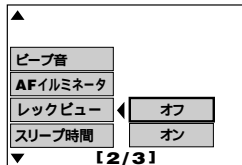
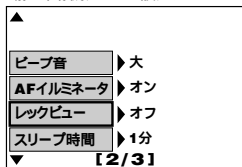
2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「レックビュー」を選択し、▷を押します。**

3 **△ ▽ を押して、「オフ」か「オン」を選択します。OKボタンを押して、選択を確定します。**

オン：撮影した画像をカードに記録中、ビューファインダ（または液晶モニタ）に表示します。撮影画像の簡単なチェックに便利です。

オフ：カード記録中もビューファインダ（または液晶モニタ）には、カメラを向けている被写体を表示します。次の撮影のために被写体を追っているときなどに便利です。

静止画撮影モード設定メニュー

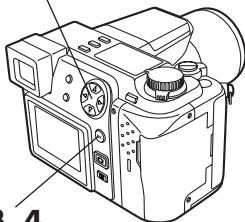
4 **メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します**

カメラが自動停止するまでの時間を設定する～スリープ時間

カメラを何も操作しないで、設定した時間が過ぎるとカメラは電源節約状態（スリープ）になります。スリープさせないこと（オフ）もできます。
撮影モード（P・A・S・M・S-Prg・🎥）のときと再生モード（▶）のときで、別々に時間を設定できます。

1 モード設定画面を表示させます。
→モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3(P. 139)

2 △ ▽ を押して「スリープ時間」を選択し、▷を押します。

3 △ ▽ を押して設定時間（下記参照）を選択します。OKボタンを押して、選択を確定します。
設定時間 ：オフ・30秒・1分・2分・5分

4 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

画面は静止画撮影モード設定メニュー

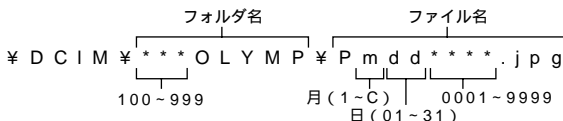
注意

- 撮影モードと再生モード同時に時間の設定はできません。別々に設定してください。
- 電源を切っても、設定を加えるまで変更されません。
- ACアダプタ使用時は、スリープしません。
- 自動再生が30分続くと、スリープします。

撮影画像のファイル名の付け方を変更する～ファイル名設定

画像ファイル名の記憶方法を選択できます。「オート」にするとパソコンに画像を取り込んだ時にファイル名が重複せず、ファイル管理できます。
記録される画像のファイル名・フォルダ名は、それぞれファイルNo.:0001～9999、フォルダNo.:100～999の間で、カメラ内部で自動的に生成されます。それぞれの設定を「リセット」と「オート」から選択できます。

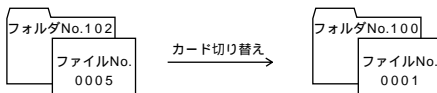
■フォルダ名・ファイル名について

記録される画像にはフォルダ名、ファイル名が次のように付けられます。

※ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

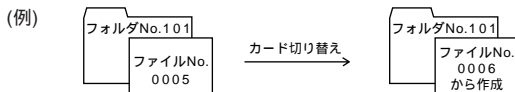
■各モードでのフォルダ名・ファイル名の付け方

● リセット

カードを入れ替えたときに、フォルダNo.、ファイルNo.共にリセットされます。

(例)

● **オート**

カードを入れ替えたときに、フォルダNo.はそのままで、ファイルNo.が、前に使っていたカードに記録されていたNo.の続きの番号になります。

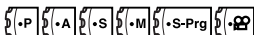
(例)

パソコンに画像をコピーしたら…

- 複数のカードにまたがって大量に撮影をしても、ファイルNo.が重複しません。ただし9999枚以上撮影すると、0001に戻ります。
- パソコンに画像をコピーした場合、コピー元のフォルダ名と、コピー先のフォルダ名は同じフォルダ名になり、管理がしやすくなります。

\DCIMY\XXXOLYMP\PmddXXXX.jpg

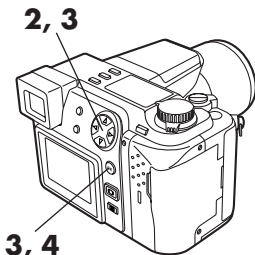
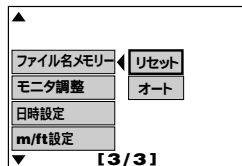
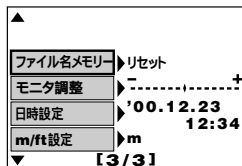
コピー元と同じフォルダ名になる。

撮影画像のファイル名の付け方を変更する～ファイル名設定（つづき）

•P •A •S •M •S-Prg •🎥

1 **モード設定画面を表示させます。**
→モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3(P. 139)

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「ファイル名メモリ」を選択し、▷ を押します。**

3 **△ ▽ を押して、「オート」か「リセット」を選択します。OKボタンを押して、選択を確定します。**

4 **メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。**

静止画撮影モード設定メニュー

注意

- 最終ファイル名よりも大きいファイル名を持つカードを入れた場合は、そのファイル名から続けて加算されます。
- 最大フォルダ名(999)の最大ファイル名（9999）に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり、撮影はできません。
- 電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

液晶モニタの明るさを調整する～モニタ調整

ビューファインダと液晶モニタの明るさを調節して、見やすいようにします。
それぞれ別々に調節できます。

1 **[液晶モニタボタン]（液晶モニタボタン）を押して、液晶モニタかビューファインダかどちらか、明るさを調整したいほうを点灯させます。**

2 **モード設定画面を表示させます。→モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3(P. 139)**

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して「モニタ調整」を選択し、▷ を押します。「設定」が表示されます。OKボタンを押します。**

● 明るさ設定画面が表示されます。

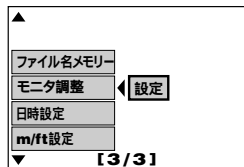
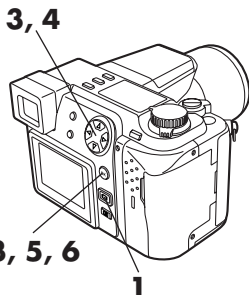
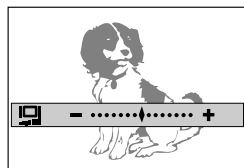
4 ***明るくするには...***

▷ を押して、カーソルを＋へ。

暗くするには...

◁ を押して、カーソルを－へ。

5 **OKボタンを押し、設定を確認します。**

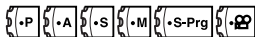
6 **メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。**

静止画撮影モード設定メニュー

明るさ設定画面

注 意

●電源を切っても、設定を加えるまで変更されません。

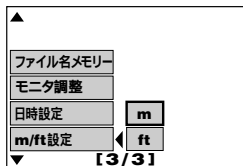
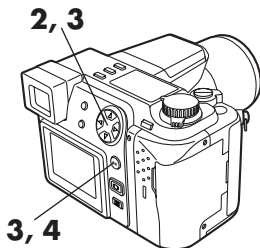
長さ表示の単位を変更する〜m/ft設定

マニュアルフォーカスモード（P. 88）で、液晶モニタに表示される長さの単位をメートル単位とフィート単位から選べます。（マクロモードではセンチ単位とインチ単位で切り替わります。）

•P •A •S •M •S-Prg •🎥

1 **モード設定画面を表示させます。→モード設定メニュー画面の操作方法の手順1〜3(P. 139)**

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「m/ft設定」を選択し、▷を押します。**

3 **△ ▽ を押して、「m」か「ft」を選択します。OKボタンを押して、選択を確定します。**

4 **メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。**

静止画撮影モード設定メニュー

注意

●電源を切っても、設定を加えるまで変更されません。

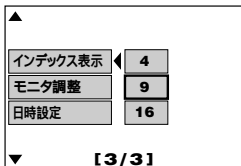
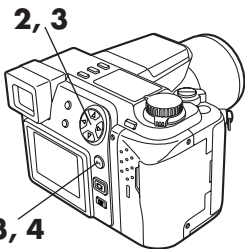
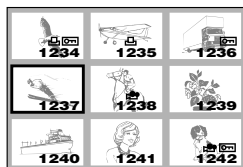
インデックス再生時の表示コマ数を変更する～インデックス表示

再生時、ズームレバーをT側にまわすと、一つの画面に複数の画像を表示できます。このときに4分割・9分割・16分割のうちどれにするかを、ここで設定します。

1 **モード設定画面を表示させます。→モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3(P. 139)**

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「インデックス表示」を選択し、▷ を押します。**

3 **△ ▽ を押して、「4」、「9」、「16」から選択します。OKボタンを押して、選択を確定します。**

4 **メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。**

画面は静止画再生モード設定メニュー

9分割のインデックス表示

注意

- カードに画像が記録されていないと、メニューボタンを押してもメニュー画面は表示されません。
- 電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

6

プリントの設定

- 記録されている画像をプリンタでプリントできます。
- DPOFシステム対応のプリントサービスを行っているお店などで、自動的にプリントできるように予約ができます。

プリントの方法について

このカメラで撮影し、カードに保存されている画像を、プリントするには次の方法があります。

■カードに保存した画像に、プリントする枚数や日付時刻を記憶させます。（カードプリント予約、P.164）

カードプリント予約したカードを、DPOF対応プリンタに挿入すると、プリントの設定を行わなくても、自動的に指定した画像がプリントされます。

DPOF対応のプリントサービスを行っているお店などに、カードをお持ちになると、プリントの指示をしなくても、プリント予約を行った画像を自動的にプリントできます。

■オリンパスCAMEDIA P400/P-330Nプリンタを使うと、プリント予約した撮影画像の入ったカードを、プリンタのカードスロットに差し込んで、簡単なボタン操作でプリントできます。

● 詳しくは、プリンタの取扱い説明書をお読み下さい。

■カメラのUSB 機能やパソコン接続キットを使った通信や、フラッシュパス、スマートメディアアダプタを使って、パソコンに画像を取り込み、画像プリント可能なソフトウェアを使うことで、パソコンに接続されているプリンタからプリントできます。

● プリントの方法は、それぞれのソフトウェアの取扱い説明書をお読み下さい。

DPOFについて

DPOF(Digital Print Order Format)とは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマットのことです。

撮影したい画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応のプリントアウトサービスや、家庭でのプリントアウトを自動で行なうことができます。

注意

●他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容を、このカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
●他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラであらたにDPOF予約を行なうと、以前に予約した内容は消去されることがあります。
●「この画像は再生できません」と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1コマ再生だとプリント予約マーク（凸）は表示されません。複数の画像を表示しているときは（インデックス表示)、マーク（凸）が表示され、プリント予約を確認できます。
●オリンパス製デジタルプリンタP-300 など、カメラに直接プリンタを接続してダイレクトプリントを行うプリンタでは、プリントできません。
●プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。

カードの中の全ての画像をプリントしたい～全コマ予約 凸

プリント予約とは...

カードに保存されている画像に、プリントしたい画像の予約情報を記憶させます。DPOF対応のプリンタやラボでのプリントに有効です。

全コマ予約では、カード内に保存されている全ての画像を、プリントするという指示を記憶します。この予約設定をすることで、DPOF対応のプリンタ又はラボで、自動的に全画像を設定枚数プリントできます。

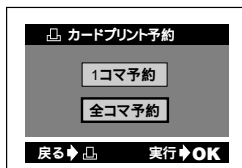
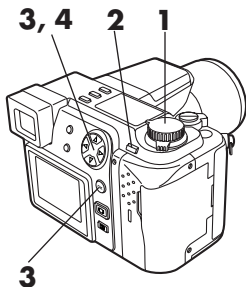
1 モードダイヤルを ▶ にして、静止画を表示させます。

● のついた画像は、プリント予約できません。

2 凸（プリントボタン）を押します。

● プリント予約選択画面が表示されます。
● 再生しているカードの画像に、すでにプリント予約したコマがある場合は、予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。（P. 172）
● 拡大再生中は、ボタン操作を受け付けません。(P. 120)

3 十字ボタンの △ ▽ を押して「全コマ予約」を選択し、OKボタンを押します。

● プリント枚数と情報プリントの設定画面が表示されます。

4 △ ▽ を押して、プリント枚数の設定枠を選択してから、◁ ▷ を押して枚数を設定します。

◁ ：枚数は少なくなります。
▷ ：枚数は多くなります。

● 枚数は0 枚から10枚の間で設定できます。

5 △ ▽ を押して、「 ◷ 情報」を選択してから、 ◁ ▷ を押して「日付」か「時刻」を選択します。

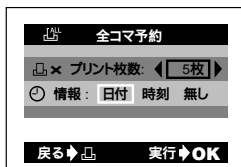
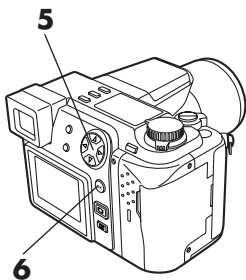
6 OKボタンを押します。

● メニュー画面が消えて再生画像が表示されます。画面にプリント予約マークとプリント枚数が表示されます。

凸（プリント予約マーク）が出ない場合

プロテクトされた画像でも、予約はできます。

プロテクトシールを貼られたカードではできません。

注 意

●電源を切っても、設定は変更を加えるまでカードに保存されます。

●P-330Nで印刷する場合、カード内に記録された999枚目以降の画像はプリントできません。

●プリント予約には時間がかかることがあります。

選択した画像のみをプリントしたい～1コマ予約 凸

カード内に保存されている画像から選択したコマを、プリントする指示を記憶します。この予約設定をすることで、DPOF対応のプリンタ又はラボで、自動的に選択画像を設定枚数プリントできます。

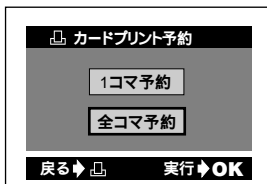
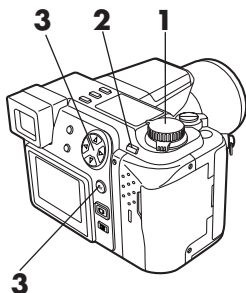
1 モードダイヤルを ▶ にして、静止画を表示させます。

- 🎥のついた画像は、プリント予約できません。

2 凸（プリントボタン）を押します。

- カードプリント予約画面が表示されます。
- 再生しているカードの画像に、すでにプリント予約したコマがある場合は、予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。（P. 172）

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「1コマ予約」を選択します。OKボタンを押します。

- 予約画像選択画面が表示されます。

4 十字ボタンを押して、プリント予約したい画像を表示させます。

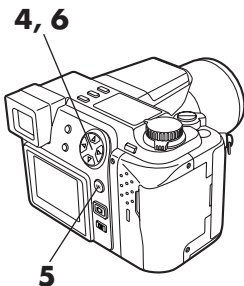
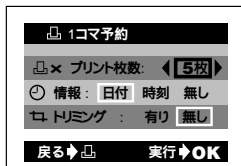
◁：1コマ前の画像を表示。
▷：1コマ次の画像を表示。
△：10コマ前の画像を表示。
▽：10コマ次の画像を表示。

- ズームレバーをW側に回すと、インデックス再生で画像を選択できます。
  - ◁：1コマ前へ移動。
  - ▷：1コマ次へ移動。
  - △：前のページを表示。
  - ▽：次のページを表示。
- インデックス表示のときは、インデックス表示のコマ数設定(P. 159)により、決まります。
  4コマ設定：2コマ、9コマ設定：6コマ、16コマ設定：12コマ
- 選択している画像に、すでにプリント枚数が設定されている場合は、設定画面が表示されたときに、その枚数を表示します。
- ズームレバーをT側に回すと、トリミングプリントの設定（P. 171）ができます。

5 OKボタンを押します。

- 1コマ予約の設定メニューが表示されます。

6 △ ▽ を押して、プリント枚数の設定枠を選択してから、◁ ▷ を押して枚数を設定します。

◁ ：枚数は少なくなります。
▷ ：枚数は多くなります。

予約画像選択画面

7 △ ▽ を押して、「 ⊖ 情報」を選択してから、◁ ▷ を押して「日付」か「時刻」を選択します。

● 日時設定(P. 48)をしないで撮影した画像は、選択できません。

8 △ ▽ を押して、「 トリミング」を選択してから、◁ ▷ を押して「有り」か「無し」を選択します。

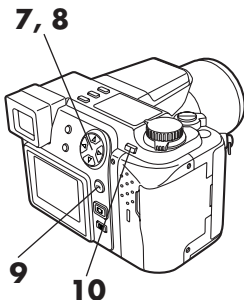
● トリミングが設定されてないときは、「有り」は選択できません。
トリミングの設定は、トリミングプリント予約をご覧ください。(P. 169)

9 設定が終了したら、OKボタンを押します。

● メニュー画面が消えて、再生画像が表示されます。画面にプリント予約マークとプリント枚数が表示されます。

● 続けて他の画像をプリント予約するときは、手順**4**から**9**を繰り返します。

10 凸 (プリントボタン) を押します。

● プリント予約モードから抜け、再生モードに戻ります。

注 意

● 電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。
● P-330Nで印刷する場合、カード内に記録された999枚目以降の画像はプリントできません。
● プリント予約には時間がかかることがあります。

画像の一部を拡大してプリントしたい～トリミングプリント予約 凸

撮影した画像の一部を拡大して、プリントできます。

1 「選択した画像のみをプリントしたい（1コマ予約）」の手順1～4（P.166/167）をします。

● 予約画像選択確認画面が表示されます。

2 ズームレバーをT側にまわします。

● トリミングモードの画面が出て、選択されているカーソルは緑色で表示されます。

3 十字ボタンを押すか、またはズームレバーを使ってカーソルを動かし、プリントしたい画像の左上端を設定します。

△ ▽ ：カーソルは上下に移動。

◁ ▷ ：カーソルは左右に移動。

W側 ：カーソルは左上端へ。

T側 ：カーソルは右下端へ。

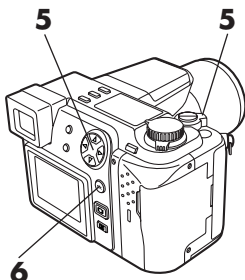
4 位置が決まったら、OKボタンを押します。

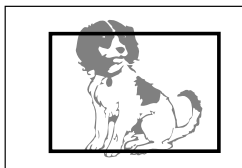
トリミングモード画面

6 プリントの設定

5 **十字ボタンを押すか、またはズームレバーを使ってカーソルを動かし、プリントしたい画像の右下端を設定します。**

△ ▽ ：カーソルは上下に移動。
◁ ▷ ：カーソルは左右に移動。
W側 ：カーソルは左上端へ。
T側 ：カーソルは右下端へ。

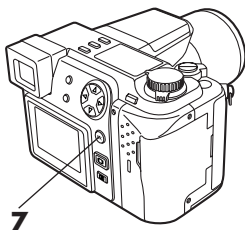
● 再度、左上端のカーソル位置を移動したいときは、凸（プリントボタン）を押します。

6 **位置が決まったら、OKボタンを押します。**

● トリミングサイズが設定され、表示されます。
● 再度、トリミングサイズを確認したいときは、INFOボタンを押します。トリミングサイズが約1秒間表示されます。

1秒間表示します

7 OKボタンを押します。

● 1コマ予約の画面が表示されます。
● 1コマプリント予約の手順で「プリント枚数」「情報」を設定します。トリミング設定は「有り」になっています。（P. 166〜168）

8 予約設定が完了したら、OKボタンを押します。

● プリント予約が設定されます。手順1の状態に戻ります。続けて他の画像をプリント予約するときは、十字ボタンで画像を選択します。→1コマプリント予約（P. 166）

設定すると枠付きの画面を1秒表示して、戻る/予約設定の画面に切り替わります

6

プリントの設定

注意

● プリントされる画像の大きさは、プリンタの設定によります。トリミングの大きさが小さいと、プリントされる画像は粗くなります。
● 詳細なクローズアッププリントを行なうためには、TIFF、SHQまたはHQモードでの撮影をおすすめします。
● トリミング画面の縦横比は、十字ボタンを使って変えられますが、ズームレバーを使うと4：3に固定されます。

カードプリント予約を解除する

カード内に保存されている画像のプリント予約設定を全て解除します。

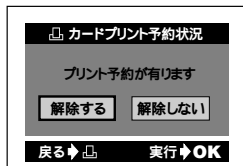
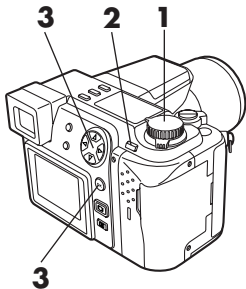
[▶]

1 **モードダイヤルを ▶ にして、静止画を表示させます。**

2 **凸（プリントボタン）を押します。**
- カードプリント予約状況確認画面が表示されます。
- 再生しているカードの画像に、プリント予約したコマがない場合は、予約設定解除の選択画面は表示されません。

3 **十字ボタンの ◁ ▷ を押して「解除」を選択し、OKボタンを押します。**
- 解除をやめるときは、「解除しない」を選択してOKボタンを押します。
- 選択した画像のみの予約の解除は、1コマプリント予約の中の、プリント枚数の設定を0に設定して下さい。

6

プリントの設定

注意

●「解除する」を選択すると、カード内のすべての画像のプリント予約が、解除されます。

7

パソコンに読み込む

画像をパソコンへ取り込む方法

撮影してカードに保存した画像は、パソコンに取り込んで、楽しむことができます。
このカメラで撮影し、カードに保存されている画像をパソコンに取り込むには、次の方法があります。

カメラをパソコンに接続して取り込む（P．176）

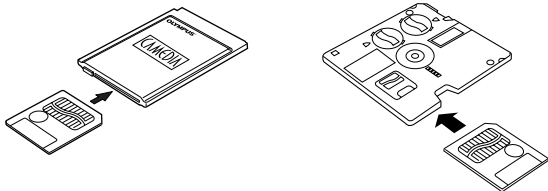
カメラのUSB接続端子やデータ入出力端子による通信機能を使い、パソコンと接続しカメラに入っているカードから直接、画像データを取り込みます。この方法で取込みを行うには、以下の準備が必要です。

- パソコンとの接続に必要なもの
  USB接続の場合→USBケーブル
  シリアル接続の場合→シリアルケーブル
- パソコンと通信するためのソフトウェア
  OLYMPUS CAMEDIA Master 2.0

重要： このカメラで撮影した画像を扱うためには、OLYMPUS CAMEDIA Master 2.0が必要です。

カードから直接取り込む

カード用のアダプタを使うと、通信ソフトがなくてもパソコンに画像を取り込めます。

パソコンの種類	必要なカードアダプタ
3.5型（インチ）フロッピーディスクドライブ対応	フロッピーディスクアダプタ FlashPath (MAFP-2N)（別売）
PCカードスロットまたは外付PCカードドライブ対応	PCカードアダプタ(MA-2)（別売）
USB接続対応	スマートメディア・リーダ／ライタ (MAUSB-2)（別売）

重要：

- パソコンの動作環境やスマートメディアの記憶容量等により、ご使用になれない場合があります。ご使用前にお確かめください。
- カードから直接パソコンに取り込む場合、CAMEDIA Masterは必要ありません。市販のレタッチ（画像処理）ソフトなどで、ファイルとして扱えます。

注 意

- ライトプロテクト(書き込み禁止)シールの貼ってあるカードを、パソコンで使用するとエラーが多発しますので、ご使用にならないでください。(詳しくは各機器の取扱説明書をお読みください。)

通信ケーブルを使いパソコンと接続する

ここでは、カメラの持つ通信機能と、CAMEDIA Master を使ったパソコンへの画像の取り込み方法について説明します。
カメラとパソコンが通信するための接続ケーブルと、CAMEDIA Masterをご用意ください。

通信ケーブルでの接続方法

パソコン（DOS/V機、NEC-PC9821シリーズ、Apple Macintosh）とカメラを接続します。
このカメラは、2つの外部通信端子をもっています。
ご使用のコンピュータがUSBインターフェイスをもつWindows 98/98 Second Edition/2000 ProfessionalまたはMacintoshの場合は、USBケーブルとCAMEDIA Masterを使って通信することができます。
USB機能のないWindows 95/NT4.0またはMacintoshコンピューターをご使用の場合は、シリアルケーブルとCAMEDIA Masterを使って通信します。

パソコンと直接接続するには、シリアルポートかUSBインターフェイスのどちらかが必要です。

注意

●接続ケーブルだけでは、パソコンと通信することはできません。必ず、CAMEDIA Master 2.0を使用して、画像の読み込みを行ってください。USB端子をご使用の場合は、動作環境をよくお読みください。

パソコンの使用環境

お持ちのパソコンをご確認のうえ次の条件でご使用ください。

● Windows版

CPU	：Pentium 以上
OS	：Windows 98/98 Second Edition/ 2000 Professional（USB接続）
	：Windows 95/98/98 Second Edition/ 2000 Professional/NT4.0SP3以上（シリアル接続）
ハードディスクの空き容量	：30MB 以上（標準インストール時）
メモリ	：32MB以上（推奨64MB以上）
コネクタ	：USBインターフェイス(USB接続） D-SUB 9ピンコネクタ（DOS/V機用） D-SUB25ピンコネクタ (NEC PC98シリーズ用）
モニタ	：256色以上 800 X 600ドット以上 （推奨32000色以上）

注 意

● コンピューターがUSBポートを備えていても、次の環境でのUSB接続はサポート対象外となります。
Windows 95からWindows 98にアップグレードしたコンピュータ
Windows 95
Windows NT4.0

通信ケーブルを使いパソコンと接続する(つづき)

● Macintosh版

CPU	：PowerPC 以上
OS	：Mac OS 8.6〜9 (USB接続) Mac OS 7.6.1〜9 (シリアル接続)
ハードディスクの空き容量	：30MB 以上（標準インストール時）
メモリ	：32MB以上 (アプリケーション割当8MB以上)
コネクタ	：USBポート(USB接続) シリアルポート（シリアル接続）
モニタ	：256色以上　800 X 600ドット以上 （推奨32000色以上）

注 意

●USB接続する場合、USBポートを標準搭載したMacintoshでのみ使用できます。

メ モ

●音声の再生・録音には、サウンドカード及びマイクが必要です。動画に対応するためにはQuickTime 4.0のインストールが必要です。
●詳しくはCAMEDIA Master のオンラインマニュアルを参照してください。

注 意

●USBケーブルを使って接続する場合は、お使いのパソコンでUSBの動作が保証されていることをご確認ください。パソコンの環境については、各パソコンメーカーにお問い合わせください。
●USB接続をご使用の場合は、パソコン側でUSB機能が正常に動作していることをご確認ください。パソコン側でのUSB機能の確認は、パソコンの取扱説明書で確認してください。

接続手順

パソコン（DOS/V機、NEC PC-9821シリーズ、Apple Macintosh）とカメラを接続します。

1 **CAMEDIA Masterを、あらかじめお持ちのパソコンにインストールしておきます。**

● インストール方法については、CAMEDIA Masterのインストールガイドかオンラインマニュアルを参照してください。

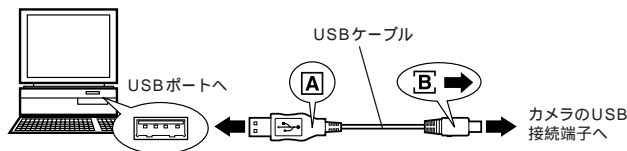
2 **パソコンとカメラの電源が切れていることを、確認してください。**

3 **パソコンにケーブルを接続します。**

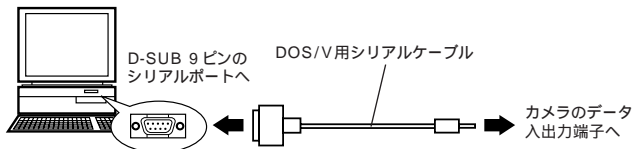
● ご使用になるケーブルによって、接続方法が異なります。

USBポートによる接続の場合

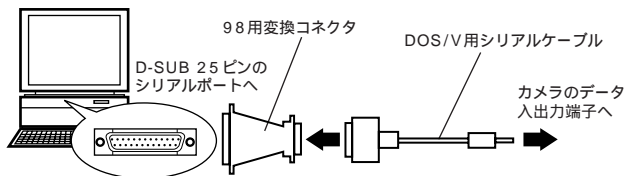
（DOS/V機、NEC-PC9821シリーズ、Apple Macintosh）

パソコン側のUSBポートに、USBケーブルを差し込みます。

シリアルポートによる接続の場合

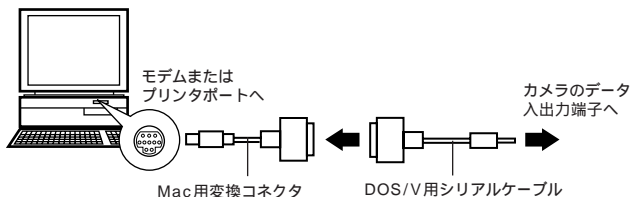
（DOS/V機）

パソコン側の「COM1」「COM2」などと書かれているシリアルポートに、シリアルケーブルを差し込みます。

（NEC PC-9821シリーズの場合）

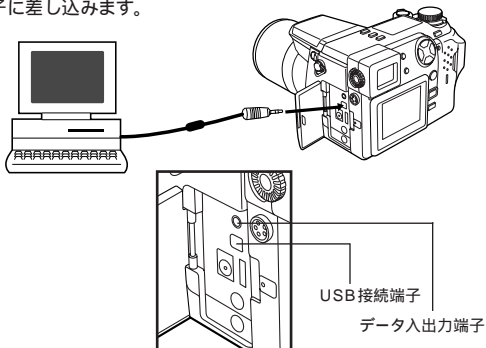
パソコン側の「RS-232C」と書かれたシリアルポートに、98用変換コネクタを差し込みます。

シリアルポートに差し込まれている98用変換コネクタに、DOS/V用シリアルケーブルを差し込みます。

（Apple Macintoshシリーズの場合）

パソコン側のプリンタポートまたはモデムポートに、Macintosh用変換コネクタを接続します。

Macintosh用変換コネクタに、DOS/V用シリアルケーブルを差し込みます。

注 意

●PC-98ノートパソコン（14ピンの場合）には、別売の変換コネクタ（PC-9821N-K04）が必要です。

4 パソコン接続ケーブルのプラグを、カメラのUSB接続端子又はデータ入出力端子に差し込みます。

- カメラとパソコンをはじめてUSBケーブルで接続したときは、通信用のドライバをパソコンに読み込むために、CAMEDIA MasterのCD-ROMが必要です。カメラとパソコンを接続する前に、必ずCAMEDIA Masterのインストールガイドをお読みください。

5 パソコンの電源を入れます。

6 カメラのモードダイヤルを ▶ にセットします。

7 CAMEDIA Masterを起動します。

注意

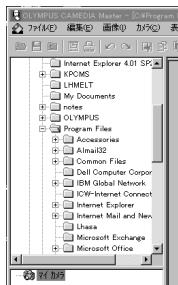
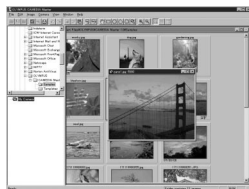
- カメラの電源が入っている状態でパソコンと接続すると、カメラが正しく作動しない場合があります。パソコンと接続する時は、必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。
- パソコンに接続したときは、カメラのボタン類は一切動作しなくなります。
- テレビに接続している時、通信はできません。
- 電池の消耗を防ぐため、ACアダプタの使用をおすすめします。

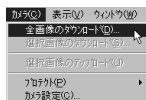
通信ケーブルを使いパソコンと接続する(つづき)

CAMEDIA Masterで画像を取り込む

CAMEDIA Masterで、パソコンに画像を取り込みます。
カードに記録されている画像をパソコンで見ます。また、カードに記録されている画像を、パソコンに読み込みます。

1 **CAMEDIA Masterを起動します。**

2 **[マイ　カメラ]アイコンをクリックします。**

3 **保存されている画像が、一覧で表示されます。見たい画像にカーソルを合わせ､ダブルクリックすると、選択した画像が拡大して表示されます。**

4 メニューバーの[カメラ(C)]で[全画像のダウンロード(D)]を選択します。

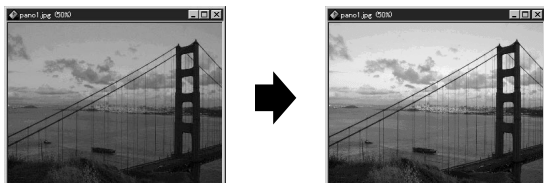
カメラからパソコンに画像が読み込まれます。

メモ

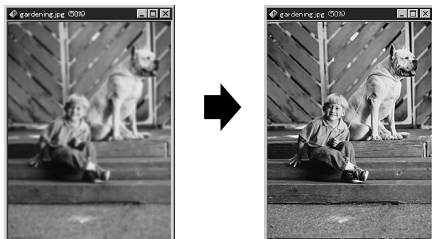
- パソコンに読み込んだ画像は、CAMEDIA Master以外にもJPEGを扱えるグラフィックソフト（Paint Shop Pro／Photoshopなど)、インターネット閲覧ソフト（Netscape Communicator／Microsoft Internet Explorerなど）などのアプリケーションソフトウェアでも見ることができます。詳しくは対応ソフトのマニュアルを参照してください。
- CAMEDIA Masterは、その他に、カメラの各種設定（プロテクト設定／解除・データ消去・日時の設定・その他の設定変更）もサポートしています。操作方法については、CAMEDIA Masterのオンラインマニュアルを参照してください。

CAMEDIA Master機能紹介

CAMEDIA Masterでは、撮影した写真をパソコンに取り込み、表示・加工・保存などを行うことができます。操作方法については、CAMEDIA Masterのオンラインマニュアルを参照してください。

暗い画像を明るくする

撮影した画像を見ると、思っていたよりも暗いことがあります。撮影直後であれば再度撮影することも可能かもしれませんが、シャッターチャンスを逃すこともあります。そんな時にはCAMEDIA Masterのワンタッチ補正を使うと、簡単に画像を明るくできます。

ボケている画像を修正する

逆光などで画像全体がはっきりしない場合や、被写体にピントを合わせて撮影したため、手前の物体がボケてしまう場合があります。画像を見て、「失敗」と思う前に、CAMEDIA Masterのシャープネスを使ってみましょう。画像を全体的にシャープにして、ボケを和らげることができます。
ただし、完全にボケを取り除くことはできません。

テンプレートと合成する

撮影した画像を、CAMEDIA Masterに収録されているテンプレートと合成することで、簡単にシールプリントのような画像を作ることができます。

＋

＝

CAMEDIA Master機能紹介（つづき）

その他のCAMEDIA Masterの機能

● カメラとの通信

USB、又はシリアルの接続で、カメラ内画像ファイル（静止画、動画）のダウンロードを行います。また、カメラの各種設定(プロテクト設定・解除、データ消去、日時の設定、その他設定変更等)もサポートしています。

● 画像ビューワー

カメラからダウンロードした画像、ディスク上の画像ファイルのインデックス表示、単画面表示を行います。また、エクスプローラ風のフォルダ階層表示とドラッグ&ドロップによる操作で、画像の管理が簡単に行えます。更に動画の再生や静止画及び動画のスライドショー(自動再生)もできます。動画の任意のフレームからの切り出しもできます。

● 一括処理

インデックスウィンドウから画像の回転、フォーマット変換、リネーム等の一括処理が可能です。

● 加工

回転（右９０度、左９０度、１８０度、任意角度)、色数変更、リサイズ、テキスト挿入、各種フィルター処理（明るさ、コントラスト、カラーバランス、シャープネス等）が可能です。

● カメラ連携機能

「パノラマ合成」　：標準カードのパノラマモードで撮影した画像を使用して、パノラマ合成画像が作成できます。

「テンプレート合成」：別売のテンプレートカードに、カメラで合成可能なオリジナルテンプレート画像をアップロードできます。

● 印刷

単画像印刷の他、単画像日付入り印刷、分割シール紙への印刷を行います。

8

その他

修理に出す前にお確かめください

操作上のトラブル

こんなときには

カメラが動かない。

原因	こうしましょう	参照ページ
①電源がOFFになっている。	❶パワースイッチをONしてください。	P.52
②電池の向きが正しくない。	❷電池を正しく入れ直してください。	P.27
③電池がない。	❸新しい電池を入れてください。	P.27
④寒さで電池の性能が一時的に低下した。	❹電池をポケット等で温めてから使用してください。	P.13
⑤スリープ状態になった。	❺シャッターボタン又はズームレバーなどを操作してください。	P.53
⑥パソコンに接続している。	❻パソコンと接続して通信しているときは、カメラは動作しません。	P.181

こんなときには

シャッターボタンを押しても撮影ができない。

原因	こうしましょう	参照ページ
①フラッシュの充電が完了していない。	❶一度シャッターボタンから指を離し、フラッシュ発光予告マークの点滅が終わってから、撮影してください。	P.102
②（動画撮影モード）で撮影後、カードアクセスランプが点滅している。	❷撮影画像をカードに記録中です。カードアクセスランプが消えてから、撮影してください。	
③カードに問題がある。	❸エラー表をご覧ください。	P.197
④カードの容量がいっぱいになった。	❹カードの交換を行うか､不要なコマの消去を行うか､画像をパソコンなどに転送し､全コマ消去を行ってください。	P.34〜36 P 72 P.174〜183
⑤撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	❺電池を新品と交換してください。	P.27

こんなときには		
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
⑥ビューファインダ（液晶モニタ）の表示やコントロールパネルの表示が消えた。または、コントロールパネルで電池残量警告マークのみ点滅している。	❻電池を交換してください。（カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P.27
⑦メモリゲージがすべて点灯している。	❼メモリーゲージの一番上が消灯するまで、待ってください。	P.63
⑧カードにライトプロテクトシールが貼られている、またはカメラにカードが入っていない。	❽新しいカードを入れて下さい。	P.33 P.34
⑨モードダイヤルが、▶にセットされている。	❾P、A、S、M、S-Prg または 🎥 にしてください。	P.38

こんなときには		
画像データに記録される日付が正しくない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①日付が設定されていない。	❶日付設定をしてください。別売のCAMEDIA Masterを使い、パソコンからの設定もできます。出荷時には、設定されていません。	P.48
②カメラから電池が抜かれ約1週間経過し、日付設定が解除された。	❷再度、日付設定してください。	P.48

修理に出す前にお確かめください（つづき）

こんなときには		
フラッシュが発光しない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュが閉じられている。	❶フラッシュスイッチを押して、フラッシュを起こしてください。	P.66 P.102
②明るい被写体である。	❷フラッシュを強制的に発光させたい場合は強制発光モードにしてください。	P.101 P.102
③ドライブモードが BKT になっている。	❸ドライブボタンを押して、単写に切り替えてください。	P.111
④パノラマ撮影をしている。	❹パノラマ撮影をやめてください。	P.129
⑤ファンクション撮影で、白版／黒板が設定されている。	❺白板／黒板では、フラッシュは光りません。	P.131

こんなときには		
液晶モニタ上で再生ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①撮影モードになっている。	❶モードダイアルを ▶ にセットしてください。	P.38 P.118
②カードに画像が記録されていない。	❷液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	P.62 ～64
③カードに問題がある。	❸エラー表をご覧ください。	P.197 P.198
④テレビに接続している。	❹テレビに接続中は、液晶モニタは消灯します。	P.70
⑤ビューファインダが点灯し、表示が出ている。	❺ [IOI]（液晶モニタボタン）で切り替えてください。	P.118

こんなときには		
ビューファインダが見えにくい。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①視度調節が合っていない。	❶視度調節してください。	P.58
②明るさが合っていない。	❷明るさを調整してください。液晶モニタとは別々に調整できます。	P.157

こんなときには		
液晶モニタが見にくい。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①液晶モニタの輝度の設定が適切でない。 ②太陽光の下である。	❶液晶モニタの輝度調節をしてください。 ❷太陽の光を手などでさえぎってください。	P.157

こんなときには		
画像の回転、プロテクト、１コマ消去、全コマ消去、初期化ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①カードにライトプロテクトシールが貼られている。	❶シールを剥がしてからご使用ください。シールは再使用しないでください。	P.37

こんなときには		
パソコンと接続して、画像の転送ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①ケーブルが正しく接続されていない。	❶正しく接続されていることを確認してください。	P.176〜181
②カメラの電源がOFFになっている。	❷電源を入れて、モードダイアルを ▶ にセットしてください。	P.181
③電池がない。	❸新しい電池を入れるか､ACアダプタ(別売)をお使いください。	P.27〜32
④パソコンのシリアルポートが正しく設定されていない。	❹パソコンでシリアルポートが正しく設定されていることを、確認してください。	

画像の出来が良くない場合

こんなときには		
フラッシュを使って人物撮影したら、目が赤く写ってしまった。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュの発光モードがオート発光になっている。	❶赤目軽減発光モードを使い、発生頻度を大幅に軽減できます。（フラッシュを用いた人物撮影では、目が赤く写ることがあります。これは網膜がフラッシュの光を反射するために、起こる現象で完全に防ぐことはできません。発生頻度や出方も個人差が大きく、また周囲の明暗等の撮影条件によっても異なります。）	P.101

こんなときには		
ピントの合っていない写真ができた。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった。(カメラぶれ)	❶カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	P.60 P.61
②ピントを合わせたいものが、AFターゲットマークからはずれてしまった。	❷ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。	P.61 P.87
③レンズが汚れていた。	❸レンズをきれいにしてください。	P.195
④被写体が近すぎた。	❹マクロモードに設定します。ズームによって、被写体に近付ける距離は違います。	P.77 P.84
⑤セルフタイマー撮影で、カメラの直前に立ってシャッターボタンを押した。	❺カメラの前に立たず、ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを押してください。またはリモコンをご使用ください。	P.113 ～115

こんなときには		
ピントの合っていない写真ができた。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
⑥マニュアルフォーカスで被写体距離を確認せずに撮影してしまった。	❻マニュアルフォーカスの合焦距離範囲で撮影してください。	P.88
⑦被写体が暗く、AFイルミネータも点灯していなかった。	❼AFイルミネータが点灯する設定にしてください。	P.151

こんなときには		
できあがった画像が明るすぎる。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュモードが強制発光になっていた。	❶強制発光以外のフラッシュモードを選んでください。	P.101
②高輝度の被写体に向かって撮影した。	❷露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.93

こんなときには		
できあがった画像が暗い。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュを指などで覆ってしまった。	❶カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気を付けてください。	P.60
②撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった。	❷フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。または外部フラッシュをご使用ください。	P.100 P.106
③フラッシュモードが発光禁止になっていた。	❸フラッシュのモードを確認してから撮影してください。	P.101
④逆光状態で小さい被写体を撮影した。	❹フラッシュのモードを強制発光モードにセットするか、スポット測光モードにして撮影してください。	P.101 P.94
⑤連写モードで撮影した。	❺シャッタースピードの最長秒時が短いので、暗い場所では通常よりも暗く写ります。	P.112

修理に出す前にお確かめください（つづき）

こんなときには		
室内で写した写真の色がおかしい。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①照明の色が影響した。	❶フラッシュのモードを強制発光にセットして撮影してください。	P.101
②被写体に白い部分がなかった。	❷画角に白い被写体を入れて撮影するか、照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.128
③ホワイトバランスの設定を間違えた。	❸照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.128

こんなときには		
画像の一部が欠けてしまった。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①レンズに指やストラップがかかってしまった。	❶カメラを正しく構え、レンズに指やストラップをかけないように気を付けてください。	P.60

カメラのお手入れと保管

使用後のカメラの取り扱い

使用後は、必ず電源を切って、レンズキャップを付けて保管してください。
保管の際は、防虫剤などを使わないでください。

カメラのお手入れ

1 **カメラのパワースイッチをOFFにします。**

2 **電池を取り出します(P. 27/28)。もし、ACアダプタが使っていたならば、カメラから接続コードプラグをカメラから抜き、電源プラグを家庭用電源コンセントから抜きます(P. 31)。**

3 **カメラの外側...** 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布をひたして、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺で使ったあとは、真水で浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとビューファインダ... 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ... レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。保管の際は、レンズキャップを取り付けます。

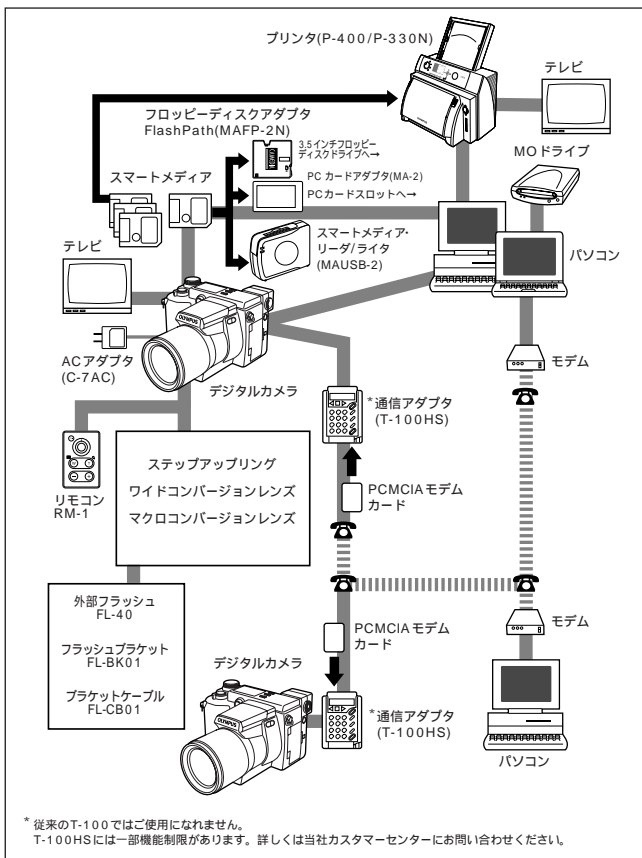
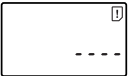
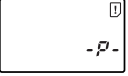
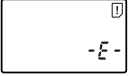
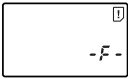
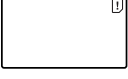
カード... 乾いた柔らかい布で拭きます。

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い洗剤を使わないでください。
- お手入れをする前に、必ず電池やACアダプタをカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。
- クリーナーや化学雑巾は使わないでください。

このカメラに接続できる機器〜システムチャート

別売の機器とシステムを組むと、以下のことが可能です。

● 通信アダプタを介してデータの伝送、PCMCIA カードへのデータ保存

* 従来のT-100ではご使用になれません。
T-100HSには一部機能制限があります。詳しくは当社カスタマーセンターにお問い合わせください。

エラー表示一覧

このカメラでは各種の警告をエラーコードにて表示します。コントロールパネルの表示は点滅します。

コントロールパネル	ビューファインダ / 液晶モニタ表示	エラー内容	対応
-0-	カードふたが開いています	カードふたが開いています。	カードを入れてカードふたを閉じて下さい。
----	カードを認識できません	カードが入ってません、または認識できません。	カードを入れて下さい。またはカードを入れなおして下さい。
0	撮影可能枚数が0です	撮影可能枚数が0のため撮影できません。	カードを交換するか、不要なコマを消去して下さい。
-P-	書込み禁止になっています	カードが書込み禁止になっています。	撮影をする場合は、プロテクトシールをはがして下さい。
-E-	このカードは使用できません	このカードで撮影、再生、消去をすることができません。	カードが汚れている場合は、クリーニングペーパーで拭いてから再度カードを差し込むか、カードをフォーマットして下さい。それでも直らない場合は、このカードは使用できません。
（表示なし）	この画像は再生できません	記録されている画像がこのカメラでは再生することができません。	パソコンなどの画像ソフトで再生して下さい。それも出来ない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。

エラー表示一覧（つづき）

コントロールパネル	ビューファインダ/液晶モニタ表示	エラー内容	対応
-F-	（フォーマット画面）	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。
000	画像が記録されていません	記録画像がないため、画像が再生できません。	撮影画像の入ったカードを入れて下さい。
	カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリントデータ又は音声を記録することができません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。

アフターサービス

● 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。

● 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または裏表紙の当社サービスステーションにご相談ください。使用説明書等にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

● 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。また運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

● 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後 5 年間を目安に当社では有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店また、お近くの当社サービスステーションにお問い合わせください。

● 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。
本製品は日本国内のため、海外での修理受け付けはできません。万一、外国で故障・不具合が生じた場合は、持ち帰って日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。

● 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。

別売品のご案内

2000年6月現在

● **パソコン接続キット（C-8KU）**
- CAMEDIA Master 2.0 (Macintosh、Windows 95/98/2000/NT4.0用)
- パソコン接続用USBケーブル (DOS/V、Macintosh、PC-98共用)

● **パソコン接続キット(C-8KP)**
- CAMEDIA Master2.0
- DOS/V用シリアルケーブル
- 98変換ケーブル
- MAC変換ケーブル

● **CAMEDIA Master 2.0 (C-80PJ2)**

● **スマートメディア(8MB/16MB/32MB/64MB)**

● **機能付スマートメディア**
- テンプレートカード (4MB/M-4T)
- カレンダーカード (4MB/M-4C)
- 手書きタイトルカード (4MB/M-4N)

● **外部フラッシュ(FL-40)**

● **フラッシュブラケット(FL-BK01)**

● **ブラケットケーブル(FL-CB01)**

● **プリンタ (P-400/P-330N)**

● **ACアダプタ (C-7AC)**

● **ニッケル水素電池 (B-03NH16)**

● **ニッケル水素電池専用充電器 (BU-40SNH)**

● **PCカードアダプタ (MA-2)**
- 64MBスマートメディアまで対応

● **フロッピーディスクアダプタFlashPath (MAFP-2N)**
- 64MBスマートメディアまで対応
- DOS/V: Windows 95/98/NT4.0/2000 Peofessional
- PC-9821: Windows 95(OSR2以降)/98
- Power Macintosh: Mac OS 7.5.1～9.0（Read only)

● **スマートメディア・リーダ／ライタ (MAUSB-2)**
- 64MBスマートメディアまで対応
- Windows 98/2000 Professional、Mac OS 8.6～9.0用

別売品の最新情報については、オリンパスホームページ(http://www.olympus.co.jp)をご覧ください。

画像ファイルの互換性について

このカメラで撮影した画像を、他のオリンパスデジタルカメラで再生・印刷する場合、及び他のオリンパスデジタルカメラで撮影した画像を、このカメラで再生する場合は、以下のような制限がありますのでご注意ください。

このカメラで撮影
他のカメラで再生・印刷

他のカメラ	液晶モニタ再生	ダイレクトプリント(P-300/P-150接続時)
C-990ZOOM	○ 注1	×
C-3000ZOOM	○	×
C-3030ZOOM	○	×
C-960ZOOM	○ 注1	×
C-860L	○ 注1	×
C-21T.commu	○ 注1	×
C-2020ZOOM	○ 注1	○
C-2500L	○	×
C-21	○ 注1	○
C-920ZOOM	○ 注1, 注2	○
C-2000ZOOM	○ 注2	○
C-900ZOOM (D-400ZOOM)	×	×
C-830L	×	×
C-840L (D-340L)	×	×
C-820L (D-320L)	×	×
C-420L	×	×
C-1400XL	×	×
C-1400L	×	×
C-1000L	×	×

注1： 画像サイズによっては、サムネイル再生のみになります。
注2： TIFFは再生できません。

画像ファイルの互換性について（つづき）

他のカメラで撮影
このカメラで再生

他のカメラ	液晶モニタ再生
C-990ZOOM	○
C-3000ZOOM	○
C-3030ZOOM	○
C-960ZOOM	○
C-860L	○
C-21T.commu	○
C-2020ZOOM	○
C-2500L	○
C-21	○
C-920ZOOM	○
C-2000ZOOM	○
C-900ZOOM （D-400ZOOM）	○
C-830L	○
C-840L （D-340L）	○
C-820L （D-320L）	○
C-420L	○
C-1400XL	○
C-1400L	○
C-1000L	○

仕様

形式	デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式 　静止画 　静止画音声 　動画	 デジタル記録、JPEG（DCF準拠)、 TIFF非圧縮/DPOF対応 Waveフォーマット準拠 QuickTime Motion JPEG に準拠
記録媒体	3V（3.3V）スマートメディア2MB、4MB、8MB、 16MB、32MB、64MB
記録コマ数 （8MBカード使用時）	音声記録なしのとき 約1枚（TIFF：1600 X 1200) 約5枚 (SHQ) 約16枚 (HQ) 約38枚 (SQ：1024 X 768標準) 約82枚 (SQ： 640 X 480標準)
消去	1コマ消去、全コマ消去
撮像素子	1/2型(インチ)CCD固体撮像素子 211万画素(総画素数)
記録画素数	1600×1200ピクセル（TIFF/SHQ/HQ） 1280×960ピクセル（TIFF/SQ） 1024×768ピクセル（TIFF/SQ） 640×480ピクセル（TIFF/SQ）
ホワイトバランス	フルオートTTL(iESPオート)、 プリセット(晴天、曇天、電球、蛍光灯)
レンズ	オリンパスレンズ：7.0～70.0mm、F2.8 ～ F3.5、 10群13枚(35mmフィルム換算38～380mm相当)
測光方式	撮像素子によるデジタルESP測光および中央重点測光／ スポット測光
露出制御方式 (撮影モード) 　絞り 　シャッター 　　静止画 　　動画	プログラム自動露出、絞り優先自動露出、 シャッター優先自動露出、マニュアル露出、 シーンプログラム露出 W ：F2.8～F8.0 T ：F3.5～F8.0 メカニカルシャッター併用 1/2 ～ 1/800秒 (マニュアル設定時は16 ～ 1/800秒) 1/30 ～ 1/10000秒

仕様（つづき）

撮影範囲	W:　0.6m～∞（通常モード） 　　0.1m～0.6m（マクロモード） T:　2.0m～∞（通常モード） 　　1.0m～2.0m（マクロモード）
ビューファインダ	0.55型（インチ）TFTカラー液晶（低温ポリシリコン）、約114000画素
液晶モニタ	1.8型(インチ)TFTカラー液晶(低温ポリシリコン)
モニタ画素数	約114000画素
オンスクリーン表示	日付時刻、コマ番号、プロテクト、画質モード、電池残量、画像情報、プリント予約、メニュー設定、合焦マーク、フラッシュ発光予告マーク、オートフォーカスマーク他
フラッシュ充電時間	約6秒(常温時、新品電池使用)
フラッシュ撮影範囲	W：約0.3m～4.0m T：約1.0m～3.2m
フラッシュモード	オート発光(低輝度時自動発光、逆光時自動発光)、 赤目軽減発光、強制発光、発光禁止
コントロール パネル表示	画質モード、撮影可能枚数/時間、カード警告、 フラッシュモード、フラッシュ露出補正、電池残量、連写、AF連写、露出補正、スポット測光、測光方式、マニュアルホワイトバランス、ISO感度、セルフタイマー／リモコン、その他
オートフォーカス	TTL方式iESP AF、スポットAF コントラスト検出方式／焦点調節範囲：0.1m～∞ AFイルミネータ有効距離目安：0.3m～3.0m
セルフタイマー	作動時間約12秒
外部コネクタ	DC入力端子、データ入出力端子 (RS-232C)、 A／V出力端子 (NTSC方式)、USB接続端子（USB1.0準拠）外部フラッシュ端子、外部マイク端子
日付・時刻	画像データに同時記録
自動カレンダー機能	2030年まで自動修正
カレンダー用電源	内蔵リチウム二次電池

カード機能 (パノラマ以外は機能付スマートメディア使用)	パノラマ合成、テンプレート合成、カレンダー合成、 手書きタイトル合成
使用環境 　温度 　湿度	 0～40℃(動作時)／－20～60℃(保存時) 30～90%(動作時)／10～90%(保存時)
電源	電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック2個、あるいは単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用。 マンガン電池は使用できません。 AC アダプタ（別売）
大きさ	幅112.5mm 高さ77.5mm 厚さ141mm(突起部含まず)
質量	540g(電池／カード別)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

用語解説

画素数 ••••••••••••••••••••••
画像を形成する最小単位の点を指す。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

銀塩写真 •••••••••••••••••••
ハロゲン化銀を使った映像記録のシステムをいいます。スチルビデオやデジタル方式の写真に対して使われています。

けられ ••••••••••••••••••••••
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

コントラスト検出方式 •••••••••••
被写体までの距離を測るのに、使用している方法。被写体のコントラストの大小を検出することで、ピントがあったかどうかを検出します。

絞り ••••••••••••••••••••••
レンズをとおして入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを、開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

シンクロ端子 ••••••••••••••••••
外部フラッシュにあるカメラとの接続のための端子。

バックライト ••••••••••••••••••
液晶モニタが見えるように照らすための光源。

フラッシュブラケット •••••••••••
フラッシュとカメラを連結させる器具。

リングフラッシュ •••••••••••••
フラッシュの発光体であるクセノン管を、ちょうど蛍光灯のサークラインのように、リング状にしたフラッシュ。

露出 ••••••••••••••••••••••
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を、調節して露出を決めます。

アルファベット順

A モード ••••••••••••••••••••
(aperture priority mode)
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッタースピードを変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AE •••••••••••••••••••••••
(automatic exposure)
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッタースピードをカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッタースピードをカメラに任せるAモード、シャッタースピードを決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードには、絞り値とシャッタースピードの両方を決める必要があります。

CCD ••••••••••••••••••••••
(charge coupled device)
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。このカメラでは、211万個の点で受けてRGBの信号に変換して一つの画像を作り出します。

DCF •••••••••••••••••••••
(design rule for camera file system)
日本電子工業振興協会(JEIDA)で制定された、画像ファイルに関する規格。

**DPOF ••••••••••••••••••••••
(digital print order format)**
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。撮影したい画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応のプリントアウトサービスや、家庭でのプリントアウトを自動で行うことができます。

**デジタルESP測光 •••••••••••••
(electro selective pattern)**
分割測光素子によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

**EV ••••••••••••••••••••••••
(exposure value)**
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO ••••••••••••••••••••••••
国際標準化機構(ISO)の規格で決められた、フィルム感度の表示法。「ISO 100」と表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

**JPEG ••••••••••••••••••••••
(joint photographic experts group)**
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ/HQ/SQに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見れます。

**Mモード •••••••••••••••••••
(manual mode)**
シャッタースピードと絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

**Pモード •••••••••••••••••••
(program mode)**
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッタースピードを設定して撮影するモード。

**Sモード •••••••••••••••••••
(shutter speed priority mode)**
シャッタースピード優先AEモード。シャッタースピードを自分で決め、カメラがシャッタースピードにしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

**TIFF •••••••••••••••••••••
(tagged image file format)**
モノクロやカラーの画像データを保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。

**TFT (thin-film technology)
カラー液晶モニタ ••••••••••••••**
薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL (through-the-lens)方式 ••••
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

TTL-AUTO •••••••••••••••••
外部フラッシュの機能。ストロボから発光された光を、撮影レンズを通してカメラの受光体で受け、この光量調節信号をストロボ本体に発信して、発光量をコントロールする方式。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

アルファベット順

OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

札　幌	011-231-2338	金　沢	076-262-8259
仙　台	022-218-8437	大　阪	06-6252-0506
新　潟	025-245-7343	高　松	087-834-6180
松　本	0263-36-2413	広　島	082-222-0808
東　京(八王子)	0426-42-7499	福　岡	092-724-8215
静　岡	054-253-2250	鹿児島	099-222-5087
名古屋	052-201-9585	沖　縄	098-864-2548

※上記のアクセスポイントまでお電話いただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます（アクセスポイントまでの電話料金はお客様負担となります。）なお、調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　10：00～17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

※オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jp でデジタルカメラ及び関連製品の情報の提供をしております。

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1丁目2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1丁目13-4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒950-0087	新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
松　本	〒390-0815	松本市深志1の2の11　松本昭和ビル	Tel.0263(36)5331
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
金　沢	〒920-0961	金沢市香林坊1の2の24　千代田生命金沢ビル	Tel.076(262)8257
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
高　松	〒760-0007	高松市中央町11の11　高松大林ビル	Tel.087(834)6166
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0001	福岡市中央区天神1の14の1　日本生命福岡ビル	Tel.092(761)4466
鹿児島	〒892-0846	鹿児島市加治屋町12の7　日本生命加治屋町ビル	Tel.099(225)1105
沖　縄	〒900-0015	那覇市久茂地3の1の1　日本生命那覇ビル	Tel.098(864)5396

VT1513-04